

令和元年度南部圏域課題解決プラン
実施結果及び評価(案)



1 強靱・安心を実現する地域づくり

(1) 強く・しなやかな地域社会の構築

【プラン1】すべての命を守り・つなぐソフト対策の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取り組み

ア 地域防災を担う人材の育成	イ 関係機関との連携・協働による防災訓練等の実施
ウ 災害に備えた応援体制の充実	エ 災害時を見据えた健康な地域づくり
オ 要配慮者支援対策の推進	カ 災害医療力の強化
キ 山地災害の危険性の高い地域の調査や点検の実施	ク 全ての水位周知河川における「洪水浸水想定区域図」の策定
ケ 全ての水位周知河川における「洪水タイムライン」の策定	コ 避難行動促進のための水位情報の発信
サ 土砂災害警戒区域の指定	シ 地域におけるきめ細やかな雨量情報を提供
ス BCP（事業継続計画）の策定・実践力向上	

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>「迎え撃つ！防災減災県南プログラム」に基づき、市町との指揮機関訓練の実施などにより防災関係機関との連携強化を図るとともに、「とくしま-0（ゼロ）作戦防災出前講座」・ワークショップ等の実施、「防災旬間事業」における「防災まつり」の開催などにより地域住民への防災教育・啓発に取り組み、地域防災力の強化が進んでいる。</p> <p>要配慮者支援対策としては、一般避難所運営に携わる関係者向けの研修会や福祉避難所運営に携わる施設職員等関係機関対象の研修会、また、重症難病患者を対象とした災害避難訓練を行い、個別計画の策定数が増加するとともに、要配慮者にやさしい避難所の設置・運営に対する理解が深まった。</p> <p>災害医療力強化のためには、南部圏域の災害時コーディネーター等を集めた研修会・調整会議を開催し、災害時コーディネーターを中心とした連携強化を図り、災害時医療救護体制の向上が図られた。</p> <p>また、災害から生命と財産を守るため、山地防災ヘルパーが新たに2人追加され、山地に起因する災害情報収集が迅速化されている。</p> <p>水位周知河川（6河川）においては、「洪水浸水想定区域図」の策定、「洪水タイムライン」の策定が完了し、住民の避難意識の醸成が進み、地域の災害対応能力が向上した。</p> <p>さらに、土砂災害警戒区域の指定が完了し、住民の土砂災害の危険性に対する認識の向上につながった。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17 (H29) 実績	'19 (R1)	'20 (R2)	'21 (R3)	'22 (R4)	'19 (R1) 達成度
小・中・高校生を対象にした防災講座等実施回数 <'17> 34回 → <'22> 40回以上	34回	40回以上 53回	40回以上	40回以上	40回以上	◎
医療救護活動訓練の実施市町数 <'17> - → <'22> 2市町	-	2市町 2市町	2市町	2市町	2市町	◎
災害の危険性が高い山地災害危険地区の調査・点検パトロールの実施箇所数 <'17> 61箇所 → <'22> 60箇所	61箇所	60箇所 72箇所	60箇所	60箇所	60箇所	◎

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
山地防災ヘルパーの認定者数(累計) '17) 36人 → '22) 45人	36人	41人 41人	43人	45人	45人	◎
全ての水位周知河川における「洪水浸水想定区域図」の策定(累計) '17) - → '19) 6河川	-	6河川 6河川	-	-	-	◎
全ての水位周知河川における「洪水タイムライン」の策定(累計) '17) 1河川 → '19) 6河川	1河川	6河川 6河川	-	-	-	◎
危機管理型水位計の整備(累計) '17) - → '19) 9箇所	-	9箇所 9箇所	-	-	-	◎
土砂災害警戒区域の指定率(累計) '17) 53.3% → '19) 100%	53.3%	100% 100%	-	-	-	◎
マイナンバーカード利用によるPHR(Personal Health Record)の活用推進 '17) - → '22) 推進	-	推進 推進				-

主要施策・主要事業	令和元('19)年度実施状況及び成果	評価	担 当
【施策①】 切迫する南海トラフ巨大地震や頻発・激甚化する風水害に備えるため、これまでの教訓を踏まえながら、避難力の向上や女性・要配慮者への配慮を含む避難生活におけるQOLの向上、防災教育・啓発、各種防災訓練など、「迎え撃つ！防災減災県南プログラム」を着実に推進し、防災減災対策の強化を図る。 (ア、イ、ウ)	■令和元年度取組 防災出前講座(実施回数119回・受講者数10,262人)や防災フィールドワーク(美波町由岐地区)の実施、地域イベント等の防災ブース出展などを防災教育・啓発の取組を行った。 また、避難力の向上・避難生活の向上の取組として、避難所開設運営訓練(牟岐小・中学校)、防災キャンプ(那賀町等)、避難所運営ゲーム(HUG)の実施などを行ったほか、市町と連携した市町指揮機関訓練など防災訓練を実施した。 ■成果 防災出前講座の実施などの取組により「迎え撃つ！防災減災県南プログラム」が推進され、防災減災対策の強化につながった。	A	南部総合県民局 政策防災部
【施策②】 災害時の「防災拠点」として、また平時は防災啓発を行うなど、地域住民の防災意識の高揚や防災知識の普及活動の場として、南部防災館の利活用を図る。 (ア)	■令和元年度取組 南部防災館を利用した防災講座(97講座、受講者3,892人)等を開催した。 ■成果 防災講座等の実施により、地域住民の防災意識の高揚や防災知識の普及につながった。	A	南部総合県民局 政策防災部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 巨大地震による津波被害を軽減する海岸防災林について、県南地域の住民との協働による保護・管理活動を実施する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 海陽町「大里松原」の海岸防災林において、海陽中学校生や地元住民、海部森林組合などと協働・連携して、クロマツ植樹による海岸林を造成し、保護・管理活動を実施した（R2.2.21，70人参加）。</p> <p>■成果 海岸防災林の保護・管理活動の実施により、海岸防災林の整備が推進された。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策④】 専門知識を有する人材や県職員が講師となり、次世代の防災を担う人材の育成や自主防災組織活動の活性化のため、学校や地域、自主防災組織を対象とした、防災教育・防災啓発を実施する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 防災専門家による公開講演会を開催したほか、南部圏域の小・中・高校生を対象した防災出前講座（まなぼうさい教室）の開催（実施回数53回（目標40回以上））など、学校、自主防災組織等に県職員を講師として派遣し、防災教育・防災啓発を行った。</p> <p>■成果 防災出前講座（まなぼうさい教室）等の開催により、次世代の防災を担う人材育成につながった。</p>	A	南部総合県民局 政策防災部
<p>【施策⑤】 南部圏域内で開催される各種イベントにおいて、防災減災の要素を加えるなど、様々な場を活用し、広く防災教育・防災啓発を行う。 (ア)</p>	<p>■令和元年度実績 南部圏域で開催された</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Exciting Summer in WAJIKI ・ナカまつり ・阿南市こどもフェスティバル <p>などのイベントにおいて防災ブースを出展した。</p> <p>■成果 南部圏域で開催されたイベントにおける防災ブース出展により、地域住民が身近に防災に触れる機会を創出することができた。</p>	B	南部総合県民局 政策防災部
<p>【施策⑥】 防災関係機関と連携した実践的な防災訓練の展開や、市町・地域、事業所等が実施する各種防災訓練への参加・支援を通じ、南部地域の防災力向上を図る。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 南部圏域内の防災関係機関と連携し、市町指揮機関訓練（図上訓練）を阿南市・那賀町・海陽町において実施したほか、地域住民が参加した避難訓練の開催（牟岐町）、学校（阿南高専）・事業所（Jパワー等）が行う防災訓練の支援などを実施した。</p> <p>■成果 防災関係機関の連携による実践的な訓練の実施等の取組により、南部地域における防災力向上を推進できた。</p>	A	南部総合県民局 政策防災部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑦】 多くの地域住民にとって防災減災を考える機会となるよう、様々な展示・体験を用意した防災イベントを防災関係機関と連携し実施する。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 「防災旬間事業」においては、市町・警察・消防・自衛隊・気象台などの防災機関が連携し、地域住民が参加できる「災害対応車両の展示」、「防災演奏会」、「救急救命体験」等の展示・体験型のイベントとして、牟岐町において「防災まつり」を実施した。 ■成果 「防災まつり」においては、地域住民約500名が参加。 様々な展示・体験により、地域住民の防災減災を考える機会の創出ができた。</p>	A	南部総合県民局 政策防災部
<p>【施策⑧】 休日等勤務時間外における緊急事態や災害発生時の応急対応のため、配備編成計画の作成、初動要員及び市町派遣職員の指定を行うとともに、研修の実施等、職員の災害対応力向上に努める。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 休日等勤務時間外の災害等の対応については、配備編成計画を策定を行い、初期体制を構築するための幹部職員参集要領を定めている。 また、応急対応のための「特別初動要員」として24名、市町との連絡調整を行う市町派遣職員として40名の職員に対して指定を行い、職員に対しては研修等を行った。 ■成果 指定職員への研修等により、職員の災害対応能力向上につながった。</p>	A	南部総合県民局 政策防災部
<p>【施策⑨】 非常時における防災関係機関等との円滑な情報共有のため、衛星携帯電話など通信端末の整備による、通信手段の複数化や、災害時情報共有システムの有効活用など、情報連絡体制を充実させる。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度実績 非常時における防災関係機関との情報共有のため ・衛星携帯電話 ・デジタル無線機（電話・メール） ・衛星系防災行政無線（電話・FAX・インターネット） などを整備し、通信手段の複数化を構築している。 また、台風等の災害発生時には災害時情報共有システムを活用した情報共有の取組を行うとともに、平常時には、防災関係機関との間で通信訓練を行うなど、情報連絡体制の充実を図っている。 ■成果 防災関係機関との通信訓練などにより連絡体制の充実につながった。</p>	B	南部総合県民局 政策防災部
<p>【施策⑩】 「フレイル（虚弱）予防」の観点から、避難生活における高齢者支援について学ぶ研修会を開催するとともに、快適なトイレ環境とエコノミークラス症候群予防等を併せた「健康避難生活」の普及啓発を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 出前講座、イベント会場における普及啓発を実施（年5回）した。新型コロナウイルス感染症のため、研修会は中止となった。 ■成果 普及啓発により、住民へ情報提供ができた。</p>	B	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策⑪】 災害発生時の避難の際に配慮を要する避難行動要支援者の個別の避難を支援する「個別計画」の策定を推進するため、管内5市町と連携し、要配慮者対策会議等を開催し、市町の個別計画策定を支援する。 また、市町等との実践訓練を通じて、災害時における高齢者や母子、障がい者などの要配慮者にやさしい避難所の設置・運営を推進する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 新型コロナウイルス感染症対策のため要配慮者対策会議の開催は中止となったが、各市町の取組状況等をそれぞれ聞き取り、「個別計画」策定促進に向け情報提供を行った。 また、高齢者や障がい者などの要配慮者を考慮した避難所運営を推進するため、中学生等に高齢者疑似体験（参加者38名）やVR技術を活用した認知症体験（参加者40名）を実施するとともに、一般避難所運営に携わる関係者向けの研修会（参加者83名）や福祉避難所運営に携わる施設職員等関係機関対象の研修会（参加者22名）を開催した。 また、重症難病患者を対象とした災害避難訓練を実施した。</p> <p>■成果 ・個別計画策定促進に向け管内市町間の情報共有が図られるとともに、策定者数は対前年比19.7%増となった。 ・研修や訓練等により、要配慮者にやさしい避難所の設置・運営に対する理解が深まり、災害対応能力の向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑫】 災害発生時に被災者に適切な治療や医薬品の提供を行うため、マイナンバーカード利用による個人の医療・健康等データ（PHR：Personal Health Record）を活用できる仕組みの構築を推進する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 令和3年3月からのマイナンバーカードの「健康保険証利用」を見据え、さらなるカードの取得促進を図るため、 ・市町村共同での「マイナンバーカード普及促進キャンペーン」 ・シルバー大学校と連携した「県民向け出前講座」の開催 ・「ケーブルテレビ番組」の制作・放送 に取り組んだ。</p> <p>■成果 マイナンバーカード交付実績（県内） H30年度末：78,481枚（10.4%）→R元年度末：95,920枚（12.8%）</p>	B	Society5.0推進課
<p>【施策⑬】 災害時コーディネーターを中心に、災害拠点病院などの医療機関と連携した訓練を実施するとともに、市町に設置される医療救護所と関係機関との医療救護活動における連携体制の強化を図る。 (カ)</p>	<p>■令和元年度取組 徳島県総合防災訓練に参加し、保健医療調整本部運営訓練、及び阿南市避難所開設・運営訓練の支援を行い、災害時の医療救護体制の向上に努めた。 また、南部圏域の災害時コーディネーター等集めた研修会、調整会議を開催し、連携強化を図った。</p> <p>■成果 訓練を通じ、災害対応能力の向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑭】 台風豪雨やゲリラ豪雨による土砂災害から生命・財産を守るため、治山施設や地すべり防止施設等を整備するとともに、山地災害の危険性が高い地域の調査やパトロールを実施し、人的災害ゼロを目指す。 (キ)</p>	<p>■令和元年度取組 近年、台風による集中豪雨や線状降水帯による豪雨が頻発していることから、災害時要配慮者施設（幼稚園・老人ホーム等）に隣接する地域や山地に起因する災害が発生した地区などを重点的に調査・点検し、併せて地域住民への啓発活動を行った。 ■成果 山地災害危険地区等の調査を、美波管内42箇所、那賀管内30箇所、計72箇所を実施した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑮】 山地災害に関する情報収集の迅速化や地域住民に対する防災啓発を推進するため、地域に密着した山地防災ヘルパーの認定を推進する。 (キ)</p>	<p>■令和元年度実取組 5月20日～6月30日の「徳島県山地災害防止キャンペーン」期間中において、山地防災ヘルパーと共に山地災害危険地区のパトロールを実施した。 ■成果 山地に起因する災害情報や情報収集をより迅速化し、地域に密着した山地防災ヘルパーを新たに2名（美波管内1名・那賀管内1名）認定した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑯】 適切な避難場所の設定や円滑かつ迅速な避難のための措置を講じ、一層効果的な住民避難を確保するため、「想定し得る最大規模の降雨」を前提とした「洪水浸水想定区域図」の策定を推進する。 (ク)</p>	<p>■令和元年度取組 日和佐川における「洪水浸水想定区域図」を策定し、全6河川の策定が完了した。 ■成果 想定区域図を住民へ周知する事により、避難意識の醸成が図られた。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑰】 平時からの洪水への備えと住民の安全かつ確実な避難を確保するため、防災機関が連携し、地域における防災活動の迅速化など、災害対応能力の向上を図る「洪水タイムライン」の策定を推進する。 (ケ)</p>	<p>■令和元年度取組 桑野川、海部川、穴喰川、日和佐川における「洪水タイムライン」を策定し、全6河川の策定が完了した。 ■成果 防災機関が活用することにより、地域における防災活動の迅速化など、災害対応能力が向上した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑱】 住民の避難行動を促し、人的被害の軽減を図る水位情報を発信するため、最新のIoTを活用した危機管理型水位計を設置し、河川の水位監視体制の強化を推進する。 (コ)</p>	<p>■令和元年度取組 危機管理型水位計を9箇所設置した。（阿南管内4箇所、那賀管内1箇所、美波管内4箇所） ■成果 河川の水位監視体制の強化が図られた。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑱】 土砂災害による被害から生命・財産を守るため、土砂災害警戒区域に関する情報を広く住民に周知し、同区域の指定を進めるとともに、きめ細やかな雨量情報を提供するIoT雨量計の設置を推進する。 (シ)</p>	<p>■令和元年度取組 土砂災害警戒区域等の説明会を実施し、警戒区域の指定を完了させた。（阿南管内1,289箇所、那賀管内959箇所、美波管内1,115箇所） また、IoT雨量計を設置する土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設等の調査・検討を実施した。 ■成果 警戒区域に関する情報を住民に周知することにより、土砂災害の危険性に対する認識の向上につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑳】 南海トラフ巨大地震による津波災害から農業の早期復興を図るため、管内土地改良区やJAによる「農業版BCP」の実践力向上の取組みを支援する。 (ス)</p>	<p>■令和元年度取組 令和元年12月11日に開催した「南部地域農業版BCP対策協議会」に管内関係土地改良区やJAが参加し、農業版BCPの内容の周知を行うとともに、大規模施設園芸におけるBCPについて講演を行った。 ■成果 早期の営農再開に向けた知識・実践力の向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農林水産総合技術 支援センター 農山漁村振興課
<p>【施策㉑】 大規模災害時における橋港の機能継続計画（港湾BCP）（H27策定）、大規模災害時における浅川港の機能継続計画（港湾BCP）（H30策定）に基づき、平素から関係者相互の連絡系統の確立や継続的な活動を行う。 (ス)</p>	<p>■令和元年度実取組 橋港においては、徳島小松島港と合同で協議会（R2.1）を開催するとともに、図上訓練を実施した。 浅川港においては、事前対策として流出物の推定、水深確保状況把握、被害推定等を行った。 ■成果 港湾BCP（機能継続計画）の実効性が向上した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策㉒】 県内企業における災害時のBCP（事業継続計画）について、大学や商工団体等と連携した研修・指導や認証制度の運用等により、策定を促進する。 (ス)</p>	<p>■令和元年度実績 商工団体の相談支援体制（徳島経済産業会館内にある「とくしまBCP支援センター」）を充実させるとともに、より一層の連携のもと、BCP策定相談や防災対策のための融資制度の紹介などを行った。 「徳島県企業BCP認定制度」について、引き続き制度の運用を行い、県内企業におけるBCPの策定を促進した。 ■成果 3社策定</p>	A	商工政策課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●防災に対する共通理解を深め、有事の際の避難行動などに生かすため、「広報あなん」を活用し、様々な情報を提供する。また、地元自主防災会での防災訓練、防災講座等に参加し、防災意識の高揚を支援するとともに、訓練・講座等の実施に際し、補助金を交付する。</p> <p>●自主防災組織の組織率100%を目指す。また、公民館を単位とした市内14地区に自主防災会連合会を結成し、各地域の自主防災組織間の連携を図り、地域の防災力の向上を図る。</p> <p>●地域防災計画やハザードマップ等に基づき、多種多様な災害に対応した総合的かつより有効な防災体制の確立を図る。また、社会・経済の変化に即し、消防体制、救急・救助体制の充実強化や、住民一人ひとりの防火・防災意識の高揚による予防対策の充実に努め、安全・安心で災害に強いまちづくりを目指す。</p>	<p>●定期的に「広報あなん」へ防災情報を掲載し、情報を提供した。地元自主防災会による防災訓練20回、防災講座11回に参加し、防災意識の高揚を図るとともに、補助金を交付することで、地元自主防災会に対する支援を行った。</p> <p>●現在、232の自主防災会があり、組織率は98.54%になっている。また、自主防災会連合会は10地区で結成されている。</p> <p>●ハザードマップ等を活用し、津波時における緊急避難場所や想定される浸水深にに応じた避難行動等について周知し、防災知識の向上を図った。また、見能林地区津波避難計画の作成にあたり、ワークショップを開催し、地域住民の防災意識の高揚に努めた。</p>	阿南市
<p>●自主防災組織の活動を充実・強化させるため、広報誌に組織の訓練等を掲載する。</p>	<p>●自主防災組織の訓練を各地区毎に実施した。徳島県総合防災訓練にも参加し活動を深めている。那賀町地域防災計画を変更し、自主防災組織の役割を具体化したので、今後の活動、訓練に生かしたい。</p>	那賀町
<p>●防災活動のリーダー、担い手を育成し、自主防災組織をはじめ各種団体との連携による防災体制の強化を図る。</p>	<p>●地域防災推進員養成研修の受講案内を自主防災組織に周知。</p>	牟岐町
<p>●自主防災会の充実、活性化の取組みに対して支援するため、徳島大学地域づくりセンターと連携し、地域に応じた防災活動の普及啓発を図る。</p> <p>●災害発生時に気象情報や勧告等の発令、現在地から避難場所の位置情報提供や被害状況の把握を行い住民の迅速な避難促進、二次災害から守るための防災アプリの整備を図る。</p>	<p>●徳島大学地域づくりセンターと連携し、地域の防災力向上に向けて、自主防災会の活動支援や防災活動の普及などを実施した。</p> <p>●防災アプリの整備を図った。</p>	美波町
<p>●住民・自主防災組織等を対象にした防災講座や防災訓練の実施、小中学校での防災教育等防災意識の高揚及び防災知識の普及活動を行う。</p> <p>●徳島県津波浸水想定を受けたハザードマップの作成、地域防災計画、町業務継続計画（BCP）の策定・運用を図る。</p>	<p>●住民及び自主防災組織等を対象に津波避難ワークショップ、HUG訓練、津波避難訓練を実施した。学校での防災講座のほか、自主防災組織のリーダー対象の防災学習会や各地域で開催された自主防災訓練に参加し、意見交換や講座を行うことで、住民の防災意識の普及啓発を行った。</p> <p>●洪水・土砂災害・津波ハザードマップの改訂を行った。また徳島県南部総合県民局、警察等の協力のもと、BCP訓練を実施し、南海トラフ巨大地震発災初期の情報活動や災害対応における災害対策本部の業務や活動について、課題や改善点などの検討を行った。</p>	海陽町

【プラン2】あらゆる自然災害を迎え撃つハード対策の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 避難場所や避難路の整備	イ 山地災害の未然防止対策
ウ 緊急輸送道路等の整備・倒木対策	エ 河川・海岸堤防等の地震・津波対策
オ 河川における浸水対策の推進	カ 海部川モデルの推進
キ 長安ロダムの本体改造の完成及び長期的堆砂対策の促進	ク 宍喰地区地域防災公園やそのアクセス道路の整備
ケ IoT・AI等を活用した戦略的なインフラのメンテナンス	

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		津波浸水被害の想定される沿岸部でのがけ崩れ対策と併せ、避難路を整備したほか、生命線道路等における事前伐採による倒木災害の未然防止、緊急輸送道路の整備等を推進した。 長安ロダムでは、放流設備の増設が完了し、令和元年度の出水期から運用が開始され、洪水調整能力が増強された。また、「長期的堆砂対策」については、工事着手に向け、トンネルなど構造物の設計が進められている。 豪雨による洪水被害から県民を守る予防的な治水事業として、支障樹木伐採、河道掘削により安全に洪水を流下させる浸水対策が強化されたほか、那賀川の加茂地区と和食・土佐地区において床上浸水対策特別緊急事業は完成間近となった。 また、海部川においては、河川堆積土砂の撤去から活用までを図る総合対策を実施するなど、「県土強靱化」実現に向けたハード対策が順調に進捗している。	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
那賀川加茂地区、和食・土佐地区の整備促進 〈'17〉 工事施工中 → 〈'20〉 完成	工事施工中	促進	完成			—
長安ロダムの本体改造の促進 〈'17〉 工事施工中 → 〈'19〉 完成	工事施工中	完成				◎
長安ロダムの長期的堆砂対策の促進 〈'17〉 事業着手 → 〈'22〉 工事促進中	事業着手	促進				—

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
【施策①】 津波避難困難地域解消のため、津波浸水被害の想定される沿岸部での「がけ崩れ対策」と併せ、避難場所・避難路の整備や砂防施設（管理道や作業ヤード等）を活用した避難場所等の創出を推進する。また、地震や台風による災害からの避難場所を確保する。 (ア)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 「がけ崩れ対策」と併せた避難路を5箇所整備し、69箇所整備予定のうち60箇所が完成している。（美波管内5箇所） 成果 避難路の整備により、避難場所等が確保された。 	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 那賀川や海部川など上流域における森林の公益的機能の維持増進を目的とした治山事業を推進する</p> <p>(イ)</p>	<p>■令和元年度取組 治山事業は、森林の維持造成を通じて山地に起因する災害から地域住民の生命・財産の保全を図る重要な国土保全政策となっていることから、山地において発生した崩壊地や荒廃溪流の復旧整備などを行った。</p> <p>■成果 治山事業を美波管内6箇所、那賀管内13箇所、計19箇所において実施し、森林の維持造成に努めた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 孤立集落の発生を防ぐため、倒木対策協議会（平成26年度設置）を通じ、生命線道路や緊急輸送道路において、台風や大雪等による倒木を防ぐ事前伐採を実施する。 また、発災時に緊急輸送路等の補完道となり得る農林道の整備を推進する。</p> <p>(ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 関係機関と連携し、緊急輸送道路及び生命線道路において事前伐採を実施した。（那賀管内2路線284本、美波管内1路線49本、阿南管内2路線12本）</p> <p>■成果 台風や大雨による気象災害による倒木災害の未然防止につながった。引き続き現地調査の上、優先箇所から事業実施を予定している。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 県土整備部
<p>【施策④】 津波迂回ルート設計等を進め、用地取得等が完了したところから工事を実施する。</p> <p>(ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 芥附海部線において、道路改良工事を実施するとともに、流路工及び床固工を実施した。</p> <p>■成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑤】 救命救急や防災活動を支援する緊急輸送道路などのインフラ整備を推進する。</p> <p>(ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 一般国道193号、195号他の緊急輸送道路において、用地買収及び拡幅工事等を実施した。</p> <p>■成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑥】 河川・海岸堤防等の地震・津波対策を推進する。</p> <p>(エ)</p>	<p>■令和元年度取組 那賀川や桑野川の国管理区間において、堤防の耐震化や液状化対策を実施した。 また、県管理の福井川、海部川の護岸や今津坂野海岸、日和佐港海岸、浅川港海岸などの堤防において、耐震化を実施し、日和佐港海岸の大浜防潮堤の補強工事が完成した。</p> <p>■成果 大浜防潮堤の補強完成により、津波被害の軽減が図れるとともに、より一層の安全性の確保につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑦】 河川・海岸における、陸閘・水門・樋門の自動化や統合による閉鎖を推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 浅川港海岸において、自動閉鎖陸閘を1基設置し、7基のうち5基が完成している。（H30までに中島港で6基、日和佐港海岸で1基の陸閘を閉鎖している） ■成果 陸閘の自動化により、操作性の向上が図れるとともに、迅速な閉鎖が可能となった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑧】 気候変動により頻発化・激甚化する水災害による被害を軽減するため、堤防強化、樹木伐採及び河道掘削等の安全に洪水を流下させる浸水対策を推進する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 水位周知河川など、治水上支障となる箇所の新樹木伐採、河道掘削を実施した。 ■成果 安全に洪水を流下させる浸水対策の強化につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑨】 平成26年8月、平成27年7月豪雨をはじめとする洪水被害から県民を守る予防的な治水事業として、那賀川加茂地区、和食・土佐地区等の県管理河川（重点対策河川）の整備を推進する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 那賀川の県管理区間の和食・土佐地区の床上浸水対策特別緊急事業において、一般国道195号小川橋や町道南川橋の橋梁上部、築堤・盛土や樋門工事など、県管理河川（重点対策河川）の整備を推進した。 ■成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑩】 県民の生命や財産を守るため、河川の堆積土砂を撤去から活用まで支援・管理する「海部川モデル」により、堆積土砂の総合対策を推進する。 (カ)</p>	<p>■令和元年度取組 3カ年緊急対策事業を活用し、治水上支障となる箇所の樹木伐採、砂利掘削を推進するとともに、新たな取り組みとして、「竹・樹木」の有効活用を検討した。 【堆積土砂撤去実績】 ・Aゾーン【下流域：公共工事での活用】 V=19,880m³ （河床掘削） ・Bゾーン【中流域：県民との協働事業】 V= 7,500m³ （民間に配布量） ・Cゾーン【上流域：民間による砂利採取】 V=32,000m³ （採取量） ■成果 「海部川モデル」を加速・進化させた。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑪】 直轄管理の長安口ダムにおいて、洪水調節能力の増強に向け、放流設備の増設を促進するとともに、長期的堆砂対策を促進する。 (キ)</p>	<p>■令和元年度取組 放流設備の増設が完了し、令和元年度の出水期から運用が開始された。また、「選択取水設備」の設置を終え、「ダム本体の新しいダム施設の運用」に向けて取り組んだ。 「長期的堆砂対策」については、工事着手に向け、トンネルなど構造物の設計が進められた。 ■成果 放流設備の運用が開始され、洪水調節能力が増強された。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑫】 阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備と合わせた穴喰地区地域防災公園へのアクセス道路の整備を推進する。 (ク)</p>	<p>■令和元年度取組 海部野根道路連絡調整会議を設置するとともに、アクセス道路の道路詳細設計、用地測量を実施した。 ■成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑬】 インフラの急速な老朽化による維持管理・更新費用の増大、担い手不足の懸念から、IoT・AI等を活用し、費用の平準化・縮減や作業の省人化、効率化を図るため、予防保全等の計画的なインフラのメンテナンスを推進する。 (ケ)</p>	<p>■令和元年度取組 加速度計やビデオカメラ等を搭載した道路パトロール車による路面点検の自動化やドローンによる橋梁点検の実証実験を実施した。 ■成果 新技術を活用した路面点検の自動化が県下全域に展開できた。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●住宅の耐震化の必要性及び支援制度を詳しく広報するとともに、耐震診断と耐震化を支援する。また、老朽化して危険な空き家・空き建築物の除却を推進する。</p>	<p><阿南> ●住宅耐震化に関する広報として、阿南市ホームページ、広報あなんへの掲載やCATVでの放送、戸別訪問による啓発を行った。 ●9月と2月を耐震化啓発強化月間と定め、市役所2階に、耐震シェルター（1/2縮尺型）を展示、耐震化の幟を掲げるなど、市民の住宅耐震化に関する意識の高揚を図った。 ●周知不足改善のため、来庁者に対してアンケートを実施し、周知方法の改善を検討した。 ●補助事業に関しては、耐震診断50戸、補強計画12戸、本格改修10戸、住替え支援14戸、除去支援活用による空き家の解体・除却10戸（事前調査申込件数47戸）を実施した。</p> <p><那賀> ●毎年、住宅の耐震改修補助について広報し、実施者を募っているがあまり成果がない。令和元年度は耐震シェルターが1件あったのみ。老朽危険空き家の除却補助については毎年需要が高く、令和元年は5件の補助を実施した。今後も、住宅の耐震化の必要性及び支援制度を詳しく広報するとともに、耐震診断と耐震化を支援する。また、老朽化して危険な空き家の除却を推進する。</p> <p><牟岐> ●耐震診断3戸、補強計画1戸、本格改修2戸、住み替え1戸、空き家除去16戸、空き家改修4戸を実施した。</p> <p><美波> ●『広報みなみ』や地域振興施策冊子での周知を図り、国及び県の補助事業に合わせ支援制度の見直し等を行った。 また、空き家総合窓口を設置し相談体制を整備することで、利活用可能家屋は移住者等へ紹介、危険老朽家屋については解体相談へ移管するなど行った。</p> <p><海陽> ●耐震化の必要性を町の広報紙により周知した。自主防災活動に参加し耐震化事業について説明した。</p>	<p>各市町</p>

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<ul style="list-style-type: none"> ●民間ビル所有者等との協定締結をはじめ避難場所の確保や整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たに3カ所を津波避難ビルとして使用する協定を締結し、避難場所の確保を図った。 	阿南市
<ul style="list-style-type: none"> ●指定避難所の耐震改修を順次促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定避難所である鷲敷中央公民館の耐震改修工事を起工し、現在も施工中。事業を繰越し令和2年度に完了予定。 	那賀町
<ul style="list-style-type: none"> ●津波避難ビルの追加指定、避難施設・避難経路の整備充実（誘導表示等）を図るとともに、避難計画の見直しを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●牟岐中学校に新たに備蓄倉庫を新設。 ●津波避難計画、津波避難マップを改訂。 	牟岐町
<ul style="list-style-type: none"> ●見直した避難場所、避難路の整備の充実（看板・防犯灯）を図るとともに、二次避難場所の整備を進める。 ●避難困難地域の津波避難タワーの整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●津波避難計画改定に伴い町内各所における看板の更新及び、緊急避難場所へ向かう避難路に蓄電式LED避難誘導灯の新規設置及び交換を行った。木岐地区（毛利宅裏避難場所）における、避難路を整備した。 ●津波避難タワーの整備を進めた。（令和3年度完成予定） 	美波町
<ul style="list-style-type: none"> ●緊急避難場所、避難路等の整備、備蓄倉庫の充実等計画的に実施する。 ●河川氾濫の原因となる河川に堆積した土砂を取り除き、増水時における安全性を確保できるよう県と連携して取組む。 ●消防団の車両・設備等を計画的に整備・充実し、地域防災力の強化を図る。 ●住宅の耐震診断・耐震改修や老朽危険空き家の取り壊しの支援を行う。 ●津波による分断・孤立が懸念される海陽町穴喰地区において、阿南安芸自動車道（海部道路）の整備に合わせて、防災拠点施設となる地域防災公園を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急避難場所の新設1カ所。避難路の整備5カ所。避難誘導灯の整備7カ所。備蓄倉庫・備蓄品の整備4カ所（テント、マット、ランタン、発電機、簡易トイレ等）。 ●河川に堆積した土砂及び樹木については、県と協力し海部川、穴喰川で取り除きを行った。 ●小型動力ポンプ付積載車を2台更新、地域防災力が強化された。 ●木造住宅耐震診断8戸、耐震改修事業2戸、耐震リフォーム支援事業1戸、老朽危険空き家取り壊し事業10戸について支援を行った。 ●穴喰地区防災公園の整備については、洪水調整池の工事に着手し、国、県と引き続き協議を行い造成工事の早期着工を目指す。 	海陽町

(2) 生涯健康で安全・安心できる暮らしの確保

【プラン3】「人生100年時代」を見据えた質の高い生活の確保

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取り組み

ア 医療提供体制の構築	イ 地域包括ケアシステムの深化・推進
ウ 健康寿命延伸に向けた健康づくり	エ 自殺予防対策の推進

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>学生実習に、災害医療体制・公衆衛生活動の講義・演習に加え、認知症サポーター養成講座のカリキュラムを取り入れ、将来、地域の保健医療活動を担う人材を育成したほか、在宅医療・介護コーディネート事業では、研修会や市町村支援を通じて医療と介護の連携強化を図ることで、地域包括ケアシステムの推進に寄与した。</p> <p>また、ヘルシーメニューを積極的に提供する「健康づくり推奨店」の増加により、健康的な食生活の実践に取り組みやすい環境づくりが進みつつある。</p> <p>自殺予防対策では、自殺対策シンポジウムや出前講座で旧海部町における自殺予防因子について、広く普及啓発に努め、自殺予防サポーターを養成するとともに、自殺予防対策会議等の開催により、関係機関と地域における自殺予防対策を積極的に推進した。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
認知症サポーター数（累計） 〈'17〉 10,256人 → 〈'22〉 16,800人	10,256人	13,500人 13,957人	14,600人	15,700人	16,800人	◎
栄養表示やヘルシーメニューの提供等に取り組む飲食店等（健康づくり推奨店）の登録数（累計） 〈'17〉 20店舗 → 〈'22〉 30店舗	20店舗	24店舗 24店舗	26店舗	28店舗	30店舗	◎
自殺予防サポーター数（累計） 〈'17〉 5,541人 → 〈'22〉 7,500人	5,541人	6,300人 6,908人	6,700人	7,100人	7,500人	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 南部圏域の公的医療機関が一体となった医療提供体制（海部・那賀モデル）において、医療従事者の相互交流及び協力、ICT活用によるネットワーク構築、治療材料・医療機器の共同調達等を推進する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 海部・那賀地域の各病院における現状及び課題を共有し、課題に対する解決策について協議する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため、協議会開催を延期している。</p> <p>■成果 「海部・那賀モデル」推進協定書に基づき、医療従事者の相互交流及び協力等引き続き実施できている。</p>	B	南部総合県民局 保健福祉環境部 医療政策課

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 小児医療電話相談（#8000）の利用促進のための周知を図り、活用していただき、保護者が安心して子育てができる環境整備を図る。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 チラシを関係機関に配布し、利用促進のための周知を行った。さらに、令和元年9月より全相談時間帯の2回線化を実施。 ■成果 安心して子育てができる環境の整備が進んだ。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部 医療政策課
<p>【施策③】 県民のさらなる健康向上や医療費の抑制を図るため、患者の診療情報を各医療機関、介護事業所及び薬局で共有化する「阿波あいネット」の機能拡充を図る。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 令和2年度末の完成を目標として、令和元年度は画像公開施設整備として既存EHRのバージョンアップ、画像Gatewayの導入を行った。 ■成果 令和2年度末の完成に向け、順調に推進している。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部 医療政策課
<p>【施策④】 県内3大学等から実習生を受け入れ、他職種連携による災害医療や地域包括ケアシステムの推進に重点をおいた臨地実習を行うことにより、将来の保健医療の中核を担う人材育成を図るとともに地域医療の充実を目指す。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 県内3大学及び富岡東高等学校専攻科・看護科等の学生実習（累計393名）を受け入れ、カリキュラムの中で、近年の地震等大規模災害の状況や、災害医療体制・公衆衛生活動についての講義、炊き出し実習の実施により、将来、地域の保健医療活動を担う人材育成に努めた。 ■成果 事業を通じ、将来の地域保健医療活動を担う人材の育成に繋がった。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑤】 人生の最期まで本人の生き方が尊重される医療・ケアに携わる医療・保健・介護分野の人材育成と、多職種連携を強化することにより、地域包括ケアシステムの推進を図る。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 在宅医療・介護コーディネーター事業にとりくみ、研修会の開催（年2回）及び市町村支援を実施した。 ■成果 事業を通じ、医療・保健・介護分野の従事者の人材育成に繋がった。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部 医療政策課 長寿いきがい課
<p>【施策⑥】 認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症サポーターを養成するとともに見守りや支援を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度とりくみ 各市町、各種団体や企業の協力のもと、認知症サポーターを養成し、また学生実習において認知症サポーター養成講座を実施するなど、若い世代に対する養成講座を実施した。 ■成果 若い世代に養成講座を実施し、正しい知識を普及啓発することができた。目標値について、達成することができた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部 長寿いきがい課 各市町

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑦】 長期の喫煙習慣が主な原因であるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）について情報提供を行い、受動喫煙防止や喫煙習慣の改善など健康づくり対策を推進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 学校・事業所等への出前講座や各種イベントの機会を捉え、ハイ・チェッカー（簡易肺年齢測定器）、パンフレット等を活用した健康教育を行い、たばこによる健康への影響やCOPDの予防・早期発見・治療につなげるための正しい知識の普及啓発を図った。また、地域職域連携推進協議会等において関係者へCOPDの認知度の向上や改正健康増進法の全面施行に向け受動喫煙防止対策に関する情報提供を行った。</p> <p>■成果 ハイ・チェッカーによる肺年齢測定の体験を通し、COPD認知度向上につながった。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑧】 栄養表示やヘルシーメニューの提供等に取り組む飲食店等（健康づくり推奨店）を拡大し、「食えること」から元気で活力ある地域づくりを推進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 ヘルシーメニューのうち、特に「野菜たっぷりメニュー」を積極的に提供する飲食店を募集・登録するとともに、外食においても健康づくりを推進できることを情報発信した。</p> <p>■成果 地域住民の食に対する知識や意識の向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑨】 「自殺予防サポーター」の養成に努めるとともに、関係機関と連携した自殺予防のための生き心地の良いまちづくりを推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 自殺予防対策会議や自殺対策関係職員スキルアップ研修会等を開催し、関係機関との連携強化を図った。また、旧海部町が日本で最も自殺率の低い町であるとの研究により見いだされた自殺予防因子について、講演会や出前講座等により普及啓発を行い、自殺予防サポーターを養成した。</p> <p>■成果 R1年度実績 662人養成</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●阿南医療センターの医師確保を図ることにより、救急医療体制を確立するとともに、災害拠点病院としての機能維持及び安定した経営基盤の確保に向け、必要な支援を行う。</p> <p>●すべての住民が住み慣れた家庭や地域社会で共に助け合い、しあわせに暮らすことができるよう、住民との協働のもとに地域福祉の体制の整備を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、誰もが住みやすいまちづくりを推進する。</p>	<p>●平成28年度に締結した補助金協定書に基づき、施設整備等に要した費用について補助金の支出を行った。 また、阿南医療センターに対して、医師確保や医師事務の負担軽減についても補助を行った。</p> <p>●住民との協働のもとでの地域福祉の体制整備については、権利擁護に重点を置き、認知症や知的障がいなどで判断能力に支援を必要とする人が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするための支援及び生活に困窮した方への自立に向けての支援を行なっている。令和元年度においても引き続き、下記既存事業の実施をしている。【実施主体：阿南市社会福祉協議会】 （既存事業） ①日常生活自立支援事業 ②生活福祉資金事業 ③心配事相談等 ④法人後見事業 【実施主体：阿南市社会福祉協議会】 ⑤生活困窮者自立支援事業 【実施主体：あなんパーソナルサポートセンター】</p>	阿南市
<p>●高台移転した県立海部病院等と連携し、地域医療の充実を図るためには医師の人材確保が不可欠である。牟岐町内医師流出を抑える施策を継続しながら連携強化を推進する。</p> <p>●町全体での見守り支援として、認知症サポーターの増加、生活支援体制を整備するとともに、医療と介護の連携を推進し地域包括ケアシステムの構築に向け内容の充実を引き続き図る。</p>	<p>●本年も補助金及びバザー収益金を財源として、ありがとう弁当やクリスマスケーキ等の差し入れ活動を行うことにより、顔の見える関係を築いている。</p> <p>●認知症サポーター養成講座を4回実施、111名が受講、生活支援体制整備には、専任担当者を置き地域の課題を発掘し、改善に取り組んだ。また、地域包括ケアシステムも出来上がり、より内容の充実が図られた。</p>	牟岐町
<p>●高台に移転した美波病院又津波への対策がされた医療保健センターを活用し、美波町における総合的、継続的な保健医療福祉サービス提供体制の確保を図る。</p>	<p>●医療、保健、福祉の連携・調整を図り、住民の視点に立ったサービスの提供に努めた。</p>	美波町
<p>●医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築を図るとともに、中山間地域における「小さな拠点（集落活動センター）」の整備を検討する。</p>	<p>●事業所・地域・学校等で計8回認知症サポーター養成講座を開催し、認知症サポーターを176人養成した。見守り事業者は1事業者増えて64事業者となり「日常業務の範囲内で自分たちに何ができるのかについて意見交換会」を開催し、生活支援体制について協議し顔の見える関係づくりを実施した。介護予防を目的とした体操教室を月2回、短期集中型の教室を1カ所開催し、体操の自主グループは1カ所増えて17カ所になった。</p>	海陽町

【プラン4】地域との協働による安全・安心な暮らしの確保

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 食の安全・安心の確保 ウ 児童虐待防止対策の推進	イ 消費者行政・消費者教育の推進 エ DV・性暴力被害に対する支援の充実
-------------------------------	---

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>HACCP講習会の開催や徳島県HACCP認証制度の周知、また関係団体と連携してHACCPアドバイザーの育成に努めることで、食品等事業者の自主的な衛生管理能力の向上を図り、県民の食の安全安心確保につながった。</p> <p>「とくしま政策研究センター」では、外国人観光客の受入態勢の整備に向けた外国人観光客の消費行動に関する満足度調査を行い、当事者間におけるトラブル事例や不満、要望などの課題を把握、分析するとともに、対応策を検討した。県南を訪れた外国人観光客の消費行動に対する不満や要望、トラブル事例について情報を収集することで、インバウンド受入の課題が明確になり、人材育成や環境整備等、今後の受け入れ体制の充実につなげることができた。</p> <p>児童虐待防止対策としては、要保護児童対策地域協議会の、実務者会議やケース会議を積極的に活用し、連携体制を強化。地域で児童虐待の予防や早期発見・早期介入が出来るよう、協議会参加者の意識の向上に努め、こどもの安全確保につながっている。</p> <p>女性からのDV等の相談や性暴力被害者支援については、警察や阿南市配偶者暴力相談支援センター等の関係機関との連携により、一時保護や自立支援を行うとともに、若年層を対象とした性暴力被害やデートDV防止の啓発を行い、被害者の希望やニーズに合わせた支援を提供できた。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17 (H29) 実績	'19 (R1)	'20 (R2)	'21 (R3)	'22 (R4)	'19 (R1) 達成度
学校安全ボランティアの登録数 '17 2,686人 → '22 2,000人以上	2,686人	2,000人以上 2113人	2,000人以上	2,000人以上	2,000人以上	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策①】 監視指導体制の強化による食品表示の適正化、徳島県HACCP認証の普及、HACCPアドバイザー育成による事業者の自主衛生管理の推進に努めるとともに、リスクコミュニケーション機会の提供による消費者と事業者間の相互理解の促進により、県民の食に対する安全安心の確保に努めます。</p> <p style="text-align: right;">(ア)</p>	<p>■令和元年度取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品製造業者や流通業者を対象とした監視活動、また、飲食店営業者を対象とした立入検査を実施し、産地偽装等不適正な食品表示の防止に努めた。 ・また、HACCP普及を推進するため、講習会を開催し、食品関係事業者へ徳島県HACCP認証制度の周知を図るとともに、食品事業者団体と連携し、HACCPの助言・指導のための人材（HACCPアドバイザー）育成に努め、事業者の自主衛生管理を推進した。 <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店6軒に対し立入検査を実施。 ・講習会には419名が受講し、HACCPについて理解を進めるとともに、「徳島県HACCP認証」を新たに2施設が4認証区分で取得。また、HACCPアドバイザーとして新たに11名を認定し、小規模事業者の自主衛生管理を推進した。 <p>これらの取組により、県民の食に関する安全安心の確保につながった。</p>	A	<p>南部総合県民局 地域創生部 保健福祉環境部 安全衛生課</p>
<p>【施策②】 地域の課題解決につながる政策提言を行う「とくしま政策研究センター」（県立総合大学校）において、「消費者行政・消費者教育」をテーマとした調査研究を実施する。</p> <p style="text-align: right;">(イ)</p>	<p>■令和元年度取組</p> <p>「ワールドマスタースゲームズ2021関西」や「大阪・関西万博」の開催など、南部圏域において今後、インバウンド需要の増加が見込まれる。「とくしま政策研究センター」において、外国人観光客の受入態勢の整備に向けた外国人観光客の消費行動に関する満足度調査を行い、当事者間におけるトラブル事例や不満、要望などの課題を把握、分析するとともに、対応策を検討した。</p> <p>■成果</p> <p>県南を訪れた外国人観光客の消費行動に対する不満や要望、トラブル事例について情報を収集することができ、インバウンド受入の課題が明らかとなった。</p>	A	<p>南部総合県民局 地域創生部 県立総合大学校本部</p>

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策③】 圏域内で市町に設置された見守りネットワークが実効性のある活動を継続するための情報提供や研修、事業者の消費者志向経営を推進するとともに、若年者の消費者教育の充実に努めます。また、消費生活相談員の育成及び市の消費生活センター相談員の資質向上への支援による相談体制の強化に努めます。</p> <p style="text-align: right;">(イ)</p>	<p>■令和元年度取組 多様化する高齢者等の消費者被害防止を図るため、見守りネットワークの活動をさらに活性化させることを目的とした研修会を開催し、ケーススタディや情報共有等を行った。 消費者志向経営推進シンポジウムやセミナーを開催し、事業の取組を発表するとともに、消費者志向自主宣言事業者数の増加に努めた。 若年者の消費者教育については、高校生向け教材「社会への扉」や徳島発「中学生向け消費者教育教材」を活用した公開研究授業を行ったほか、徳島発「小学生向け消費者教育教材」等を作成し、令和4年度からの成年年齢引下げに対応した消費者教育を推進した。 消費生活相談員の育成に向け消費生活相談員等養成講座を開催したほか、市の消費生活センターと日頃から情報交換を行うとともに、相談員懇談会を開催するなど、相談体制強化に向けた取組を推進した。</p> <p>■成果 ・R2.1.17に見守りネットワーク研修会（南部）を開催し、参加者の見守り活動のスキル向上につながった ・県内の消費者志向自主宣言事業者数が前年度比4増の33事業者となった。 ・消費者教育の推進により、学生の消費者行動への理解促進につながった。 ・消費生活相談員養成講座を計16回開催し、受講者の中から14名が合格した。また、相談員懇談会の開催(R1.7.1)、阿南市消費生活センターの訪問(R1.7.12)などにより県市の連携が図られ、消費者の相談体制が強化された。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 消費者くらし 政策課
<p>【施策④】 妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援を行うために、要保護児童対策地域協議会を中心とした関係機関との連携を密にし、子どもの安全を最優先にした対応を図る。</p> <p style="text-align: right;">(ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 各市町の要保護児童対策地域協議会を中心として、関係機関で連絡を取り合いながら、こどもの安全確保や支援に繋げた。また、県と市町の役割分担を明確にするとともに、関係機関での連絡・連携を強化し、児童や保護者に対する支援のあり方に関して、理解を深めた。</p> <p>■成果 虐待ケースについて、一時保護等の対応が迅速に出来るようになり、こどもの安全確保につながっている。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑤】 地域住民の積極的な参加による防犯・交通安全・防災の総合的な学校安全ボランティア活動の支援を行い、幼児、児童、生徒の安全確保を図る。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 全ての小学校区に学校安全ボランティアを配置し、危険箇所の確認や立哨による交通指導など、登下校時の見守り活動を中心に取り組んだ。 ■成果 幼児、児童、生徒の安全確保が図られ、地域での重大事故・事件等は発生していない。</p>	A	教育委員会
<p>【施策⑥】 DVの早期発見や発生防止を図るため、講座やパネル展など啓発活動を実施するとともに、阿南市配偶者暴力相談支援センターやDV被害者等支援ネットワーク等関係機関との一層の連携を図る。また、DV被害者の視点に立った相談・保護を実施し、自立支援を促進するとともに、児童相談と連携し、DVのある家庭で育つ子どもへの支援を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 若年層を対象としたデートDV防止や性暴力被害防止の啓発用動画・リーフレット（H30作成）を活用し、養成した「こころの居場所づくりメンター」（24名）とともに、高校・高専文化祭（富岡東高校羽ノ浦校、阿南高専）や阿南市人権フェスティバル等での広報啓発活動を実施した。 また、阿南市配偶者暴力相談支援センターや関係機関との連携強化を図るため、「DV被害者等支援ネットワーク研修会」を開催し、DV被害者の現状や支援のあり方について理解を深めた。 さらに、DV家庭の母子については、児童相談担当と連携し、必要に応じて情報共有を行いつつ、相談・保護・自立支援を実施した。 ■成果 DV被害者等支援ネットワーク研修会では、南部圏域の関係機関等担当者38名が出席。DV被害者への切れ目ない相談・支援のため、グループワーク等でそれぞれの役割に応じた緊密な連携についての共通認識が図られ、迅速・適切な支援につながった。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑦】 性暴力被害者支援センター「よりそいの樹とくしま（南部）」の定着を図るため、相談窓口の周知に努めるとともに、支援を担う関係機関と連携してスタッフのスキル向上に取り組み、被害者支援機能の強化を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 性暴力被害の潜在化を防ぎ、迅速、的確な支援に繋げるため、学校や医療機関等の関係機関に対し「よりそいの樹とくしま（南部）」の広報周知に努めた。 また、性暴力被害者支援研修や全国研修会に積極的に参加し、相談に対応する職員の資質向上と相談支援スキルの向上に努めた。 ■成果 管内中学校へ若者向け啓発リーフレットを配布（20校 2,523名）し、性暴力被害者の相談先が身近にあることの周知が進んだ。 相談へのハードルが高く、潜在化しやすい性暴力被害者に寄り添い、関係機関と連携しながら、被害者の希望やニーズに合わせた支援を提供できた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑧】 配偶者等からの暴力の防止の視点に立って、若年層を対象に、「デートDV防止セミナー」などの啓発を推進する。</p> <p style="text-align: right;">(エ)</p>	<p>■令和元年度取組 若年層を対象にデートDVやDV等の防止に関して理解と関心を深めてもらうために、高校1校で「デートDV防止セミナー」を開催し、40人が受講した。</p> <p>■成果 DV防止についての理解が深まるとともに、若年層に対しデートDV防止を啓発できた。</p>	A	男女参画・人権課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●老人クラブ会員による、小学生の登下校時の通学路の不審者対策及び交通安全のための、見守り活動とあいさつ運動を実施する。</p>	<p>●老人クラブ会員による小学生登校時の見守り活動とあいさつ運動を実施。</p>	牟岐町

2 世界を魅了する観光地域づくり

(1) 地域の強みを活かしたインバウンド戦略の展開

【プラン5】自然・文化・スポーツ等による新たな魅力の創造とレガシーの創出

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア DMOを核とした持続可能な観光地域づくりの推進	イ 文化資産の継承と新たな魅力の創造
ウ 参加型の体験プログラムの開発	エ アウトドアイベントの強化・拡充
オ 国際スポーツ大会開催の機運醸成、レガシーの創出	カ 生涯スポーツの拠点づくり

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>「一般社団法人四国の右下観光局の日本版DMO法人登録」, 「外国人延べ宿泊者数」, 「来訪者の満足度」などの重要な主要業績指標を達成しており, サイクルツーリズムに関する「海外への情報発信」, 地域と連携した県南ならではの「コンテンツのブラッシュアップ」などの取組みも順調に進められた。</p> <p>ワールドマスターズゲームズ2021関西についても, 「受入態勢整備に向けたテストイベントの開催」, 「参加者向けの体験プランの造成と販売開始」, 「機運醸成のためのスポーツ教室の開催」等, 大会効果を最大限に享受し, レガシーを創出する取組を着実に進められた。</p> <p>また, 拠点づくりとしては, 南部健康運動公園については, トラック・フィールド部の基盤工事を完成させ, 夜間照明施設及び園路整備に着手したほか, 橋港小勝・後戸地区については, ソフトボール場4面目の整備を進め, 令和2年度の完成・概成に向け着実に事業を推進している。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17 (H29) 実績	'19 (R1)	'20 (R2)	'21 (R3)	'22 (R4)	'19 (R1) 達成度
一般社団法人四国の右下観光局の日本版DMO法人への登録 〈'17〉 - → 〈'19〉 登録	-	'19登録 登録	-	-	-	◎
南部圏域内における外国人の延べ宿泊者数（暦年） 〈'17〉 2,386人 → 〈'22〉 11,000人	2,386人	4,000人 4,928人	6,000人	9,000人	11,000人	◎
ワールドマスターズゲームズ2021関西の競技開催に向けた体制整備 〈'17〉 推進 → 〈'21〉 開催	推進	推進 推進	推進	開催	-	-
国際スポーツ大会開催への地元機運醸成に向けた「スポーツ教室」等の実施（累計） 〈'17〉 1回 → 〈'22〉 11回	1回	5回 5回	7回	9回	11回	◎
来訪者の満足度（7段階評価中最高評価の割合） 〈'17〉 - → 〈'22〉 25%以上	-	25%以上 35%	25%以上	25%以上	25%以上	◎

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
南部健康運動公園陸上競技場の整備 <'17> 工事施工中 → <'20> 完成	工事施工中	推進	完成	—	—	—
橘港小勝・後戸地区の緑地整備 <'17> ソフトボール場2面供用 → <'20> 概成	ソフトボール場 2面供用	推進	概成	—	—	—

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策①】 「四国の右下」における観光客の受入態勢を再構築し、地方創生の切り札であり、訪日外国人観光客の増加による成長が期待できる「観光産業」により地域の活性化を図るため、観光地域づくりの舵取り役を担う日本版DMOの母体となる一般社団法人四国の右下観光局を平成30年3月に設立し、7月に日本版DMO候補法人として登録された。今後は、更なる観光振興に取り組むとともに、平成31年度中の日本版DMO登録を目指す。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 一般社団法人四国の右下観光局の日本版DMO本法人としての登録を目指し、DMO四国の右下観光局評価会議での評価を基に、「日本版DMO形成・確率計画」の見直し等を行った上で、観光庁に日本版DMO法人登録を申請し、令和2年1月14日付けで日本版DMOの登録を受けた。</p> <p>■成果 インバウンド誘客や広域観光等に係る関係省庁事業の活用、観光地域づくりに関する相談支援を受けること等が可能となり、組織運営面での充実につながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策②】 「一般社団法人四国の右下観光局」を中心に、サステナブルツーリズムの視点に立ち、豊かな自然や伝統文化、郷土料理など様々な地域資源の”そのままの形”を守り、地域の魅力へと昇華させることで、継続的な観光客の呼び込みを実現し「儲かる観光」による持続可能な観光地域づくりを推進する。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 ・一般社団法人四国の右下観光局等と連携し、台湾はじめ海外での提案営業やファムツアー受入れにより海外からの旅行商品造成に向け取り組んだほか、地域の祭りや郷土料理などを紹介する多言語パンフレット（英語・繁体語）を作成し、海外での旅行博や提案営業などでPRを行った。 ・また、四国の右下観光局サイトを多言語化により、県南の魅力を広く海外に向け発信した。</p> <p>■成果 ・令和2年度の台湾からのツアー11本が造成され、インバウンド誘致につながった。 ・観光情報サイト「四国の右下観光局」の外国人ユーザー数1,023人。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 これまで取り組んできたアウトドアスポーツや農林漁家体験を題材にしたプログラムに加え、地域色豊かな「祭り」や「伝統食」に触れるプログラムの開発や、「へんろ道」の保全活動ボランティアツアーなど、地域課題を題材にした体験プログラムの開発に取り組む。 (イ、ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 ・農村舞台での「木偶人形操作体験」や「かきまぜ作り体験」など県南ならではの伝統文化や郷土料理などに触れることができる体験プログラムを地域と連携して企画し、モニターツアーによりブラッシュアップを図った ・JR四国と連携し「遍路道」を地元ガイドと散策する着地型旅行商品の造成に取り組み誘客促進を図った。 ■成果 ・モニターツアーのアンケートを踏まえ、改善点など事業主体にフィードバックすることでコンテンツの磨き上げが図られた。 ・JR四国と連携して企画した「駅からウォーク」では、124名がツアーに参加し、県南への誘客促進につながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策④】 「四国八十八箇所霊場と遍路道」を将来の世代へ保存・継承していくため、四国他県や関係団体と連携して、世界遺産登録を目指した取組みを加速する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 切幡寺、藤井寺、藤井寺道・焼山寺道の総合調査を実施するとともに、クラウドファンディングによって、太龍寺道、雲辺寺道の修復作業と神山町、海陽町の遍路小屋にWi-Fiを整備した。 ■成果 札所寺院と遍路道の調査が進捗するとともに、遍路道の環境と利便性の向上につながった。</p>	A	文化資源活用課
<p>【施策⑤】 旅先の文化や歴史体験への参加ニーズの高まりを受け、地域のお祭りの体験プログラムなど、ここでしか体験できない付加価値の高い体験プログラムを整備し、文化資産を観光資源として活用する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 農村舞台での「人形操作体験」や「襖からくり公演」など、県南ならではの伝統文化に触れることができる体験プログラムを地域と連携して企画し、県内在住の外国人を対象としたモニターツアーの実施によるブラッシュアップを通してインバウンド受入態勢の整備を図った。 ■成果 モニターツアーのアンケートを踏まえ、改善点など事業主体にフィードバックすることでコンテンツの磨き上げが図られた。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策⑥】 県南の特色あるアウトドアイベントについて、英語版のホームページなど、海外への情報発信を強化するとともに、民間主催のイベント誘致に取り組む。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 国・四国4県で連携し、アジア圏をターゲットとしたプロモーション事業（プロガー・メディア招聘、イベント出展）を実施し、県南のサイクリング環境をPRするとともに、一般社団法人四国の右下観光局HPの英語対応を実施した。 ■成果 プロモーション事業による効果的な情報発信が出来たことで、県南へのインバウンド誘客促進につながった。 プロガー・メディア招聘事業成果（香港・台湾・タイ・インド 初） ・記事掲載本数：32本 ・媒体接触者数：244,543人</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑦】 南部健康運動公園等を活用し、社会人や学生の団体が行うスポーツ合宿を誘致する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 平成17年度から県観光協会と連携を図り、旅行代理店との情報交換を実施するなど、大会やスポーツ合宿の誘致活動を進めてきた。 また、県外からのスポーツ合宿の問い合わせに対するワンストップサービスを実施し、スポーツ施設と宿泊施設に観光を組み合わせたプランの提案を行うとともに、初めて合宿で来県した団体等に対し、直接合宿所へ出向き、県の特産品の差し入れにより、本県の魅力を発信、思い出づくりのサポートを行っている。</p> <p>■成果 ＜南部圏域対象実績＞ 南部健康運動公園、美波町立日和佐総合体育館、まぜのおかオートキャンプ場 県外宿泊件数 16件 県外宿泊人数 2,662人</p>	A	にぎわいづくり課
<p>【施策⑧】 東京2020オリンピック正式種目である「野球」におけるキャンプ地誘致に向けた活動を促進するとともに、ワールドマスターズゲームズ2021 関西の実施競技となった「トライアスロン」、「アクアスロン」、「カヌー（スラローム）」、「サーフィン」、「軟式野球」において、市町及び関係機関と連携し、大会の開催に向け情報発信や機運の醸成、大会運営に携わる人材育成・組織づくりなどの受入態勢整備を進める。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 ・東京2020オリンピックでのキャンプ地誘致に向けて、関係者と協議を行うとともに、ワールドマスターズゲームズについては、イベント実施による認知度向上だけでなく、多くの県民の目に留まる場所での広報など、様々な取組みを行った。さらに、「ひわさうみがめトライアスロン」「四国の右下サーフィンゲームズ」の支援を行った。 ・国際スポーツ大会開催の効果を最大限享受するため、一般社団法人四国の右下観光局等と連携し「事業者向けのセミナー」、「新たな観光プランの造成」、「海外向けプロモーション」などインバウンド誘客・受入態勢整備に向けた取組を推進した。</p> <p>■成果 ・本番に向けたテストイベントにより、運営上の改善点を把握し、効率的な大会運営に具体的な議論が進められた。 ・事業者向けのセミナー開催によりインバウンド受入に対するスキルアップが図られた。</p>	B	南部総合県民局 地域創生部 国際スポーツ大会課
<p>【施策⑨】 トップアスリート等を講師とした実技講習会によるワールドマスターズゲームズ2021 関西の出場機会の創出や、小学生を対象としたサーフィンスクールの開催により、地域を巻き込んだ「四国の右下」ならではのスポーツレガシーの創出を行う。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 ワールドマスターズゲームズ2021 関西の県南での開催競技である「トライアスロン」「アクアスロン」「サーフィン」について、オリンピックアスリートによる「トライアスロンクリニック」、県内小中学生を対象とした「サーフィンスクール」を開催した。</p> <p>■成果 トライアスロンクリニックに19名、サーフィンスクールには15名の方々に参加いただき、大会参加への機運醸成と大会レガシー創出に寄与した。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑩】 圏域における生涯スポーツの拠点づくりのため、南部健康運動公園や橘港小勝・後戸地区において、スポーツ・レクリエーション振興を目的とした陸上競技場や緑地等の整備を進める。（カ）</p>	<p>■令和元年度取組 南部健康運動公園については、トラック・フィールド部の基盤工事を完成させ、夜間照明施設及び園路整備に着手した。 橘港小勝・後戸地区については、ソフトボール場4面目の排水路工事を実施した。</p> <p>■成果 施策の達成に向け、順調に進捗した。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●7月1日から8月下旬まで、海水浴場（北の脇海水浴場、淡島海水浴場）の開設を行い、集客に努めるとともに観光地引き網事業や蒲生田海岸での親子シーカヤック体験事業への支援など、海自然の魅力の情報発信に努める。また、若者同士の情報交換の場として、市のイメージアップや若者層の定住人口増加をめざし、羽ノ浦健康スポーツランド内のスケートボード場、阿南市屋内多目的施設（あななんアリーナ）をPRし、多くの若者の交流を図る。</p> <p>●西日本生涯還暦野球大会、あかつき野球大会、野球のまち阿南少年野球全国大会、500歳野球大会等の開催充実、阿南市屋内多目的施設（あななんアリーナ）を利用しての社会人野球や大学野球部の合宿、県外高校野球合宿の誘致受入を行う。また、野球と観光をセットにした「野球観光ツアー」の実施、大会や情報発信などにより、周辺を含めた地域の活性化を図る。</p>	<p>●海水浴場のPRを行い開設した結果、淡島海水浴場では約3,000人（7月1日から8月20日）、北の脇海水浴場では約28,000人（7月1日から8月25日）を集客することができた。さらに観光地引き網事業やあななんマリンスフェスティブル事業への支援など、海自然の魅力についても情報発信することができた。また、若者同士の情報交換の場として、市のイメージアップや若者層の定住人口増加を目指し、羽ノ浦健康スポーツランド内のスケートボード場等をPRした結果、スケートボード場では約2,000人、阿南市屋内多目的施設（あななんアリーナ）では約13,900人の利用があり、多くの若者の交流を図ることができた。</p> <p>●第12回西日本生涯還暦野球大会（28チーム）、第7回野球のまち阿南少年野球全国大会（31チーム）、第5回西日本500歳野球大会（18チーム）等をJAアグリあなんスタジアムで開催。 合宿では、中国深圳市の少年野球チーム、大阪の少年野球チーム受け入れや三菱重工広島硬式野球部、京都大学硬式野球部、立命館大学軟式野球部、石川県の小松大谷高校の合宿の受け入れを行った。</p>	阿南市
<p>●林業者の伝統を活かした「木頭杉一本乗り大会」を7月に開催する。川口ダム湖でのカヌー、木製サップを活用した地域振興。南つるぎ登山道の魅力情報発信に努める。</p>	<p>●昭和30年代まで木頭杉の搬出手段であった丸太流しの技術をイベントとして行った。今回で32回を迎え講習会及び大会を実施することにより、伝統技術の継承と伝搬をはかり「那賀川の清流」を広くアピールし、多くの人に河川の保全、森林保護の関心を持ってもらうことが出来た。参加人数県内外から100名、イベントとして歌謡ショー、水中宝探し、名人芸披露。</p> <p>●春と秋のイベント開催に併せて、川口ダム湖において木製サップ体験を実施した。</p> <p>●南つるぎ地域活性化協議会の活動を助成することにより、各種イベント開催や登山道の整備活動、環境保全活動を通じた南つるぎ登山道の魅力情報発信に寄与した。</p>	那賀町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●宿泊商品（民宿・旅館・民泊）・体験観光（サーフィン・SUP・シャワークライミング・山登り・クルージング・あんどん体験・かすら工芸・草木染他）・一次産業（農業体験：農業手伝い・漁業体験：釣り、はえ縄、天草・林業体験：炭焼き体験、樵木体験、狩猟体験）を自由に組み合わせて牟岐町を満喫していただく仕組みづくりを進める。</p> <p>●南阿波よくばり体験推進協議会が実施する教育旅行の取り組み拡充に努める。</p> <p>●観光協会や観光ガイドの会と連携して出羽島（重要伝統的建造物群保存地区）や遍路道などを活用した着地型観光プランメニューを企画し、歴史的文化的価値の継承や保存と経済循環を図る。</p> <p>●牟岐町の産物を他町の宿泊施設を備えた食事提供施設で、料理提供と産品生産者の紹介を行い産品の販売拡大と牟岐町の認知拡大を目指す。</p>	<p>●宿泊商品（民宿・旅館・民泊）体験メニューを造成し、インバンウンドマップ（2000部）を作成し、近隣の宿泊施設に配布した。</p> <p>●南阿波よくばり体験 自然体験・マリンスポーツアウトドア・漁業体験・農林業体験・味覚体験・歴史文化体験等の受け入れ数、教育旅行9校、688人（894人泊）、大阪・京都・茨城・広島・台湾など個人客は37人（33人泊）。</p> <p>●観光協会や観光ガイド会と連携した出羽島や遍路道の着地型観光メニューを企画。 出羽島ガイドを実施（63名）八坂八浜の遍路道ガイド（15名）</p> <p>●牟岐町の魚を使った食事イベントを他町の宿泊施設を備えた食事提供場所で行った。（30食） 徳島県内の重伝建地区を有する各地域（美馬市、三好市）と情報交換会を行いガイド会や保存地区審議委員、行政、観光事業者等に牟岐町の食材・生産者の紹介を行った。</p>	牟岐町
<p>●商工会や観光協会が核となって取り組む物産のPR活動や、県内外の地域産品フェアへの参加、百貨店、商店街等での催事・見本市等における販売促進事業の支援を行う。</p> <p>●地域資源と既存の移住交流支援施設や体験施設を生かした着地型観光（体験ツアー）を進めるとともに空き家、空き家店舗等の利活用を模索し、よくばり体験拠点等を拡充する。</p> <p>●道の駅日和佐のチャレンジショップ、イベント支援用付帯設備、自転車ラック等を誘客促進を図る。 また、地元食材を用いた新商品の開発に取り組み、道の駅日和佐や由岐ふれあいホール「ぼっぼマリン」などでの販売を行う。</p> <p>●南阿波よくばり体験推進協議会の取り組み拡充に努力するとともに、町内農林漁家民泊の受入態勢、体験メニューや組織の充実等に取り組み。</p>	<p>●美波町商工会は、9月15日に大阪で行われた徳島県人会近畿連合総会、9月21日から3日間行われた阿波ふーどフェア、11月26日・27日に行われた大阪天神橋筋商店街にて美波町のPRを行った。</p> <p>●観光協会と由岐海藻部が予定していた「明けの春姫」収穫体験ツアーは、高水温化などが影響し生育不良のため中止した。門前町の空き家活用（桜屋）は決定者が辞退したため令和2年度に再募集を予定している。</p> <p>●道の駅にて11月24日に日和佐漁協などと連携して、チャレンジショップや付帯設備を利用し伊勢エビ食べ尽くし祭りを開催した。次回以降の開催時は現在開発中の新商品を販売し、誘客促進を図る。</p> <p>●南阿波よくばり体験推進協議会では、特に利用者からの評価も高いSUP体験をはじめとするマリンスポーツと美波町特有のウミガメのふれあい体験など地域性を生かした取り組みを推進し誘客を図った。</p>	美波町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<ul style="list-style-type: none"> ●「海部川風流マラソン」の開催、「まぜのおかオートキャンプ場」・「海陽町海洋自然博物館」での各種イベント・行事を拡充・充実し、交流人口の拡大を図る。 ●「蛇王運動公園（野球場）」における四国アイランドリーグ等の大会開催を誘致する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●R2.2.16 第12回海部川風流マラソン開催。参加者2,062人 ●まぜのおかオートキャンプ場にて星空観察やしょうぶ園イベント、そば打ち体験、イルミネーションイベント等を実施した。 ●R1.10.27 海陽町マリンスポーツフェスティバル及びマリンジャム祭り同時開催。マリンスポーツフェスティバル参加者167人 ●四国アイランドリーグ徳島インディコソックス公式戦をR1.8.3に開催した。3月には練習試合を開催したが、コロナの影響により町民には周知できなかった。 	<p style="text-align: center;">海陽町</p>

【プラン6】世界に向けた魅力発信の強化

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 海外プロモーションの強化 ウ 「スマート回廊」における先端技術・科学体験の展開	イ 動画・SNS等による情報発信の強化
--	---------------------

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	主要業績指標である、観光情報サイト「四国の右下観光局」の外国人ユーザー数の目標を達成しており、旅行博・商談会の機会を活用したプロモーション、インフルエンサーの招聘などにより、海外向けの情報発信も十分に実施できており、令和2年度の台湾からのツアー造成につながった。		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
観光情報サイト「四国の右下観光局」の外国人ユーザー数 <'17> - → <'22> 1,600ユーザー	-	1,000ユーザー	1,200ユーザー	1,400ユーザー	1,600ユーザー	◎
		1,023ユーザー				

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
【施策①】 「四国の右下」の魅力の効果的な情報発信を行い、ファンづくりを推進するため、一般社団法人四国の右下観光局において、情報の一元化や地域の魅力を体感することができる商品企画、プロモーションを行う。 (ア)	■令和元年度取組 「四国の右下」ホームページにおいて、モデルコースや体験プログラムなど、「行ってみたい」と思わせる情報の充実や英語サイトの構築を行った。 また、海外向けプロモーションとして台湾の旅行会社を対象としたFAMツアーを実施し、「四国の右下」のもつ強みや魅力をPRした。 ■成果 令和2年度の台湾からのツアー11本が造成され、インバウンド誘致につながった。	A	南部総合県民局 地域創生部
【施策②】 ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に向け、「四国の右下」で開催されるトライアスロン、カヌー、サーフィン、軟式野球の参加者や家族等の誘客を促進するため、商談会に参加するなど海外でのプロモーションを強化する。 (ア)	■令和元年度取組 過去大会で参加者数の多いオーストラリアを中心に、現地での旅行博・商談会の機会を活用し、「B to B」、「B to C」双方に対するプロモーションを実施した。 また、一般社団法人四国の右下観光局では、ワールドマスターズゲームズ2021関西参加者限定の特別体験プランを造成し、大会組織委員会HP内での販売を開始した。 ■成果 一般社団法人四国の右下観光局において、ワールドマスターズゲームズ2021関西参加者限定の特別体験プランを造成し、2月より大会組織委員会HP内での販売を開始した。	B	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 FIT（海外への個人旅行）誘客を促進するため、「四国の右下」の自然や食などを体感するモデルコースや観光スポットを動画を積極的に活用しSNS等で発信する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 県南の伝統文化やアウトドアスポーツの魅力を伝えるプロモーション動画を作成し、一般社団法人四国の右下観光局サイト等で発信した。 ■成果 多言語表記したプロモーション動画を新たに作成することで、海外に向け南部エリアの魅力発信が可能となった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●AMA（A阿南市、M室戸市、A安芸市）を広くアピールするために、関西地区でのメディアキャラバンを実施する他、広域観光ルートの開発や旅行会社、雑誌社に対して観光及び特産品等の情報発信を行う。また、定住自立圏観光圏を形成して、圏域の魅力等を紹介する。</p> <p>●道の駅公方の郷なかがわ、光のまちステーションプラザでの観光パンフレットの配布及び映像施設を利用した観光情報の発信、YouTubeによる動画配信サイトの利用、AMA（あま）ナビ等による動画情報の発信を行うとともに、AMA観光PRイベントの実施により、四国東南部への集客を図る。</p>	<p>●関西地区6社で「メディアキャラバン」を実施し、AMA地域の春の観光情報と食を中心にPRを行った。 AMA10周年イベントを、大阪市阪急梅田駅販売仮展示コーナーにおいて3市特産品販売、観光PRを実施した。</p> <p>●道の駅公方の郷なかがわ、光のまちステーションプラザでの観光パンフレットの配付。 ホームページ（あまナビ）のリニューアルにかかるシステム構築を阿南高専に依頼し、ホームページが完成した。</p>	阿南市
<p>●那賀町「徳島ドローン特区」として、那賀町の山、谷、川、ダム、豊かな自然を活用した空撮アテンドのワンストップサービスの実施やドローンマップを活用したコンテストを開催し、集客を図る。</p>	<p>●町内のドローンフライトスポットをまとめた「那賀町ドローンマップ」のデジタルアース版を東京大学と共同研究を実施し、インターネット上に公開し、空撮アテンドを民間企業がワンストップサービスとして実施している。また、ドローンマップを活用した動画・静止画コンテストを実施し、参加者数は動画19人、静止画6人で入賞者には町特産品を送り、作品をweb上及び「なかまつり」にて公開した。</p>	那賀町
<p>●牟岐町の自然や産業など、魅力を町外へ発信することにより、交流人口の増加を目指すとともに、教育や文化、産業の新たな発見と充実をめざし地域の活性化を図る。</p> <p>●関西圏を中心とした牟岐町出身者に対して、牟岐町の情報を掲載したパンフレットを配布する。あわせて、作成するHP、SNSの情報ツールを活用していただけるようサポーターの仕組みをつくり、故郷回帰ツアーなどの情報を発信し、牟岐町を訪れる取り組みをする。</p>	<p>●移住交流サイト「MUGIZINE」で情報発信を行い、新たに人々のくらしがイメージできる動画を作成し公開した。「MUGIZINE」のサイトから今まで作成した動画が視聴できるようになった。</p> <p>●関西圏の牟岐町出身者に情報発信し、天神橋筋2丁目商店街で「関西むぎの日」イベントを行い、ふるさと会員に向けた、牟岐の情報をもらいたい方が約100名訪れ、68名の方が住所等の連絡先を教えてくださいました。今まで交流のあった近畿牟岐会の会員以外にも、イベントに参加してもらえた。</p>	牟岐町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<ul style="list-style-type: none"> ●地域に埋もれている歴史文化資源を観光プロダクトとして掘り起こし、地域の魅力として発信する。 ●ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を機に、美波町に訪れる外国人に対して観光プロダクトを販売する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光協会と協同し「土佐街道」の利活用について協議した。 ●四国の右下観光局と連携し、観光プロダクトの開発を進めた。 	美波町
<ul style="list-style-type: none"> ●「まぜのおかオートキャンプ場」・「蛇王運動公園」・「B&G海南海洋センター」などの複合的スポーツ・レジャー施設の機能を最大限に利用した、企業・大学などのイベント・スポーツ合宿等の積極的な誘致活動やPR活動を行う。 ●町のキャラクター「ふるるん」を用いて県内外のイベント等に積極的に参加し、海陽町の魅力等のPRを行う。 ●地域に埋もれている歴史的・文化的・自然的資源を掘り起こし、地域の魅力として発信し、観光資源につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まぜのおかオートキャンプ場にて音楽イベント「ブルーフェスキャンプ」やB&Gで愛あいクラブと連携した水中運動教室や水泳合宿、各種スポーツ合宿や教育事業、研修等を実施した。 ●「ふるるん」が県内11カ所のイベントに参加し、海陽町のPRを行った。 ●町の宝物発掘アンケート実施（調査対象：海陽町民）。R1.8.30 インスタグラム海陽町公式アカウント「slow_life_kaiyo」を開設し、情報発信力を強化。3月末フォロワー800人 	海陽町

【プラン7】ストレスフリーな旅行環境の整備
徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 無料Wi-Fi, 他言語表記の整備促進

イ キャッシュレス決済, 手ぶら観光の普及促進

プラン評価 (事務局案)	順調	プラン評価 (評価部会委員)	順調・要注視・要改善
事務局所見	県管理道路において、道路標識の多言語表記を改善したほか、圏域内の店舗等のキャッシュレス決済、Wi-Fi、多言語対応等のインバウンド受入態勢を点検し、現状を把握したうえで、事業者向けの研修会を実施するなど戦略的に受入態勢整備を推進し、旅行者の利便性が向上した。		

主要業績指標

(上段：目標、下段：実績)

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
来訪者の満足度(7段階評価中最高評価の割合)〈再掲〉 〈'17〉 - → 〈'22〉 25%以上	-	25%以上	25%以上	25%以上	25%以上	◎
		35%				

主要施策・主要事業	令和元('19)年度実施状況及び成果	評価	担 当
【施策①】 外国人旅行者の多くはインターネットを通じて地域ならではの食や体験、宿泊などの情報を入手するため、無料Wi-Fi(無料公衆無線LAN)の整備や利用場所を周知する取組を推進します。 (ア)	■令和元年度取組 一般社団法人四国の右下観光局において、南部圏域におけるWi-Fi整備、多言語対応、キャッシュレス決済導入等に係る実態調査を実施するとともに、インバウンドの受入環境整備に係る経費を助成する「徳島県訪日外国人受入環境整備事業助成金」の積極的な活用を、県南の飲食店や宿泊施設に対し働きかけるとともに、個別に制度説明や事業者訪問を行った。 ■成果 実態調査により各市町及び業種ごとのWi-Fi整備状況が把握でき、整備の必要性や未整備施設に対する助成金の周知が図られた。	A	南部総合県民局 地域創生部
【施策②】 外国人旅行者が「四国の右下」を訪れた際、案内表示や表記が不十分なため観光地としての魅力が十分に伝わらないことから、旅行者にとって分かりやすい観光・地点案内表示など多言語表記の整備を促進します。 (ア)	■令和元年度取組 一般社団法人四国の右下観光局において、県南の観光協会や各施設へ多言語表記について助言を行うとともに、多言語観光パンフレットを徳島空港はじめ県内外の主要施設に配布し、外国人旅行者が周遊しやすい環境の整備に努めた。 また、県管理道路において、道路標識の多言語表記の改善を7基実施した。(美波管内7基) ■成果 多言語パンフレット配布により、外国人旅行者の利便性向上が図られた。 外国人旅行者にとって、道路案内標識の分かりやすさが向上した。	A	南部総合県民局 地域創生部 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 外国人旅行者が買い物しやすい環境を提供し「四国の右下」での消費を促進するため、観光施設や店舗でのQRコード等のキャッシュレス決済の導入を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 一般社団法人四国の右下観光局において「キャッシュレスセミナー」を実施するとともに、県南のキャッシュレス決済導入状況の把握、未導入店舗への個別説明を行い、導入推進を図った。 ■成果 キャッシュレスセミナーに観光関係事業者等110名が参加し、キャッシュレス決済の導入促進につながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策④】 歩き遍路の方々が荷物なく手軽に「四国の右下」を楽しむことができるよう手ぶら観光を推進するとともに、外国人対応ができる取扱店舗を拡大する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 徳島県の「手ぶら観光サービス」において、南部県域で令和元年度中に新たに1件が取扱施設に追加され、令和2年6月末時点で11施設が登録されている。 ■成果 歩き遍路をはじめとする観光客の周遊促進や利便性向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●阿南高専の留学生・観光協会と連携して、市内の店舗、病院などの情報を記載した多言語マップに、より長く滞在して町を楽しむことができる情報取材し、多言語マップに記載し情報を発信する。</p> <p>●牟岐町の遊び、食、宿泊などの体験ツアーを実施し、食だけでなく体験観光と合わせた交流事業を実施する。また、インバウンド対応を行い、多様な方々に参加していただけるような取組を行う。</p>	<p>●阿南高専の留学生・観光協会と連携して、市内の店舗、病院などの情報を記載した多言語マップに、より長く滞在して町を楽しむことができる体験情報を取材し、多言語マップに記載した。県内大学や阿南高専の留学生・ALT、道の駅、市内飲食店・宿泊施設等に配布した（2000部）</p> <p>●牟岐町の遊び、食、宿泊などの体験ツアーを実施し、食だけでなく体験観光と合わせた交流事業を実施した。また、インバウンド対応を行い、インバウンドマップに体験メニュー14件を掲載した。</p>	牟岐町
<p>●外国人観光客誘致促進のため、ホームページ、パンフレットの多言語化、観光案内所への通訳者の配備、Wi-Fi環境整備、多言語案内板整備を実施する。</p> <p>●ワールドマスターズゲームズ2021関西を見据え、様々な関係者と連携を強化し、外国人対応力の向上に努める。</p> <p>●増えている欧米系の外国人お遍路のニーズ（ベジタリアン、ビーガン）に対応出来るよう、市内飲食店と連携を図る。</p> <p>●観光案内所における外国人旅行者の災害時における携帯電話等の充電、災害情報の伝達環境を整備し、安心して旅行できる環境を整える。</p>	<p>●地方創生推進交付金を活用し、観光案内所へ英語対応の出来る職員を配置した。また由岐地区に点在するお遍路案内看板を二カ国語表記に改修した。</p> <p>●ワールドマスターズゲームズ2021関西トリアスロン競技に海外から訪れる選手や家族に対応するため、各種案内の英語表記やトイレの洋式化等の整備の他、翻訳機の整備を実施した。</p> <p>●観光協会が中心となり市内飲食店へのヒアリングを実施。ベジタリアン、ビーガン等の問い合わせがあった場合、対応可能なお店への誘導を行った。</p> <p>●道の駅日和佐にある観光案内所に非常用電源設備を整備し（平成30年度）、災害時における外国人観光客の情報収集等の環境を整備した。</p>	美波町

<p>●町内の観光スポット・宿泊施設・飲食店案内のパンフレット等を作製し、道の駅等で配布するとともに、ホームページに掲載する。また、外国語版のパンフレット作成について検討する。</p>	<p>●既存パンフレットの写真等の構成を一部見直すなど現状にマッチしたPRが行えるようにした。 また、海陽町観光協会と協力し、観光協会発行の既存パンフレットを英訳。英訳を海陽町観光協会HPに掲載。</p>	<p>海陽町</p>
--	--	------------

(2) 交流が広がる交通体系の構築

【プラン8】道路ネットワークの整備促進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取り組み

ア 四国横断自動車道、阿南安芸自動車道の整備促進	イ 一般国道、県道等の整備促進
--------------------------	-----------------

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>四国横断自動車道の徳島JCT～阿南間について、用地買収及び工事を促進した。</p> <p>阿南安芸自動車道の桑野道路、福井道路については、用地買収を促進した。また、海部野根道路については、新規事業化され、同道路の全区間で現地測量を完了した。</p> <p>一般国道55号阿南道路的那賀川大橋周辺2.1km区間の4車線化が完了し、交通渋滞の緩和が図られた。</p> <p>地域間交流の促進や防災力の強化、渋滞緩和等に寄与する一般国道193号、一般国道195号、阿南小松島線などの主要幹線道路において、道路整備を促進した。</p> <p>いずれも事業計画の達成に向け、順調に進捗している。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
四国横断自動車道（徳島JCT～阿南）の整備 '17 工事施工中 → '22 工事促進中 (<'20>部分供用 徳島東～津田間) (<'21>部分供用 徳島JCT～津田間)	工事施工中	促進	部分供用	部分供用	▶	—
阿南安芸自動車道（桑野道路）の整備 '17 ～ '22 用地取得促進	用地取得促進	促進			▶	—
阿南安芸自動車道（福井道路）の整備 '17 ～ '22 用地取得促進	用地取得促進	促進			▶	—
阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備 '17 調査中 → '22 調査設計促進中	調査中	事業着手 促進			▶	—
一般国道55号阿南道路の整備 '17 那賀川大橋周辺2.1kmの4車線化工事施工中 → '22 一般国道195号から橘町青木（一般国道55号） 調査設計促進中	那賀川大橋周辺 2.1kmの4車線化 工事施工中	4車化完成 促進			▶	◎
一般国道55号牟岐バイパスの整備 '17 工事施工中 → '22 工事促進中	工事施工中	促進			▶	—
阿南ICへの追加ランプ設置（阿南勝浦線） '17 調査設計中 → '22 工事推進中	調査設計中	推進			▶	—

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備と合わせた穴喰地区地域防災公園へのアクセス道路の整備（久尾穴喰浦線） 〈'17〉 調査設計中 → 〈'22〉 工事推進中	調査設計中	推進				—
		推進				
主要地方道阿南小松島線 持井工区の整備 〈'17〉 用地買収中 → 〈'22〉 工事推進中	用地買収中	推進				—
		推進				

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果		評価	担当
【施策①】 近畿及び四国内の交流基盤となる四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）の整備を促進する。 (ア)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 徳島JCT～阿南間について、用地買収及び工事を実施した。 成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。 		A	南部総合県民局 県土整備部
【施策②】 高規格幹線道路と一体となって、高速交通ネットワークを形成する地域高規格道路である阿南安芸自動車道（桑野道路、福井道路、海部野根道路）の整備を促進する。 (ア)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 桑野道路、福井道路については、用地買収を実施した。 海部野根道路については、新規事業化され、同道路の全区間で現地測量を完了した。 成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。 		A	南部総合県民局 県土整備部
【施策③】 一般国道55号阿南道路那賀川大橋周辺2.1kmの4車線化工事及び一般国道195号から一般国道55号（橋町青木）までの間の整備を促進する。 (イ)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 R2.3.14に那賀川大橋周辺の2.1km区間の4車線化が完了 成果 交通渋滞の緩和が図られた。 		A	南部総合県民局 県土整備部
【施策④】 一般国道55号牟岐バイパスの整備を促進する。 (イ)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 牟岐バイパスの用地買収及び調査・解析業務を実施した。 成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。 		A	南部総合県民局 県土整備部
【施策⑤】 阿南安芸自動車道の整備効果を県南部に波及させる阿南勝浦線などの関連道路、地域間交流の促進や防災力の強化、渋滞緩和等に寄与する一般国道193号、一般国道195号、阿南小松島線などの主要幹線道路の整備を促進する。 (イ)	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度取組 一般国道193号、195号、阿南小松島線などの主要幹線道路において、用地買収及び拡幅工事等を実施した。 成果 事業計画の達成に向け、順調に進捗した。 		A	南部総合県民局 県土整備部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
●「四国の8の字ネットワークのミッシングリンクの解消」に向け、平時の救急救命や災害発生時における「命の道」として必要な「海部野根道路」について、早期事業化を関係町・県と連携し、国に要請する。	●「海部野根道路」については、事業化となり今年度、住民説明会をおこなった。海部～牟岐間については、要望活動を行い引き続き事業化に向けて取り組んでいく。	海陽町

【プラン9】次世代に向けた新たな地域公共交通ネットワークの構築

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取り組み

ア 「次世代地域公共交通ビジョン」の策定
ウ DMV導入に向けた施設等整備

イ DMVや鉄道等のイベントによる新たな人の流れの創出

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>今後の地域公共交通の将来構想を示した「次世代地域公共交通ビジョン」を令和元年12月に策定することで、県内の地域公共交通における現状と課題を把握し、公共交通の最適化に向けた徳島ならではの「革新的な公共交通ネットワーク」の構築を推進した。</p> <p>DMVについても、ハード整備に加え、バスモードの「運行ルート（案）」を示すなど、導入に向けてハード・ソフト両面の取組を進めるとともに、「あさチェン推進会議」を中心として魅力ある観光コンテンツ開発に向けて着実に前進した。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
「次世代公共交通ビジョン」の策定 <'17> - → <'19> 策定	-	策定	-	-	-	◎
DMVを活用した観光コンテンツ <'17> - → <'22> 推進	-	開発準備	開発・推進	推進	推進	-
阿佐東線へのDMV導入 <'17> - → <'20> 導入	-	推進	導入	-	-	-

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策①】</p> <p>「革新的な公共交通ネットワーク」の構築に向け、多様な担い手によるモーダル・ミックスを中心に、まちづくりと連携した交通網を形成し、利用者の増加につながる好循環を生み出せるよう、未来に向けた「地域公共交通の羅針盤」として「次世代地域公共交通ビジョン」を策定する。また、国・県・市町村、バス・鉄道事業者で構成する「徳島県生活交通協議会ワーキング部会」において、「公共交通の最適化」に向けて取り組む。（ア）</p>	<p>■令和元年度取組</p> <p>各交通モードの持つ特性を十分に理解したうえで、適切な役割分担のもと、「まちづくり」の視点と「二次交通の確保」なども考慮した「乗り継ぎの円滑化」や「利便性の向上」を図りつつ、既存の公共交通機関の持つポテンシャルを最大限に発揮できるよう、今後の地域公共交通の将来構想を示した「次世代地域公共交通ビジョン」を令和元年12月に策定した。</p> <p>また、国・県・市町村、バス・鉄道事業者で構成する「徳島県生活交通協議会ワーキング部会」を開催し、南部地域における公共交通ネットワークの将来のイメージや課題について協議するなど、公共交通の最適化に向けた取り組みを推進した。</p> <p>■成果</p> <p>次世代地域公共交通ビジョンの策定過程において、関係機関が連携、協議を行う体制が構築された。</p>	A	<p>南部総合県民局 地域創生部 次世代交通課 海陽町</p>

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 （一社）四国の右下観光局や（株）阿佐海岸鉄道など関係機関と連携し、観光周遊ルートづくりをはじめとするDMVを活用した魅力ある観光コンテンツを開発する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 （一社）四国の右下観光局や阿佐海岸鉄道（株）と連携しながら、「あさチェン推進会議」を中心とし、宿泊プランや沿線マップ等、魅力ある観光コンテンツの開発に向けて取り組んだ。 ■成果 ・あさチェン推進会議が設置され、2020年のコンテンツ開発に向け具体的な議論を進めることができた。 ※あさチェン推進会議 （一社）四国の右下観光局が事務局。県南エリアに加え高知県東洋町の商工会や観光協会、地域の観光・宿泊事業者などをメンバーとし、DMVを活用した観光コンテンツの開発等に取り組む。</p>	B	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策③】 阿佐東線に2020年導入予定のDMV等を活用し、中学校の総合学習、各種イベントによる利用促進と地域のにぎわいづくりに取り組む。また、四国の右下55フリー切符等の企画切符についても、各種イベントでのPRにより、利用促進を図り、観光振興に繋がるよう取り組む。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 企画列車の運行や子ども向けイベントの開催及び県内外の大規模イベントでのDMV展示など、利用促進と地域のにぎわいづくりの取組を推進した。 また、DMVや「四国の右下55フリー切符」について国内外での商談会や旅行博でPRを行い、県南の観光振興に繋がるよう取り組んだ。 ■成果 ・四国のみぎした55フリーきっぷ販売実績：770枚 （対前年：125.4%）</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 次世代交通課
<p>【施策④】 阿佐東地域へ、国が一定の評価を示し実用化が可能となったDMVの導入や鉄道活性化に向けた取組みを促進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 DMVの導入に向けて、阿佐海岸鉄道（株）と連携して車両の製作、駅舎の改築に取り組むとともに、安全性の検証や運行ルートの地元合意形成を進め、ハード・ソフト両面から着実に事業を推進した。 ■成果 ・車両全3台の完成、甲浦駅の坂路工事完成 ・「阿佐東地域公共交通会議」におけるバスモード運行ルート案の合意</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 次世代交通課 海陽町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●民間バス事業者が運行する、市中心部と那賀川・羽ノ浦両町を結ぶ循環バス「ナカちゃん号」の運行支援を行う。</p>	<p>●阿南市地域公共交通協議会を開催し、運行計画について協議するとともに、国庫補助（地域公共交通確保維持改善事業）を活用し、運行事業者に対して市補助金を交付し、路線の確保維持を行った。 ・令和元年度利用者数 8,416人（前年度比20.7%減）</p>	阿南市
<p>●75歳以上の高齢者を対象としタクシー料金助成制度継続及び徳島バス南部への補助を継続することで、地域住民の生活交通の確保を図る。</p> <p>●日常的な交通体系の整備にあわせ、観光的な交通体系（レンタルサイクリング・シータクシー）を模索・検討する。</p>	<p>●75歳以上の高齢者に対しタクシー利用料金助成事業を実施 配布率 47.8%（うち使用率 56.9%）</p>	牟岐町
<p>●美波病院連絡バスの運行体制の強化を図るとともに、拡充した高齢者タクシー助成事業を引き続き実施し、住民の生活交通の確保と美波町の交通体制の構築を図る、</p>	<p>●令和元年10月から病院連絡バスの運行体制を2系統化し、さらなる充実強化を図った。高齢者タクシー助成事業についても引き続き実施しており、着実に成果をあげている。</p>	美波町
<p>●人口減少が進む現状において、関係町・県と連携し、持続可能なJR・阿佐海岸鉄道・徳島バス南部・町営バス等の公共交通ネットワークの再構築を検討する。</p>	<p>●持続可能な公共交通体制を確立するため、年に一度、地域公共交通会議を開催している。なお2019年度は、DMV導入協議会や阿佐等地域公共交通会議も開催し、2020年度DMV運行開始に向け、県と連携しながら取り組んでいる。</p>	海陽町

3 成長産業化による豊かな地域づくり

(1) 地域産業の担い手の育成と確保

【プラン10】次代を担う人材の育成

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 創業人材の育成・誘致	イ 観光人材の育成
ウ 新規就農者の育成と自立支援	エ 若手林業グループや「林業アカデミー」等と連携した担い手の育成
オ 「漁業アカデミー」等と連携した担い手の育成	

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		観光人材育成のための研修会等目標を超える回数開催。多くの事業者の方が参加し、旅行者の受入環境を整えることができた。 農業関係では、農業次世代人材投資事業等を活用した就農後のサポートを実施するとともに、「きゅうりタウン構想」の取組みや「けんなんニューファーマー育成講座」の開催等により、令和元年度に17名の新規就農者を育成した。「きゅうりタウン構想」の取組では、1名の新規就農者を育成し、累計17名（14経営体）が就農したことにより、産地の担い手確保と海部地域の活性化が図られた。 林業関係では、「緑の雇用」事業の活用や、充実した林業就業体験や林業技術研修を実施した結果、担い手の確保・育成が進んだ。「とくしま林業アカデミー」での即戦力となる人材の育成や那賀高校「森林クリエイト科」、徳島大学「生物資源産業学部」など教育機関が充実したことにより、さらに担い手の確保が期待できる。 水産関係では、「とくしま漁業アカデミー」や就業間もない青年漁業者の経営安定化に向けた支援等を行うことで、浜を支える意欲ある担い手の育成・確保が進んだ。	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
観光人材を育成するための講座・研修の実施（累計） '17 ー → '22 16件	ー	4件 5件	8件	12件	16件	◎
新規就農者数（累計） '17 72人 → '22 146人	72人	101人 103人	116人	131人	146人	◎
施設キュウリ栽培における新規就農者数（累計） '17 9人 → '22 32人	9人	20人 17人	24人	28人	32人	○
新規林業就業者数（累計） '17 55人 → '22 100人	55人	70人 71人	80人	90人	100人	◎
小中高校に対する森林・林業学習の実施（累計） '17 10件 → '22 60件	10件	30件 31件	40件	50件	60件	◎

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
新規漁業就業者数(累計) '17 62人 → '22 118人	62人	85人	96人	107人	118人	◎
		81人				
県内高校生等の漁業体験者数(年間) '17 20人 → '22 30人	20人	30人	30人	30人	30人	◎
		45人				

主要施策・主要事業	令和元('19)年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 海部地域において、施設キュウリ栽培の担い手を確保するため、JAや地域の篤農家と連携し、実践的な技術指導を行う「海部きゅうり塾」を開講し、移住者等の新規就農・自立を支援する。 (ア、ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 「海部きゅうり塾」の新たな塾生を確保するため、移住フェア等において、PRを5回(東京3回、大阪2回)実施した。 ■成果 県外より1名の候補者を確保し、令和2年5月に6期生として入塾した。 これまでに塾生24名のうち17名(14経営体)が就農(R1は5期生1名が就農)し、産地の担い手確保につながった。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策②】 若手林業従事者「山武者」や「もりもり」など地域林業関係者との連携を図り、小中高等学校および大学生を対象とした森林・林業体験を実施し、森林・林業への理解を深めるとともに、林業の担い手の確保につなげる。 (ア、エ)</p>	<p>■令和元年度取組 那賀町林業従事者会「山武者」や森林組合、林業事業体などのサポートを得ながら、フォレストキャンパス那賀等を活用して、那賀高校森林クリエイト科をはじめとした地域の小中高校の生徒を対象とした森林・林業体験を実施した。 ■成果 森林・林業体験を、美波管内4回(185人参加)、那賀管内6回(184人参加)実施した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 四国の右下を訪れる観光客の満足度を高めるため、一般社団法人四国の右下観光局が行う観光人材育成事業を通じて、おもてなしの心で接する観光ガイドや、地域の魅力を体感する体験インストラクター、国際スポーツ大会での外国人対応する通訳ボランティアなど観光人材の育成に取り組む。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 地域の事業者の方を対象としたおもてなしセミナー、キャッシュレスセミナー等を開催し、観光人材の育成や受入環境整備を推進した。 ■成果 おもてなしセミナーに観光関係事業者等110名が参加し、インバウンド受入のスキルアップにつながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策④】 UJ1ターン者等に対して新規就農への意欲喚起と就農後の定着を図り、青年就農者の大幅な拡大を図るため、「農業次世代人材投資事業」を実施する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 UJ1ターン者等に対して広報活動や情報提供によって、新規就農への意欲を喚起した。就農後の定着を図り地域の担い手を育成するため、農業次世代人材投資事業を実施した。 農業次世代人材投資事業受給者等に対して、簿記研修会、経営研修会、地元農業青年クラブ員との情報交換会（県南ニューファーマーフォーラム等）を開催するとともに、JA部会活動や個別の要望に応じて技術指導を行った。</p> <p>■成果 農業次世代人材投資事業（経営開始型）を、農業者36名（美波管内13名、阿南管内23名）が活用し、地域の担い手育成が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑤】 就農希望者等を対象とした営農基礎研修「けんなんニューファーマー育成講座」を通じて、農業の基本的な栽培技術から関連制度まで、広範囲で基礎的な知識、技術の習得を図るとともに、経営バランスのとれた人材を育成し、就農と地域への早期定着を支援する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 「けんなんニューファーマー育成講座」を、令和元年6月～令和2年1月まで15回の講座を実施した。</p> <p>■成果 9名が講座を修了した。そのうち、過年度までに就農した3名をはじめ、令和元年度に2名が就農し、令和2年度には2名が就農予定である。今後も、講座修了生が就農後に地域で定着できるよう支援に努める。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑥】 「那賀町林業テクノスクール」との連携により、新規就業者を対象にした林業技術研修を段階的に実施し、新規就業者のレベルアップと定着化が図られるよう、林業事業体等を支援する。(エ)</p>	<p>■令和元年度取組 「那賀町林業テクノスクール」は平成30年の開講後「那賀高校森林クリエイイト科」の他、一般の林業従事者に対しても様々な林業に関する技術講習を行っている。</p> <p>■成果 令和元年度では那賀高校から246名、一般から130名の受講実績があり、林業就業者の技術支援を行っている。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑦】 和食県有林にある「フォレストキャンパス那賀」を拠点に、「とくしま林業アカデミー」を対象にした現地研修や「那賀高校森林クリエイイト科」を対象にした林業実習を実施することによって、即戦力となる人材を育成する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 和食県有林内の「フォレストキャンパス那賀」を活用して、「那賀高校森林クリエイイト科」を対象に、伐木実習や植栽実習また林業機械の操作実習を実施。</p> <p>■成果 「那賀高校森林クリエイイト科」から4名が現場技術者として南部圏域の林業事業体に就業した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑧】 豊かな森林資源の未来を創造し、次代の循環型成長産業を担う人材を育成するため、県立那賀高校「森林クリエイト科」において、林業教育を基盤とした新たなキャリアパスシステムを構築し、推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 徳島森林管理署、南部総合県民局及び那賀町との連携・協力のもと、「労働安全衛生特別教育（チェーンソー、伐木）」の資格講習の受講、企業見学研修や中国四国農政局の出前授業を実施するなど、林業教育の充実を図った。また、地元木材加工会社と連携して、レーザー加工機等の設備を有効活用し、スマホスタンドなど商品開発に取り組んだ。</p> <p>■成果 国公立大学への進学や林業職の公務員、地域の林業関連産業への就職など、林業に関する様々な知識や技術を身に付けた人材を育成した。</p>	A	教育委員会
<p>【施策⑨】 料理教室やSNSなどによる情報発信を通じて魚食普及活動を行っている椿泊地区の若手漁業者団体「魚っSUN's」を支援する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 「魚っSUN's」による小学生や一般の方を対象にした魚食普及のための料理教室の開催を支援した（R1.8.25、阿南市椿公民館、参加人数19人）。</p> <p>■成果 消費者に地元の魚をより身近に感じてもらうとともに、漁業および漁村地域への関心を高めることができた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑩】 「とくしま漁業就業マッチングセンター」の開設や、誰もが学べる「とくしま漁業アカデミー」の開講等を通じ、地域漁業の未来を担う青年漁業者を確保・育成する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 「とくしま漁業就業マッチングセンター」や、誰もが徳島の漁業を学べる「とくしま漁業アカデミー」等を通じて新規漁業就業者の育成・確保に取り組んだ。</p> <p>■成果 南部管内で新たに7人が就業し、次代を担う漁業就業者の確保に繋がった。 ※中林(1)、椿泊(2)、東由岐(1)、鞆浦(1)、穴喰(2)</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑪】 県内高校生を対象に、漁協と連携して、海士や小型定置網等の実践的な体験漁業に取り組むことによって、漁村地域における就業希望者の積極的な受け入れに向けた意識の醸成を図る。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 南部管内の漁業協同組合の協力の下、45人の高校生を対象に、「海部の魚」の漁獲から出荷、調理、試食までの「まるごと体験会」を4回実施した。 ※R1.11.8 日和佐（一本釣り漁業 19人参加） R1.11.27 鞆浦（大型定置網漁業 8人参加） R2.2.7 日和佐（一本釣り漁業 8人参加） R2.2.11 穴喰（小型定置網漁業 10人参加）</p> <p>■成果 体験講習会に地元漁業者が一丸となって取り組み、新規就業者の受け入れに向けた漁村地域の意識向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●「木頭ゆず」の更なるブランド化を推進する為、フランスなど海外において商談会への出展・ゆず産地PRを図るとともに、農作業お助けセンターを核として、新たな雇用環境の仕組みづくりを検討し、担い手の育</p>	<p>●国内の商談会、第16回こだわり商品展示会（東京丸ビル）、アグリフードEXPO東京2019（東京ビッグサイト）、第8回中国・四国イオン会合同見本市（コンベックス岡山）、スーパーマーケットトレードショー2020（幕張メッセ）に参加。木頭ゆずを使用した6次化商品の開発や食品見本市出展等により、認知度向上や販売拡大に取り組んだ。イオンとのコラボレーションとして「木頭ゆず」を使用した商品が全国販売された。</p> <p>国外ではANUGA2019見本市（ドイツ）、パリ農業祭2020（フランス）に参加。若い農業者等が希望と夢をもって農業に取り組むことのできる、国内だけでなく海外輸出で稼ぐことを実現するため、さらなる輸出拡大及びPRを図った。</p> <p>国内外において、地理的表示（GI）を利用した他産地との差別化や輸出に向けた有利な販売及びPRを展開した。</p> <p>その他、木頭学園とイオンと連携し、イオンモールにて物販体験を実施。販売やPRを通して、未来の担い手ともとれる地元学生に「木頭ゆず」のブランドとしての誇りや意識向上等を図った。</p>	<p>那賀町</p>
<p>●牟岐町ハナエチゼン栽培研究会、JAかいふ、徳島県と連携し、とくしま安2GAPの取得などこれまで行ってきた「はなえちぜん」のさらなるPRとブランド化、そして県外への販路拡大を図る。</p> <p>●牟岐の農業を守る会と株式会社泉源の商品である牟岐の米と魚を用いた特産品のプッシュアップを進め、6次産業化による消費拡大及び販路開拓を図る。また牟岐町特産品のブランド化を図る。</p>	<p>●ハナエチゼンの買取金額増加は実現できている。関西方面へのPRと販路拡大として、兵庫県の関西スーパーで試食販売を実施した。今後も継続していくことでブランドとしての確立を目指す。</p> <p>●牟岐の農業を守る会と徳島文理大学食物栄養学科との連携によりもち麦のパッケージ作成やもち麦を使ったレシピ集の作成を実施。また、大塚製薬社員食堂への納品できるようになるなど販路も拡大している。</p> <p>今後もさらなる販路拡大と安定供給できるようもち麦の作付け面積の拡大を図る。また、もち麦を使った新たな商品としてもち麦うどんやパスタ等の商品開発にも取り組む。</p> <p>●「牟岐実生ゆず」としてのブランド化を図り、フランスの三ツ星レストランに向けてPRを実施。今後はフランス等への輸出を実施し、「牟岐実生ゆず」ブランドを確立することでさらなる付加価値をつけ、販路拡大を図る。</p>	<p>牟岐町</p>
<p>●全国の希望者を対象に、短期（1週間）～中期（1ヶ月）間程度、一次産業に従事し、就業体験（インターンシップ事業）を行い、一次産業の後継者不足の解消と、移住・定住の促進を図るとともに、起業に係る各種助成制度を創設し、新規就業者に対する支援を行う。</p>	<p>●海部次世代園芸産地創生推進協議会で農業体験ツアーを実施し、20名の参加があった。また、明治大学の学生を対象にきゅうりの作業体験を実施した。移住就農者支援対策として家賃補助制度を設けている。</p> <p>●起業支援としては、「海陽町ふるさと創造戦略補助金」の起業支援部門において、1件の事業採択を行い、創業に係る経費について100万円の補助金を交付した。</p>	<p>海陽町</p>

【プラン11】担い手を育む地域の育成

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 地域おこし協力隊の活動支援
 ウ 「農の里」づくりによる産地強化
 オ 外国人材活用に向けた体制の整備

イ 「きゅうりタウン構想」の推進
 エ 林業成長産業化モデル地域（県南）における林業担い手の定着促進

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		「きゅうりタウン構想」の取組みのPRや、取組み成果の表彰受賞によるPR効果により、「交流拠点施設」を核とした体験交流ツアーや施設受入れ等の実施では、参加者数の累計が目標を上回る710名となった。「農の里」に取り組む地域の支援では、「阿南・那賀未来の農業づくり協議会」を中心として、産地や地域住民主体の担い手確保やもうかる農業を実践する「ゆずの里」づくりに取り組み、今後の産地の核となる新規就農者2名を確保した。 観光分野では、外国人モニターツアーで得られた意見を関係者間で共有。また、人材育成研修会に多くの方に参加いただいたことにより、外国人旅行者の受入環境整備が進んだ。	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
JAかいふの「交流拠点施設」を核とする体験交流ツアーや施設受入れ等の参加者数（累計） <'17> - → <'22> 1,000人	-	400人 710人	600人	800人	1,000人	◎
「農の里」に取り組む地域数（累計） <'17> - → <'22> 4件	-	1件 1件	2件	3件	4件	◎
観光人材を育成するための講座・研修の実施（累計） （再掲） <'17> - → <'22> 16件	-	4件 5件	8件	12件	16件	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
【施策①】 海部地域の特産品「施設きゅうり」を核とした地域創生をめざす「きゅうりタウン構想」の実現のため、「交流拠点施設」を中心に生産者や消費者への全国に向けた情報発信を行いつつ、移住促進による担い手確保と新規就農者の定着化を促進する。 (イ)	■令和元年度取組 美波町内にJAかいふが整備した「交流拠点施設」を活用し、県内外から344名（H30・R1の累計：710名）の体験交流ツアーおよび視察を受入れた。 また、新規就農者の自立・定着に向け、令和元年度に就農した1名を含む17名（14経営体）に対して、就農後の栽培技術・経営力向上のためのサポートを実施した。 ■成果 「交流拠点施設」を活用した体験交流ツアー等により、県内外に向けた情報発信の強化と交流促進が図られた。	A	南部総合農政局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策②】 阿南・那賀地域において、ブランド品目の生産力の維持・産地強化を図るため、産地や地域住民が主体となり「担い手確保」と「もつかる農業」を実践する「農の里」づくりを推進する。（ウ）</p>	<p>■令和元年度取組 那賀町において、産地担い手確保研修会や「木頭ゆずローカルベンチャー育成研究会」の開催、新農業人フェアへの参加等、「ゆずの里」づくりに取り組んだ。 ■成果 「木頭ゆず」産地において、2名（大阪府、徳島市）の新規就農者を確保することができた。また、産地や地域住民主体の担い手確保やもつかる農業に取り組む気運が高まった。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 担い手の高齢化、後継者不足の対応策として、地域農業の生産性向上や農業生産活動の維持を図るため、営農の全部又は一部を協働で行う集落営農組織の育成及び担い手農家への農地集積を推進する。（ウ）</p>	<p>■令和元年度取組 阿南市那賀川町芳崎地区や長生町宮内地区など、圃場整備事業実施予定地区を農地中間管理事業の重点推進地区として捉え、担い手への農地集積を推進した。 今後、費用負担によらず基盤整備を実施することができる農地中間管理機構関連農地整備事業を推進する上で、受け手として必要となる集落営農法人をはじめとする担い手の育成を推進する。 ■成果 農地中間管理事業等を活用し、集落営農法人など担い手への農地集積が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策④】 県民が木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動である「木育」を推進するため、木とふれあい、木に学び、木でつながることができる「木育の拠点」を整備する。（エ）</p>	<p>■令和元年度取組 南部地域では、海陽町（まぜのおかオートキャンプ内）、阿南市（牛岐城趾公園管理事務所の「あなんテレワーク推進センター」内や阿南市役所あなんフォーラム内、トヨタカローラ徳島 阿南店内）と那賀町（地域子育て支援センター及び林業ビジネスセンター内、相生森林文化公園あいあいらんど）に、「木育の拠点」が整備されており、木材の良さを体験できる場を提供した。 ■成果 南部地域の「木育の拠点」は7箇所となっており、各施設における木育広場の利用促進を図ることで、「木育」の輪が広がった。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑤】 林業成長産業化地域創出モデル事業の実施や、「那賀町テクノスクール」との連携、小中高生に対する林業体験に取組み、林業担い手の定着を推進する。（エ）</p>	<p>■令和元年度取組 「那賀町林業テクノスクール」では、「那賀高校森林クリエイト科」及び一般合わせて累計650人を対象に技術研修を実施し、林業担い手の定着につなげた。 また、小中学生に対しても林業体験学習を3回（10月～12月）実施した。 ■成果 中学生や高校性、一般者に対する幅広い就業体験を継続的に行うことで、林業への理解を深めることができた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑥】 インバウンドの取組を強化するため、外国人目線での観光資源の発掘や、HP・SNSなどの多言語化を図るとともに、国際スポーツ大会で外国人の対応を行うボランティアの育成に取り組みます。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 ・海外メディア・インフルエンサーを対象としたファムツアーや圏内在住の外国人を対象としたモニターツアーを実施し、改善点などを関係団体に共有した。 ・一般社団法人四国の右下観光局において、事業者向けの「おもてなしセミナー」を開催することなど、インバウンド受入態勢の強化を図った。</p> <p>■成果 ・海外メディア等ファムツアー（受入3名）やモニターツアー（受入5名）により、観光資源の磨き上げやおもてなしや多言語対応などの受入環境整備につながった。 ・おもてなしセミナーに観光関係事業者等110名が参加し、インバウンド受入のスキルアップにつながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●「活竹祭」において阿南の特産品販売をするなど阿南のPRに努める。また、「竹」をテーマにしたイベントを開催し、産業の発展と振興及び地域全体の活性化を図る。</p>	<p>●「あなんの魅力再発見」をテーマとしたイベントとして、本年度はパンのお店が大集合。また、生鮮野菜の販売など、地元食材のPR支援を行った。</p>	阿南市
<p>●高校生・大学生等の新規就業者と都市等からの那賀町移住希望者を対象に、町と連携する雇用業者が農林業新規従事者募集を実施する。併せて、既存空き家屋等を雇用事業者が借り上げるシステムづくりを推進する。そして、借り上げた家屋を居住用に使用するためにあたって改修が必要な場合、町はその改修費用の補助を雇用事業者に対して行う。これら施策により農林業新規雇用の増進を図る。</p>	<p>●農林業新規従事者募集については、実施には至らなかったが、農業に関する研修会、町外からの視察の受入、四国大学生との連携事業を実施。町外等で成功を収めている6次化起業事業者等を招待し、経営力のスキルアップ、情報の共有化、新たなローカルベンチャーの発掘等を図り、生産者、6次化企業等、自ら今後のゆず生産者を確保、育成、起業等推進を図った。大学生等を招待し、特産「木頭ゆず」を主に、地域の良さ、問題点等を実際に体験等を通して知ってもらい、若者視点からの意見等をもとに就農や6次産業化、新たなローカルベンチャーの発掘等に繋げることを図った。 ●林業分野では「林業体験3Days」を11月に実施し、都市部からの新規就業希望者の体験就業を実施した。</p>	那賀町
<p>●道の駅日和佐の物産館入り口脇の、ワンデイシェフ的な活用が出来るチャレンジショップを利用し、集客の向上に加え、飲食関係事業等の新たな展開を模索する。</p> <p>●農家の後継者不足解消及び農地保全に向けて、モデル地区を設定し、農作業を請け負う仕組みを研究する。</p>	<p>●令和元年度は5組の方がチャレンジショップを利用され、美波町での新たな事業の展開を模索した。</p> <p>●赤松地区で、今後の営農継続と農地の保全管理のため、集落営農法人の設立などを検討した。</p>	美波町

(2) 生産を増やし、需要を拡大する「もうかる農林水産業」の推進
 【プラン12】世界にはばたく農畜産物のブランド化・6次産業化等の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 農地整備や農業用水の安定供給によるブランド産地支援	イ 「木頭ゆず」・「阿波尾鶏」の販路拡大・6次産業化の推進
ウ 6次産業化に取り組む女性ネットワークの活動支援	エ 「農水連携」での6次産業化の推進
オ 「ストーリーテラー（商品の語り部）」の育成	カ ケイトウなど那賀町特産花きの新たな需要拡大

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		地理的表示（GI）を活用した「木頭ゆず」の商品開発や販路開拓が進んだ。また、海部郡の女性農業者を中心として、NPO法人やJA職員、輸出事業者など多様な事業者の持つ視点を活用するネットワークを構築し、農業者と女子大学生や輸出事業者等が連携した商品開発を推進したことにより、6次産業化の取組事例が増加した。 「木頭ゆず」・「阿波尾鶏」等の海外輸出については、海外食品見本市への出展等により販路拡大に取り組み、輸出量は28トンとなり、目標の9割に到達した。 また、農業者のPRスキル向上により、単独で商談ができる農業6次化人材を育成できたほか、町と連携した担い手育成の支援により、ケイトウ生産者が5名増加した。	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
ゆず・阿波尾鶏等の海外輸出量 〈'17〉 19t → 〈'22〉 40t	19t	31t 28.2t	34t	37t	40t	◎
「GI木頭ゆず」の6次化商品開発数（累計） 〈'17〉 - → 〈'22〉 10商品	-	4商品 4商品	6商品	8商品	10商品	◎
南部の女性ネットワークを活用した6次化商品開発数 （累計） 〈'17〉 - → 〈'22〉 10商品	-	4商品 5商品	6商品	8商品	10商品	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
【施策①】 那賀川流域を中心とした汎用性の高い農地の整備や、良質な農業用水の安定供給に努めることにより、ブランド産地を支援する。 (ア)	■令和元年度取組 長生西部地区において、48haのほ場整備工事を実施。 また、国営付帯県営農地防災事業の那賀川今津地区・那賀川平島地区・那賀川南岸地区において、用水路の改修工事を2.15km実施。 ■成果 管内のほ場整備率が82.5%となり、ブランド産地を支える汎用性の高い農地の整備が進むとともに、良質な農業用水の安定供給が図られた。	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 TPP11や日EU・EPA（EUとの経済連携協定）などの経済グローバル化にも対応し、南部圏域の基幹農業である施設園芸や土地利用型農業において、次世代に向けた生産・流通での構造改革を推進するとともに、ブランド品目及び育成品目等を中心とした「攻め」と「守り」のきめ細やかな支援により、産地の「体質強化」を実現する。 (ア、イ、ウ、エ、カ)</p>	<p>■令和元年度取組 海部郡の施設キュウリや那賀町のケイトウなど産地の核となる若手農業者の育成や、高性能林業機械導入による生産性向上、漁協施設設備の充実強化、さらには「木頭ゆず」の国内外への販路拡大など、次世代に向けた農林漁業者の取組を支援した。 ■成果 農山漁村未来創造事業（県単）等を活用し、生産現場の強化が図られた。 また、JAアグリあなんハウスすだち部会が、県内初となるJGAPの団体認証を取得し、ブランド力向上や販路拡大に向けた産地強化が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 丹生谷地域の「木頭ゆず」については、地理的表示（GI）を活かし、他産地との差別化やEU等への青果・加工品の輸出促進など、販路拡大を推進する。 また、「阿波尾鶏」の輸出拡大に向けて、「地域商社阿波ふうど」等と連携を図りながら、重点的な輸出先である香港での販売促進や他国・地域への販路拡大を支援する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 「木頭ゆず」については、地理的表示（GI）を活かした商品開発・販路拡大を支援するとともに、輸出体制を構築するため、海外輸出に対応した栽培管理指導やミカンバエ未発生調査の支援を行った。 ■成果 「木頭ゆず」については、選果こん包施設での輸出検査の対応強化が図られるとともに、新たな商品開発・販路開拓が進んだ。 ※R1新商品開発数：2商品 (木頭ゆず あまざけ、木頭ゆずゼリー(伊予柑入り)) また、「阿波尾鶏」については、香港に加えて他地域への輸出が行われた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策④】 南部ならではの魚類、海藻類やキュウリ等の農水産物を活用した6次産業化の推進のため、6次産業化に取組む女性や関係事業者等とのネットワークを構築し、女性視点の魅力ある商品の開発と販路拡大を支援する。 また、多様な女性の視点と情報網を持つネットワークを活かし、南部地域を代表する特産品となり得る「農水連携」による新たな6次産業化商品の開発・PR等を推進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 女性農業者を中心として、NPO法人やJA職員、輸出事業者など多様な事業者の持つ視点を活用するための交流会を開催し、連携を行う事業者のネットワークを構築した。また、次代の消費を担う女子大学生との連携を推進することで若い方の視点を取り入れた商品開発を推進した。 ■成果 女性農業者を中心としたシンガポールへの輸出の取組みがスタートするとともに、女子大学生が商品パッケージをデザインした「もち麦（精麦）」、JA女性部の「もち麦味噌」、輸出事業者等と連携した「実生柚子果汁」など、新たな品目を生きた商品開発が行われた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策⑤】 商品と地域の「物語」をバイヤーや消費者に伝える「ストーリーテラー（商品の語り部）」を育成し、商品とその背景にある地域のPRを強化することで、6次産業化商品の販路拡大やインハウンドの誘客促進に繋げる。</p> <p style="text-align: right;">(オ)</p>	<p>■令和元年度取組 「売れる商品づくりセミナー」を開催し、地域の農業者や連携している地域外の大学生・商工業者に向けて、商品等の売り込みにおける「物語」の重要性の認識を深めた。また、農業者自らが商談会・イベントで直接バイヤーや消費者へ売り込みを行う機会を創出し、PRスキルの向上を図った。</p> <p>■成果 その結果、6次産業化に取り組む農業者で単独で商談ができる人材を育成することができた。</p>	<p>A</p>	<p>南部総合県民局 農林水産部</p>
<p>【施策⑥】 那賀町の特産品「ケイトウ」を中心とした花き産地の再生・活性化を図るため、スポーツイベントのビクトリーブーケとして提案するなど、新たな需用拡大を図るとともに、生産供給体制の強化や人材育成に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(カ)</p>	<p>■令和元年度取組 県南地域で開催された「四国の右下サーフィンゲームズ2019」「第20回ひわさうみがめトライアスロン」にて、「勝利の花」ケイトウをPRするとともに、なにわ花いちばの「なにわ花まつり」でケイトウの新たな活用案を提案。</p> <p>また、那賀町等と連携し、新規生産者への資材費の助成やベテラン農家によるマンツーマン指導を実施した。</p> <p>■成果 ケイトウの新たな需要として、ビクトリーブーケに加え、アレンジメントや花束需要に向けた可能性が生まれた。また、新規生産者が5名増加した。</p>	<p>A</p>	<p>南部総合県民局 農林水産部</p>

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●「木頭ゆず」の更なるブランド化を推進する為、フランスなど海外において商談会への出展・ゆず産地PRを図るとともに、農作業お助けセンターを核として、新たな雇用環境の仕組みづくりを検討し、担い手の育成を図る。〈再掲〉</p> <p>●鹿肉加工商品を開発販売し、ブランド化することにより、地場産業として定着化させ地域の雇用創出を図る。</p>	<p>●〈再掲〉プラン10に記載</p> <p>●木沢シカ肉等加工所、（株）四季美谷温泉とコラボし、ジビエフェスタ（木沢地区）、ビジネスチャレンジメッセ（徳島市）、阿波地美栄狩猟フェスタ（徳島市）にて無料試食、販売会及びアンケート調査を実施。地域産業として捕獲鳥獣のジビエ利用には大きな可能性が秘められており、ジビエに関してアンケート調査を実施し、ジビエに対する意見等の情報を収集した。地域料理店やその情報を元に今後の那賀町での普及、推進のあり方、又地域料理店や販売店等の販路開拓や商品開発に繋げていく。</p> <p>また、令和2年2月20日に農林水産省にて鳥獣被害防止や捕獲した野生鳥獣の食肉（ジビエ）の利活用等に取り組み、地域に貢献している個人及び団体を表彰する「鳥獣対策優良活動表彰」、また式典終了後に鳥獣関係者の情報提供の場として「第7回全国鳥獣被害対策サミット」が開催され、受賞者からの取組事例の報告の他、テーマに合わせた全国取組事例の発表、パネルディスカッションや鳥獣対策に係る研究成果、技術情報、製品情報、人材育成等の取組に係るポスターセッション、資機材・カタログの展示などが行われた。参加し、全国の優良取組事例等を参考に情報等を収集し、今後、新たな施策等、効果的な取組活動の参考とする。</p> <p>ジビエとしてのシカ肉供給の安定化を図り、地場産業として定着化を目的に、有害鳥獣捕獲物をジビエジュニアで運搬し、加工頭数を増加させることの推進を図った。昨年度より加工されたシカの頭数は増加し、達成出来たので、今後も同様に推進を図る。</p>	<p>那賀町</p>
<p>●牟岐町ハナエチゼン栽培研究会、JAかいふ、徳島県と連携し、とくしま安2GAPの取得などこれまで行ってきた「はなえちぜん」のさらなるPRとブランド化、そして県外への販路拡大を図る。</p> <p>●牟岐の農業を守る会と株式会社泉源の商品である牟岐の米と魚を用いた特産品のプッシュアップを進め、6次産業化による消費拡大及び販路開拓を図る。また牟岐町特産品のブランド化を図る。〈再掲〉</p>	<p>●ハナエチゼンの買取金額増加は実現できている。関西方面へのPRと販路拡大として、兵庫県の関西スーパーで試食販売を実施した。今後も継続していくことでブランドとしての確立を目指す。</p> <p>●牟岐の農業を守る会と徳島文理大学食物栄養学科との連携によりもち麦のパッケージ作成やもち麦を使ったレシビ集の作成を実施。また、大塚製薬社員食堂への納品できるようになるなど販路も拡大している。今後もさらなる販路拡大と安定供給できるようもち麦の作付け面積の拡大を図る。また、もち麦を使った新たな商品としてもち麦うどんやパスタ等の商品開発にも取り組む。</p> <p>●「牟岐実生ゆず」としてのブランド化を図り、フランスの三ツ星レストランに向けてPRを実施。今後はフランス等への輸出を実施し、「牟岐実生ゆず」ブランドを確立することでさらなる付加価値をつけ、販路拡大を図る。〈再掲〉</p>	<p>牟岐町</p>

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●商工会や観光協会、漁業協同組合、JAかいふ、場合によっては民間事業者や大学等とも連携を模索し、新たな技術や装置の試験導入も試みながら、既存産品をベースとして或いはいくつかの産品を組み合わせる新たな産品を創出し、販路開拓を試みる。</p>	<p>●前年度の「駅弁・惣菜開発」をベースにして新たな商品の開発を模索し、他の関係団体との連携を図った。</p>	<p>美波町</p>
<p>●有機作物栽培の元気農業研究会（勉強会）の実施。海陽町野菜のブランド化を行うとともに消費者へ向けた野菜の価値をPRし、消費拡大、新規販売ルートの開発を目指す。</p>	<p>●勉強会を4回開催し栽培技術向上を図った。物産販売イベントに町内外合計15回参加（うち徳島マルシェ11回）し、海陽町野菜のPRを行った。</p>	<p>海陽町</p>

【プラン13】 県南ならではの水産物のブランド化等の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 「海部の魚」のPR・販売促進	イ 大学等高等教育機関や企業と連携した新たな漁業の創出
ウ 低利用・未利用素材などの水産物の6次産業化商品の開発支援	エ 種苗放流や藻場造成など「資源管理型漁業」の推進

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	種苗放流による水産資源の維持・増大や水産物出荷・流通施設の整備による漁獲物の付加価値向上等に取り組んだ結果、県産水産物のブランド力強化が図られるなど、目標達成に向け、順調に進んでいる。		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
水産加工品の開発数（累計） 〈'17〉 1商品 → 〈'22〉 10商品	1商品	4商品	6商品	8商品	10商品	◎
水産物出荷・流通施設の整備箇所数(累計) 〈'17〉 13箇所 → 〈'22〉 25箇所	13箇所	19箇所	21箇所	23箇所	25箇所	◎
水産関係の6次産業化の取組件数（累計） 〈'17〉 8件 → 〈'22〉 12件	8件	9件	10件	11件	12件	◎
魚・貝類の種苗放流の実施件数（累計） 〈'17〉 41件 → 〈'22〉 69件	41件	51件	57件	63件	69件	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 海部郡の全12漁協、関係町等で組織する「とくしま海部水産物品質確立協議会」を中心に、海部郡内の水産物の産地強化を支援するとともに、ブランド化、6次産業化を推進し、漁家所得の向上、漁協経営の安定を図る。（ア）</p>	<p>■ 令和元年度取組 「とくしま海部水産物品質確立協議会」が行う講習会の開催、現地視察やイセエビのPR動画作製を支援するなど、海部郡内の水産物の産地強化に向けた取組みを推進した。</p> <p>■ 成果 かいふ水産ブランド「海部の魚」の知名度向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策②】 漁協の冷凍冷蔵庫、活魚出荷施設など、出荷・流通施設整備を支援し、品質向上による漁家経済の安定・向上を図る。（ア）</p>	<p>■ 令和元年度取組 水産物の品質向上による漁家経済の安定・向上を図るため、農山漁村未来創造事業（県単）を活用した漁協の施設整備を支援した。</p> <p>■ 成果 牟岐町漁協における漁獲物吊上ホイスト、浅川漁協における全自動製氷機、鞆浦漁協における網捌機付トラックの導入が行われた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 海藻、貝類の養殖拡大を視野に入れ、大学や企業と連携し、新しい漁業の創出を図る。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 美波町の漁業者等で組織する「美波の海の恵み研究会」によるワカメの養殖試験を指導するなど、新しい漁業の創出に向けた取組みを推進した。 ■成果 早どりの養殖ワカメ「明けの春姫」のブランド化が進んだ。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 美波町
<p>【施策④】 漁業関係者と大学等が連携して、地元食材、低利用・未利用の素材を用いた新商品の開発などの活動を支援する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 低利用魚であるアイゴの加工など、漁業関係者等による新商品の開発に向けた活動を支援した。 ■成果 新たに2商品（アイゴのフライ、ウツボの大和煮）が開発され、平成29年度からの累計開発数は4商品となった。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 海陽町 美波町
<p>【施策⑤】 自治体や漁協が実施する種苗放流および増養殖場整備など、資源増大や漁場機能の回復を図る取組みを支援する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 水産資源の増大や漁場機能の回復を図るため、国や県単独の補助事業を活用し、自治体や漁協が実施するアワビ・トコブシの種苗放流の取組みを支援した。 ■成果 アワビ種苗放流3件（伊島漁協、牟岐東漁協、牟岐町漁協）、トコブシ種苗放流2件（浅川漁協、宍喰漁協）の実施により、水産資源の増大が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●広域浜プランの取組みのひとつである、アワビ輪採制事業で収穫したアワビや、両漁協青年部で実証を進めているカキの養殖事業による新商品やブランド化を模索する。</p> <p>●「アワビまつり」において、漁協と連携してアワビをはじめとする地元鮮魚・魚介類の販売や海を活かしたPRを実施することで、交流人口の増加を図る。</p>	<p>●アワビ輪採制による初めての収穫年の予定だったが、モニタリングによると生育が遅れており、大型台風の影響もあったことから収穫を1年遅らすこととなった。カキの養殖については、マガキは好調だったが、イワガキは不調だった。頻繁している貝毒の影響もあり一旦実証事業は中止するが、浅川の既存事業者に教えを請いながら天然カキの可能性について研究をしていく。</p> <p>●アワビまつりは2日間実施し、約2,000人の来場があったことからPRを含め効果があった。</p>	牟岐町
<p>●美波の海の恵み研究会等が、海藻養殖事業にてブランド化した早摘みワカメ“明けの春姫”とワカメめかぶを配合した植物発酵エキス配合飲料“ハルヒメ”の販路拡大を支援する。</p>	<p>●美波の海の恵み研究会は、養殖ワカメを使った栄養ドリンク「ハルヒメ」を商品化し、漁業者の新たな収益を確保する6次産業化を推進するため町内3ヶ所まで販売した。</p>	美波町
<p>●町内3漁協（浅川、鞆浦、宍喰）合同で「とれとれ市」（鮮魚販売）を漁協主体により開催する。また、冷凍加工設備を使用し、地元食材を学校給食に提供するとともに新商品と販売ルートの開発を行う。</p>	<p>●R1.12.15「とれとれ市」を開催。延べ1,200人が来場した。新商品については、ウツボの加工品を異業種間で連携して販売促進に繋げるためのマッチング相談会に参加した。</p>	海陽町

【プラン14】 県南林業の成長産業化の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 競争力・生産性の高い林業・木材産業の推進	イ 伐採・再造林による循環型林業の促進
ウ 「新たな森林管理システム」の本格運用	エ 森林環境譲与税を活用した林業の成長産業化の推進
オ 計画的な路網整備の促進	

プラン評価（事務局案）	評価困難	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>令和元年度からスタートした「スマート林業プロジェクト」により、これまで取り組んできた搬出間伐に加え、主伐による県産材の増産を図るため、ハーベスタなどの主伐に対応した先進林業機械の導入やドローンの有効活用を進め生産性の向上を図るとともに、コンテナ苗木などを活用した再造林を進めた。</p> <p>また、令和元年度から始まった「新たな森林管理システム」の構築を支援するとともに、「森林環境譲与税」の活用を図るなど、森林資源の循環利用と持続的な林業を展開している。</p> <p>今後も先進機械の導入や、「とくしま林業アカデミー」及び「那賀高校森林クリエイト科」と連携した人材育成を図り、県産材生産量の拡大に努める。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
県産材の生産量 〈'17〉 15.2万㎡ → 〈'22〉 26.3万㎡	15.2万㎡	20.9万㎡	22.4万㎡	23.8万㎡	26.3万㎡	—
		集計中（8月確定）				
主伐後の再造林面積 〈'17〉 79ha → 〈'22〉 95ha	79ha	80ha	85ha	90ha	95ha	—
		集計中（8月確定）				

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 年々充実を続ける森林資源の積極的な活用を図る「スマート林業プロジェクト」を推進する。</p> <p>(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 令和元年度からスタートした「スマート林業プロジェクト」では、令和6年度の木材生産量を60万㎡に高める取組みを行っており、令和元年度は、林業生産の基盤となる高性能林業機械の導入（6台）や林内路網の整備はもとより、「とくしま林業アカデミー」により即戦力となる15名の林業技術者を育成するとともに、新たな需要となる木質バイオマス発電所が安定的に稼働を推進した。</p> <p>■成果 木材の増産体制の充実が図られた。</p>	A	スマート林業課 南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 「ウッドソリューションセンター」を中心に、事業地確保による主伐等の推進に向けた取組みを展開する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 林業における様々な課題を解決する「ウッドソリューションセンター」について、美波管内では、海部森林組合内に「海部ソリューションセンター」を設置し、主伐を中心とした事業地確保に取り組んでいる。那賀管内では、「那賀町森林管理サポートセンター」による境界明確化や機械化推進など、主伐実施に向けた取組みを行った。</p> <p>■成果 森林整備の事業地確保が進んだ。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 これまで取り組んできた搬出間伐に加え、主伐による県産材の増産を図るため、先進的な林業機械の導入や効率的な路網の整備等により、生産性の向上を図るとともに、主伐後の再造林も積極的にを行い、森林資源の循環利用と持続的な林業を展開する。(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 新林業生産システムについては、高性能林業機械の導入や作業路網の開設を支援した。また、伐採後の再造林を積極的に行うなど、森林資源の循環利用と持続的な林業の展開に取り組んだ。</p> <p>■成果 南部管内で高性能林業機械を6台導入するとともに、作業路網を開設により、生産性向上に向けての効率化が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策④】 主伐後の造林経費の負担軽減を図るため、植栽時期を選ばず、年間を通じて植栽が可能となる次世代苗木（コンテナ苗）を活用した造林を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 森林所有者への負担が大きい再造林について、森林環境保全直接支援事業や環境林整備事業の「造林公共事業」を活用して、造林を実施した。</p> <p>■成果 伐採後の新植について、半数以上がコンテナ苗木による造林が行われており、裸苗からコンテナ苗へ、低コスト造林への移行が進みつつある。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑤】 平成31年度4月から施行された「森林経営管理法」に基づき、市町村が主体となった「新たな森林管理システム」の構築・運用を支援するとともに、「森林環境譲与税」の積極的な活用による森林の適正な整備・管理・担い手の育成、さらには木材の利用を促進するなど、「林業の成長産業化」に向けた取組みを加速する。 (ウ、エ)</p>	<p>■令和元年度取組 「新たな森林管理システム」の構築を支援するため、管内1市4町と県、(公社)徳島森林づくり推進機構により「とくしま南部地域森林管理システム推進協議会」が設立され、これを母体として海陽町に「ハローフォレスト海部」が、那賀町に「ハローフォレスト阿南・那賀」が開設され、森林所有者の持つ山の管理についての悩みや心配事に対応するとともに、所有者に対し林業経営の意向調査を実施した。</p> <p>■成果 適切な森林の整備・管理・担い手の育成、木材の利用を促進に取り組む体制の整備が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑥】 効率的な森林施業を実施するため、林道・林業専用道や作業道等を適切に組み合わせたネットワークを整備するなど、計画的な林内路網整備を推進する。 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 効率的な森林施業を実施するため、円滑な皆伐作業に必要な林道・林業専用道や、間伐材搬出用の作業道等を整備延長する等、計画的な林内路網の整備・配置を推進した。</p> <p>■成果 令和元年度に県内で164kmの林内路網が整備されるなど、効率的な森林施業につながった。</p>	A	スマート林業課 森林整備課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●木粉を材料とした二次製品の販路拡大に向けた市場調査等を支援する。</p> <p>●木づかいあんしん住宅支援事業により、町産材の活用を推進する。</p> <p>●里山の高林齢化した未整備林を整備し、地域住民の生活圏周辺の森林環境と生活環境の改善を図る。</p> <p>●林業の担い手確保と育成を図るとともに、新たな施業システムの導入に向けた研究・開発を推進する。</p>	<p>●市場調査等により(株)那賀ウッドで製造された木粉から二次製品として、木粉簡易トイレ（災害時等の吸着剤）、発煙筒、ネコ砂など新商品を開発し販売を行った。</p> <p>●木づかい住宅等支援事業：1件 15.63㎡</p> <p>●里山再生を図るため0.91haの森林を伐採。令和2年度に広葉樹を植栽する。</p> <p>●林業体験「3Days」や那賀高校クリエイト科の生徒を対象に伐倒体験や高性能林業機械の試乗体験を実施し担い手確保に努めた。また、新たな施業システムの研究・開発として、「ケーブルグラップル」の開発を行った。</p>	那賀町
<p>●日本森林学会の林業遺産として登録された樵木林業を、樵木林業研究会と連携して技能継承による取り組みを実施し広葉樹の活用を図る。</p> <p>●森林環境譲与税並びに森林環境税を活用した新たな森林経営管理を促進し、環境保全へとつながる間伐・択伐を推進するとともに木材利用を図る。</p> <p>●整備されていない広葉樹林帯から備長炭を作り、特産物、消臭用材、濾過材、災害時燃料として利活用を推進する。また、木酢液についても利活用を模索する。</p>	<p>●樵木林業研究会とともに今後の活用に向けた地盤づくりの検討を行う。</p> <p>●とくしま南部地域森林管理システム推進協議会を立ち上げ、負担金により1地区の意向調査を実施した。今後は、長期的な計画を作成し、森林保全を進めるための境界明確化事業・間伐・人材育成を進める。</p> <p>●西又地区で行っている備長炭作りを地域おこし隊並びに集落支援員が主となって支援し、中学生のシラタマ学級で体験を実施したり、農水林連携による特産品のお米セットに活用したり、ウミガメ作業所と連携して、防臭用品としてかずら工芸と一体となった商品を開発した。</p>	牟岐町
<p>●森林環境譲与税を活用し、森林整備をはじめ、担い手の確保や林業就業者の育成を図る。</p>	<p>●森林環境譲与税を活用した林業の担い手への補助制度を創設し、徳島県南部地域の市町が「新たな森林経営管理制度」に対応するために「とくしま南部地域森林管理システム推進協議会」を設立した。</p>	美波町
<p>●海陽町産材活用住宅建築推進事業費補助金対象を拡充し、町産材の活用を推進する。</p>	<p>●本年度は新築住宅2軒、新築倉庫1軒の合計3件に交付。補助額2,283千円、請負額47,858千円が地元建築業者で施工された</p>	海陽町

(3) 「超スマート社会」の実現

【プラン15】「スマート農林水産業」の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア IoT技術導入等による先進農業モデルの構築	イ ドローン等を活用した森林調査やシカ防護柵の見回り効率化
ウ 漁業におけるリアルタイム水温等情報配信システムの利用推進	

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	次世代園芸技術を導入したキュウリ農家の10aあたりの収量については、「きゅうりタウン構想」の目標とする30トンの実現に向けて着実に栽培技術が向上している。 ドローンを活用したシカ防護柵の管理技術実証試験の実施の結果、ドローンの有効性が実証された。 また、ICTを用いた海水温の観測機設置は、順調に進み、効率的な漁業の推進に寄与している。		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
年収1,000万円を目指し次世代園芸技術を導入したキュウリ農家の10aあたりの収量 <'17> 23t → <'22> 30t	23t	25t	28t	29t	30t	◎
ドローン活用した林業用防護柵の見回り地区数 <'17> 試験実施 → <'22> 推進	試験実施	実証試験実施 実施済	推進 →			◎
ICTを用いた海水温の観測機設置箇所数 <'17> - → <'22> 5箇所	-	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
【施策①】 「きゅうりタウン構想」を実現するため、次世代園芸技術（養液栽培、複合環境制御、IoT技術）の導入・定着を図り、ベテラン農家並の多収技術を確立することにより、新規就農者の生産性向上を実装するモデルを構築する。 （ア）	■令和元年度取組 IoT等の次世代園芸技術を導入した7経営体のうち、2経営体が目標収量の25tを達成した。 ■成果 栽培経験の浅い新規就農者でもマニュアル（H30度作成）に即した栽培管理を行うことで、さらなる生産性向上を図ることが可能であることが明らかとなった。	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 林地において、ドローンを活用したシカ防護柵の管理技術の実証や、森林調査の利用などを検討し、林地管理の効率化を促進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 南部地域の林業事業体を対象に、ドローンを活用したシカ防護柵の管理技術実証試験を行うとともに、ドローン活用検討会を開催した。また、モデル的に1林業事業体にドローン導入の支援を行い、ドローンの有効活用を図った。</p> <p>■成果 管内での実証試験の結果、ドローンの有効性が実証され、1事業体（海部森林組合）がドローンを導入した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策③】 ICT技術を用いて海水温等のデータを集積し、漁獲量との関連性を調べるなど、「リアルタイム水質情報配信システム」の活用を促進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 今津地先、椿泊地先及び伊座利地先の計3箇所に観測機器を設置し、ICT技術を用いて海水温等のデータを集積する体制を整備するなど、「リアルタイム水質情報配信システム」の活用に向けた取組を促進した。</p> <p>■成果 ICT技術を用いた効率的な漁業の推進に寄与した。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 水産研究課

【プラン16】革新技術を活用した地域課題の解決

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 集積するSO企業と連携したICT人材の育成	イ コワーキングスペースの積極的活用
ウ IoT・AI等を活用した、戦略的なインフラのメンテナンス<再掲>	エ 「i-Construction」の取組みによる建設現場の生産性向上

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>サテライトオフィス企業や地元企業、阿南高専など多様な主体で構成するコンソーシアムを組織し、「地域課題の解決」と「新たなビジネスの創出」に資するコンテンツ開発に関する会議を開催することで、サテライトオフィス、大学、地元企業、地域住民等多様な主体が連携した地域課題の解決への取組みを実施できた。</p> <p>インフラメンテナンスでは、ビデオカメラ等を搭載したパトロール車による路面点検の自動化やドローンによる橋梁点検といった新技術を活用した維持管理手法の確立に取り組み、新技術を活用した路面点検の自動化が県下全域に展開できた。</p> <p>また、床上浸水対策特別緊急事業（和食・土佐地区）や河川改修事業（福井川）において、ICT土工により築堤工事を実施し、作業の省力化や効率化が図られた。</p> <p>「LEDバレイ徳島」の世界展開に向けては、国際規格適合の成績証明書付与、国内外大規模展示会へのブース出展による情報発信、教育機関・企業・県の共同研究による開発支援等により、県産LED製品の競争力向上に取り組んだ。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
コワーキングスペースを活用した地域課題の解決や新しいビジネス創出 <'17> - → <'22> 推進	-	推進 				-
LED新製品開発支援件数（県全体・累計） <'17> 145件 → <'22> 290件	145件	200 212	230	260	290	◎
LED応用製品の海外市場開拓数（県全体・累計） <'17> 10ヶ国 → <'22> 18ヶ国	10ヶ国	12 12	14	16	18	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 水産研究課美波庁舎に設けたコワーキングスペース「ミナミマリンラボ」等において、サテライトオフィス、大学、地元企業、地域住民等多様な主体が連携した地域課題の解決への取り組みやAI、IOTなどSociety 5. 0の革新技術に対応できる人材の育成等を促進する。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 サテライトオフィス企業や地元企業、阿南高専など多様な主体で構成するコンソーシアムを組織し、「地域課題の解決」と「新たなビジネスの創出」に資するコンテンツ開発に関する会議を開催。 ・ミナミマリンラボ（美波町）：3回 ・コワーキングスペース城山荘（海陽町）：2回 また、「地域資源を活かした持続可能なまちづくりへの挑戦」をテーマに開催したフォーラムにおいて、研究会の成果について発表。 ■成果 サテライトオフィス企業同士の相互理解や連携、地元企業等との協業機会の創出や人材育成を図ったほか、サテライトオフィスの取り組みについて地域に還元することができた。 体験型観光VRコンテンツが3本開発され、地域の魅力発信、スポーツ・健康への動機付けにつながった。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 各市町
<p>【施策②】 インフラの急速な老朽化による維持管理・更新費用の増大、担い手不足の懸念から、IoT・AI等を活用し、費用の平準化・縮減や作業の省人化、効率化を図るため、予防保全等の計画的なインフラのメンテナンスを推進する。〈再掲〉 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 加速度計やビデオカメラ等を搭載した道路パトロール車による路面点検の自動化やドローンによる橋梁点検の実証実験を実施した。 ■成果 新技術を活用した路面点検の自動化が県下全域に展開できた。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策③】 土砂災害による被害から生命・財産を守るため、土砂災害警戒区域に関する情報を広く住民に周知し、同区域の指定を進めるとともに、きめ細やかな雨量情報を提供するIoT雨量計の設置を推進する。〈再掲〉 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 土砂災害警戒区域等の説明会を実施し、警戒区域の指定を完了させた。（阿南管内1,289箇所、那賀管内959箇所、美波管内1,115箇所） また、IoT雨量計を設置する土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設等の調査・検討を実施した。 ■成果 警戒区域に関する情報を住民に周知することにより、土砂災害の危険性に対する認識の向上につながった。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策④】 今後の労働力不足に対し、安全で魅力ある建設現場とするため、「i-Construction」の取り組みを推進し、建設現場の生産性向上を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 床上浸水対策特別緊急事業（和食・土佐地区）において、5箇所でICT土工（測量業務・機械施工）により築堤工事を実施した。 また、河川改修事業（福井川）において、ICT土工（測量業務）により築堤工事を実施した。 ■成果 作業の省力化や効率化が図られた。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑤】 LEDバレイ徳島の世界展開を進めるため、LED関連企業の開発・生産、ブランド化、販路開拓などを支援することにより、次世代LED産業クラスターの形成を推進する。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 県産LED製品の国際市場における競争力の飛躍的向上を図るため、国際規格・ISO17025を満たす「LED測光試験所」である工業技術センターにおいて、県内企業の製品に国際規格適合の成績証明書を付与し、海外展開を後押しするとともに、県内企業の海外における販路開拓を支援するため、「海外大規模展示会」に県ブースを出展し、高品質な県産LED製品を発信した。</p> <p>■成果 LED応用製品の海外市場開拓数：12ヶ国（目標12ヶ国）</p>	A	新未来産業課
<p>【施策⑥】 徳島大学など県内高等教育機関、県内企業、工業技術センターの共同研究の推進等により、LED応用製品の開発支援に取り組む。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 国内大手や海外企業の低価格製品に対抗するためには、より付加価値の高い製品づくりが求められていることから、県独自の認証制度や共同研究の推進により県内LED企業における応用製品の開発支援に取り組んだ。</p> <p>■成果 LED新製品開発支援件数：212件（目標200件）</p>	A	新未来産業課
<p>【施策⑦】 県内LED関連企業が開発・生産する高品質なLED応用製品を大規模展示会から発信し、国内外市場における販路開拓を支援する。 (ア、イ)</p>	<p>■令和元年度取組 新たな市場展開を目指す県内LED企業の情報発信や販路開拓を支援するため、国内外の大規模展示会や見本市への県ブースの出展事業に取り組んだ。</p> <p>※R1度 県ブース出展実績 国内 徳島ビズ 祝フェスティバル、機械要素技術展、おおた研究・開発フェア 国外 欧州最大のインテリア産業見本市「リソ・I・オブジェ・パリ」</p> <p>■成果 LED応用製品の海外市場開拓数：12ヶ国（目標12ヶ国）</p>	A	新未来産業課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●阿南市における「LED 光のまちづくり」の各種施策について研究・検討する。</p> <p>●阿南高専と連携して設置したインキュベーションセンターにおいて、LED製品など新たな技術を開発する企業等を支援する。</p> <p>●インターネット動画サービス等により、「青色LED発祥の地阿南」「光のまち 阿南」を世界に発信することで、新しい利用の方向性を求める。</p> <p>●「光のまちステーションプラザ」を核としたLED体験・体感の充実を図る。</p>	<p>●阿南市インキュベーションセンターに入所中の4社（うち1社は令和2年1月から入室）において、新技術の研究を進めるとともに、「光のまち阿南」を世界に発信するための意見交換会等も開催している。また、最新情報の入手のために県企業支援課との連携に努める。</p> <p>●光のまちステーションプラザ及び活竹祭会場において、小学生を対象にLED学習、工作教室を開催するなど、LEDを使った物づくりに興味がわくよう取り組んだ。</p>	阿南市
<p>●ドローンの活用により、農林業への利活用等地域課題の解決に向けた社会実装を行う。</p>	<p>●ドローンに搭載したスペクトル（分光反射）カメラを使用し、ゆず園を撮影したデータからゆずの木の生育状況の調査を実施した。</p>	那賀町
<p>●サテライトオフィス、大学等と連携し、防災対策など地域課題解決に向け取り組んでいる事業のさらなる発展と充実を図る。</p>	<p>●“止まらない通信網”を活用した命をつなぐ減災推進事業において、平時から健康増進に努めてもらうことで、災害時避難できる体力の向上に向けマイレージポイントを付加した事業を実施した。</p>	美波町

4 自然とともに歩む地域づくり

(1) 美しく豊かな自然環境の保全と継承

【プラン17】多様な自然環境の保全

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 多様な自然環境の保全	イ 森林の公有林化の推進
ウ 地域特性を活かした多様で健全な森林への誘導	エ 「適正管理計画」に基づく野生生物の適正管理

プラン評価（事務局案）	要注視	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>南部圏域の豊かな自然環境を保全するため、間伐等による森林整備や、公有林化による森林の適切な保全・管理が進んでいる。</p> <p>千年サンゴサポーター数は順調に増加している。今後も継続したサポーター募集・保全活動に取り組むとともに、次世代を担う若年者への啓発活動を軸に、あらゆる機会を捉えて情報発信していく。</p> <p>狩猟免許新規合格者数（累計）は、9割以上の達成率であるが、新規試験合格者の約半数は60歳以上（45%）である。南部地域の高齢化・人口減少が進行する中、若年層への狩猟啓発活動を一層強化し、受検者数の増加を図っていく必要がある。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19 (R1)	'20 (R2)	'21 (R3)	'22 (R4)	'19(R1)達成度
民間協働で取り組む自然資源の保護活動支援者（千年サンゴサポーター）数 〈'17〉 321人 → 〈'22〉 360人	321人	330人 333人	340人	350人	360人	◎
公的管理森林面積（累計） 〈'17〉 3,079ha → 〈'22〉 4,900ha	3,079ha	3,800ha 集計中（8月確定）	4,200ha	4,500ha	4,900ha	—
狩猟免許新規合格者数（累計） 〈'17〉 333人 → 〈'22〉 540人	333人	420人 409人	460人	500人	540人	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策①】</p> <p>県南部の生物多様性の保護と「千年サンゴ」をはじめとする貴重な自然資源を守り、次世代に継承するため地域住民等と連携した保護活動を推進する。</p> <p>(ア)</p>	<p>■令和元年度取組</p> <p>千年サンゴと生きるまちづくり協議会や民間団体等と連携し、千年サンゴの保全活動や環境保全啓発に取り組んだ。</p> <p>※千年サンゴ保全活動 4回 海と親しむ体験イベント 参加者約30人 各種イベントにおける情報発信活動 4イベントに参加、参加者約900人</p> <p>■成果</p> <p>千年サンゴサポーター 支援者333人</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 水源林をはじめとする環境や防災面で重要な森林について、所有者の管理放棄や目的が明らかでない森林買収などに対応するため、公有林化（県版保安林、県・市町有林化等）を進め、適切な保全を図る。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 県有林化等推進事業や企業局の森づくり支援事業等により、森林を取得したほか、徳島森林づくり推進機構による分収林の買収等を図るとともに、県版保安林の指定を行い、森林の公有林化や公的管理が進んだ。</p> <p>■成果 主要業績指標集計中</p>		<p>南部総合県民局 農林水産部</p>
<p>【施策③】 造林・間伐による人工林の適正な整備や、「樵木林業」による広葉樹林の整備など、健全で豊かな森林の維持造成を図る。(ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 南部圏域において、造林の実施に加え、下刈や間伐、さらに作業道開設などの適切な森林整備を進めた。</p> <p>■成果 約1,100ヘクタールの間伐事業や約36千メートルの森林作業道の開設など、公益的機能の維持増進のため、健全で豊かな森林づくりを推進した。</p>	A	<p>南部総合県民局 農林水産部</p>
<p>【施策④】 「徳島県二ホンジカ適正管理計画」の達成のため、市町村が実施する有害鳥獣捕獲に加え、指定管理鳥獣捕獲等事業による県が主体となったシカの個体数調整捕獲を推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 「徳島県二ホンジカ適正管理計画」の達成に向け、阿南・海部海岸地域を含む県内7地区で指定管理鳥獣捕獲事業を実施した。</p> <p>■成果 県内で二ホンジカを805頭捕獲するなど、二ホンジカの個体数調整捕獲を推進した。</p>	A	<p>鳥獣対策・ ふるさと創造課</p>
<p>【施策⑤】 狩猟への関心を高めるため、各市町の鳥獣被害対策協議会や研修会等において情報提供を行うとともに、働く世代が狩猟免許を取得しやすいよう、日曜日に試験を実施することで、新たな狩猟人材の確保を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 試験日は、受験しやすい日曜日に設定し、年3回実施。各市町の鳥獣被害対策協議会や猟友会との連携を強化し、講習会等で試験概要等の周知に努めた。</p> <p>■成果 29名の狩猟人材を確保した。 ※受験者数 31名（合格者29名・合格率約94%）</p>	B	<p>南部総合県民局 保健福祉環境部</p>

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●「阿南市生物多様性ホットスポット」選定地の保全・活用の仕組みづくりについて関係者及び関係団体等と共に検討し、課題を共有する。</p>	<p>●「阿南市生物多様性ホットスポット」である伊島のササユリ保護活動について、阿南高専と連携し、伊島ささゆり保全の会の運営によりササユリ生育地保護ボランティア（1回、15名）を受け入れ、企業等からの活動支援を増やし、ササユリ生育調査を実施、科学的な情報の収集を行うことができた。</p> <p>また、本市の豊かな生物多様性を計画的かつ適切に保全し、その持続的な利用によって本市の活性化を図ることを目的として生物多様性あなん戦略を策定し、第7回生物多様性フォーラム（参加者約100名）では、生物多様性あなん戦略の解説、活動紹介・課題共有等を行った。</p>	<p>阿南市</p>
<p>●「美波町ウミガメ保護条例」に基づき、「大浜海岸のウミガメ及びその産卵地」の保全を図るとともに、イベント等を通じて自然環境保護の重要性を啓発し、ウミガメと人間が共存出来る豊かな自然環境を守る。</p>	<p>●5月20日から8月20日までの間、夜間の大浜海岸への立入禁止とともに付近の車両通行禁止を行った。</p> <p>また、同期間中にウミガメ上陸を知らせるウミガメメールの配信とパトライトの点灯により、ウミガメの上陸を周知することで産卵観察を促した。</p>	<p>美波町</p>
<p>●「海陽町海部川保全条例」・「海陽町ふるさとの水を守る条例」の制定により、きれいな水環境の実現を図る。</p> <p>●竹ヶ島海中公園自然再生協議会を通じてエダミドリイシの採卵、稚サンゴ育成と移植及びサンゴ育成モニタリング調査の実施による保全・再生活動を行う。</p>	<p>●海陽町内の河川7地点において前期・後期の年2回水質と底質調査を行った。その結果、水質について問題はなく、底質についても、過年度と比較しても安定した底質状態で特異な点はみられなかった。令和元年度において、海陽町ふるさとの水を守る審議会は開かれていない。</p> <p>●7/30.31、8/1の3日間 サンゴ産卵観測ツアー実施。</p>	<p>海陽町</p>

【プラン18】総合的な環境教育・環境学習の推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 生活排水対策の推進	イ 海洋漂着物や海洋プラスチックごみ問題の啓発
ウ 高校生等のボランティア活動への参加促進	エ 河川を対象とした環境学習やフィールド講座の実施

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見			<p>「徳島のみずべ」の魅力を発信する環境学習やフィールド講座をはじめ、水質保全啓発キャンペーン、環境教育など各種啓発活動を実施したほか、森林・林業体験により児童・生徒らの森林・林業への理解を深めるとともに、木育拠点を設置。</p> <p>業績指数はおおむね目標値を達成している。今後、環境への県民の関心をさらに呼び起こし、具体的な行動に結びつけていくためには事業実施状況を点検し、ブラッシュアップや内容の見直し等を行い、効果的な事業展開を推進する必要がある。</p>

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
環境啓発イベント等に参加し、具体的な環境行動を宣言する人数（累計） 〈'17〉 ー → 〈'22〉 400人	ー	100人 133人	200人	300人	400人	◎
「みなみから届ける環づくり会議」の「環境ボランティア活動証明制度」を活用した環境ボランティア受入れ団体数 〈'17〉 ー → 〈'22〉 5団体	ー	3団体 3団体	3団体	4団体	5団体	◎
牟岐少年自然の家を拠点とした自然体験・交流体験等への参加者数 〈'17〉 800人 → 〈'19~'22〉 年間900人	800人	900人 857人	900人	900人	900人	◎
小中高校に対する森林・林業学習の実施(累計)〈再掲〉 〈'17〉 10件 → 〈'22〉 60件	10件	30件 31件	40件	50件	60件	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策①】 地域の实情に適応した生活排水の適正処理を推進するため、水質保全に関する啓発を行うとともに浄化槽キャンペーンや浄化槽の維持管理に関する啓発・指導を実施する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 徳島県浄化槽月間（10月）において、水質保全及び浄化槽の啓発街頭キャンペーンを実施したほか、新設浄化槽設置管理者への浄化槽教室の開催や法定検査の受検指導等を実施した。 ※浄化槽水質検査未受検者への受検指導（10月） 浄化槽教室開催 6回 大規模浄化槽法定検査の受検指導（随時）</p> <p>■成果 受検指導により、水質検査未受検者の内約5%が受検し、受検率の向上が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策②】 みなみから届ける環づくり会議の水質ワーキングが中心となり、親子連れを対象とした水環境保全に関する環境教育を実施する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 水質保全に係る環境教育の一環として、保護者と小学生等を対象とした「川の探検隊（川の観察・水質検査）」を開催するとともに、民間企業と連携し、水質環境啓発ブースをイベントに出展した。 ※川の探検隊 2回実施（福井川・打樋川） 参加者 43名 ブース展開 1回実施（阿南市こどもフェスティバル） 参加者 約180名</p> <p>■成果 小学生等への環境意識の醸成が図られたとともに、小学生等でも気軽に実行できる環境行動宣言につなげた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策③】 若年層を対象に県南の海をフィールドにした体験型イベントや講座を通じて海洋環境の現状を学び、保全のため自分たちが何ができるか考える機会を創出し、具体的な環境行動を促します。(イ)</p>	<p>■令和元年度取組 千年サンゴと生きるまちづくり協議会等の民間関係団体と連携し、体験型イベントを実施したほか、各種イベントにおける啓発活動を展開した。 ※体験型イベント ビーチ・ミツグ、川の探検隊、親子シュノーケリング 体験 参加者計 約140人 啓発活動 阿南市こどもフェスティバル等 参加者計 約600人</p> <p>■成果 環境保全の重要性が実感できるイベントを提供することにより、参加者の環境行動宣言につなげた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策④】 牟岐少年自然の家を活用し、地域住民の参画を得て、地域の自然や文化活動を活かした自然体験、交流体験、食育等を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 牟岐少年自然の家を拠点とし、地域の特性を生かした活動を充実させるため、第三者運営委員会、運営協議会等を開催し、牟岐町渡船組合や牟岐町商工会、漁協、婦人会、高校生等、地域住民の協力を得て、様々な主催事業を実施。</p> <p>■成果 例年を上回るような参加者希望があった。後半は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2つの主催事業を中止とした。</p>	A	教育委員会

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑤】 みなみから届ける環づくり会議が策定した「環境ボランティア活動証明制度」を活用して、高校生等が地域の環境ボランティアに参加しやすい仕組みづくりを推進する。（ウ）</p>	<p>■令和元年度取組 県南地域の高校生等に対する環境ボランティア活動の場を提供するため、民間企業等と連携し、環境ボランティア受入団体の拡大に努めた。 ※受入団体数 3団体（高校生等受入数 約50名）</p> <p>■成果 受入団体として3団体を確保し、高校生等約50名を受け入れることにより、環境ボランティア活動への参加に対する意識の醸成が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑥】 豊かな森林資源の未来を創造し、次代の循環型成長産業を担う人材を育成するため、県立那賀高校「森林クリエイト科」において、林業教育を基盤とした新たなキャリアパスシステムを構築し、推進する。〈再掲〉（ウ）</p>	<p>■令和元年度取組 徳島森林管理署、南部総合県民局及び那賀町との連携・協力のもと、「労働安全衛生特別教育（チェーンソー、伐木）」の資格講習の受講、企業見学研修や中国四国農政局の出前授業を実施するなど、林業教育の充実を図った。また、地元木材加工会社と連携して、レーザー加工機等の設備を有効活用し、スマホスタンドなど商品開発に取り組んだ。</p> <p>■成果 国公立大学への進学や林業職の公務員、地域の林業関連産業への就職など、林業に関する様々な知識や技術を身に付けた人材を育成した。〈再掲〉</p>	A	教育委員会
<p>【施策⑦】 河川環境保全への意識啓発を行うとともに、「徳島のみずべ」の魅力を発信する環境学習やフィールド講座を実施する。（エ）</p>	<p>■令和元年度取組 小学生を対象に環境学習やフィールド講座を実施した。（阿南管内：2校）</p> <p>■成果 河川環境保全への意識の向上につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑧】 若手林業従事者「山武者」や「もりもり」など地域林業関係者との連携を図り、小中高等学校および大学生を対象とした森林・林業体験を実施し、森林・林業への理解を深めるとともに、林業の担い手の確保につなげる。〈再掲〉（ウ）、（エ）</p>	<p>■令和元年度取組 那賀町林業従事者会「山武者」や森林組合、林業事業者などのサポートを得ながら、フォレストキャンパス那賀等を活用して、那賀高校森林クリエイト科をはじめとした地域の小中高校の生徒を対象とした森林・林業体験を実施した。</p> <p>■成果 森林・林業体験を、美波管内4回（185人参加）、那賀管内6回（184人参加）実施し、林業の担い手の確保につなげた。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑨】 県民が木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動である「木育」を推進するため、木とふれあい、木に学び、木でつながることができる「木育の拠点」を整備する。〈再掲〉 (ウ), (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 南部地域では、海陽町（まぜのおかオートキャンプ内）、阿南市（牛岐城趾公園管理事務所の「あなんテレワーク推進センター」内や阿南市役所あなんフォーラム内、トヨタカローラ徳島 阿南店内）と那賀町（地域子育て支援センター及び林業ビジネスセンター内、相生森林文化公園あいあいらんど）に、「木育の拠点」が整備されており、木材の良さを体験できる場を提供した。 ■成果 南部地域の「木育の拠点」は7箇所となっており、各施設における木育広場の利用促進を図ることで、「木育」の輪が広がった。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 農林水産部
<p>【施策⑩】 土地改良施設や農地等の保全及び農山漁村地域の活性化の推進に対し、理解と熱意を有する地域のリーダーとなる「ふるさと水と土指導員」の育成とその活動を支援する。 (ウ), (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 農山漁村地域の活性化を図るため、那賀町、牟岐町及び美波町の4名の「ふるさと水と土指導員」が実施する地域活動（耕作放棄地への植栽による景観保全、都市住民との交流活動、レンゲ米等の栽培による地域活性化活動）を支援した。 ■成果 「ふるさと水と土指導員」が実施する地域活動の支援により、農山漁村地域の活性化が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農山漁村振興課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●食と健康のつながり、食の大切さを学ぶ「薬食同源」を推進するため、食育キャラクター（海陽戦隊ゲンキレンジャー）による子どもへの食育啓発、関係機関とともに小学生を対象とした栽培体験授業や思春期の子どもを持つ保護者を対象とした食育講演会の実施、また、地元の主婦を対象として料理研究家を招き、地元食材を使った料理等の開発や広報誌・HPで旬の農水産物とそのレシピの紹介を行う。</p> <p>●農水産物の直産市の開催や学校給食・保健福祉施設等における地域食材の積極的利用、地産地消協力店・生産者の登録・HPでの紹介を行う。</p>	<p>●学校や栄養士さんなどの連携により、学校給食に地元食材をより多く取り入れていただき、子供たちに食べていただいた。 また、県立病院でも継続して使用していただいている。</p>	海陽町

(2) 豊富な自然資源等の利活用

【プラン19】自然と調和したまちづくりの推進

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取り組み

ア 集落で取り組む総合的な鳥獣害対策の普及
ウ 県管理道路における道路照明灯等のLED化の推進

イ 公共工事における環境配慮の実施
エ 木製（間伐材）ガードレール等の整備・修繕を推進

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための共同活動（農地・農業用施設等の保全）に対し、交付金による支援を行うことで、3,022haの地域資源の保全が図られた。</p> <p>また、新規に事業を予定している農業農村整備事業1地区の事業計画作成において、「徳島県田園環境配慮マニュアル」に基づく、動植物の生育環境に配慮した事業計画を策定したほか、河川護岸工事において、コンクリート粗面ブロック積工法で施工するなど、自然環境に配慮した工事を実施し、景観や生物多様性の保全が図られた。</p> <p>県管理道路においては、道路照明灯のLED化を実施し、省エネルギー対策の推進につながった。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
集落ぐるみで鳥獣害対策に取り組むモデル集落数（累計） <'17> 7集落 → <'22> 28集落	7集落	16集落 17集落	20集落	24集落	28集落	◎
「徳島県田園環境配慮マニュアル」に基づく事業計画策定地区数（累計） <'17> 14地区 → <'22> 19地区	14地区	16地区 16地区	17地区	18地区	19地区	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 侵入防止柵の設置などのハード整備とモンキードッグ育成や鳥獣を寄せ付けない環境整備などのソフト対策を組み合わせ、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策を推進する。</p> <p>(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 那賀町横石地区では、大型シカ捕獲檻の実証等により、集落全体で鳥獣被害に対する意識を高めた。那賀町木頭大城地区及び美波町山河内、海陽町四方原地区では、鳥獣被害防止対策の研修会や集落点検による鳥獣防止柵の点検・整備を実施した。牟岐町灘地区では、ソフトエアガンを用いたサルの追い払い等を実施した。</p> <p>■成果 令和元年度は、モデル集落を5地区で育成し、集落で取り組む鳥獣被害対策が実施された（H30：5地区、累計17集落）。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮にあたり、農地・農業用水等の保全のための地域の共同活動により行われる取組みや、中山間地域等における農業生産活動を推進する取組み等を支援する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 多面的機能支払交付金を活用し、3,022haの農地に対する農業の多面的機能の維持・発揮のための地域協働活動を支援するとともに、中山間地域等直接支払交付金を活用し、758haの農地に対する営農活動を支援した。 これらの活動支援により「まちを支える地域づくり」を推進した。 ■成果 農地・農業用水等の保全のための地域の共同活動、中山間地域等における農業生産活動が促進された。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農山漁村振興課
<p>【施策③】 「阿波地美栄」の消費拡大やPRを推進するとともに、未利用資源の利活用を推進する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 野生鳥獣の利活用を推進するため、「阿波地美栄×狩猟フェスタ」や「阿波地美栄料理レシピグランプリ」等を開催する等、「阿波地美栄」の消費拡大やPRを推進した。 ■成果 「阿波地美栄」の消費拡大やPRが推進され、ジビエとしての利活用が拡大した。</p>	A	鳥獣対策・ ふるさと創造課
<p>【施策④】 景観や生物多様性など自然環境の保全を図るため、「徳島県田園環境配慮マニュアル」や「徳島県公共事業環境配慮指針」に基づき、環境負荷の少ない計画や工法を採用した公共事業に努める。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 農業農村整備事業の新規1地区において、自然環境調査に基づいた環境配慮事業計画を策定するとともに、継続中の8地区で自然環境に配慮した工事を推進した。 また、道路河川兼用護岸において、ポーラスコンクリートブロック（粗面ブロック）積工法で施工するなど、自然環境に配慮した工事を実施した。 ■成果 環境負荷の少ない計画や工法を採用した公共事業により、景観や生物多様性など自然環境の保全が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 県土整備部
<p>【施策⑤】 省エネルギー対策を推進として、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 県管理道路において、道路照明灯のLED化を215基実施。 （阿南管内28基、那賀管内135基、美波管内52基） ■成果 省エネルギー対策の推進につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑥】 県管理道路において、道路景観の向上のみならず、県産材（間伐材）の利用促進に効果的で、木材産業の活性化に寄与する木製（間伐材）ガードレール等の整備・修繕を推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 木製（間伐材）ガードレール等の整備・修繕に向け、調査・設計を推進した。（国道195号、木沢上那賀線など） ■成果 県産材（間伐材）の利用促進につながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名																		
<p>●阿南市内にある水銀防犯灯のLED型防犯灯への交換を検討する。</p>	<p>●令和元年度はLED防犯灯47灯を新設した。 なお、平成28年度までに阿南市内の蛍光灯型防犯灯を全灯LEDへと交換し、水銀灯型防犯灯を除く市内防犯灯のLED化を完了している。</p>	阿南市																		
<p>●牟岐の自然を守り、次世代継承のため、地元住民、団体などによる連携のもと、自然と共存するまちづくりに向けた環境保全活動、地域の活性化に繋がる活動を推進する。</p>	<p>●千年サンゴ周辺の生物環境調査2回、サンゴ食害生物の駆除活動を2回実施し、サポーター会員向けに広報ペーパーの発行を行った。</p>	牟岐町																		
<p>●田井ノ浜、恵比須浜、沿岸域や沖合ダイビングスポット、日和佐川中・上流域など、改善や拡充の余地を有する空間を再調査し、観光協会や関係住民等と連携しながら集客スポットとして再生又は創出する。</p> <p>●県猟友会が実施する研修会や狩猟免許受験費用の一定額を助成することで、新規狩猟免許取得者を確保し、有害鳥獣駆除従事組織の持続に努める。</p> <p>●駆除班員の手薄な地域等について、近隣市町駆除班からの応援を受けることができるような仕組み作りを模索する。</p> <p>●ウミガメを含む生物に悪影響のある光害に対して、関係機関が連携し対策を模索する。</p>	<p>●観光協会と町内の観光事業者が連携し、由岐地区の田井ノ浜などでSUP等が出来ないか協議をすすめた。</p> <p>●美波町単独事業として、狩猟免許取得に要する講習会費と受験費用の半額に相当する9,500円を新規資格取得者2名に補助し有資格者の増員を促進したほか、有害鳥獣侵入防止柵設置事業として電気柵等の設置に要する材料費の半額補助として5件に対し総額564,000円を交付し鳥獣被害軽減に努めた。</p> <p>●駆除班員の手薄な地域については、令和元年度においても他地域の駆除班員が活動区域を広げて対応し一定の成果を上げている。</p> <p>●ウミガメへの光害対策として、民間の宿泊事業者や寺院、及びテニスコート利用者にご協力いただき、照明時間の短縮を行うなど減光対策を行った。</p>	美波町																		
<p>●海陽町産材活用住宅建築推進事業費補助金の対象を新築住宅だけでなく、増築・店舗・倉庫等にも対象を拡充し、町産材の活用を促進することにより、町産材の流通を活性化し、未管理森林の発生を防止し、健全で豊かな森林の維持・造成を図る。</p> <p>●町内にある防犯灯を、新設又は更新するものから、順次LED型防犯灯へと転換する。</p> <p>●有害鳥獣の計画的な駆除及び集落単位での防護施設の整備等を図る。</p>	<p>●本年度は新築住宅2軒、新築倉庫1軒の合計3件に交付。補助額2,283千円、請負額47,858千円が地元建築業者で施工された。</p> <p>●防犯灯新規設置5基。町内の防犯灯LED化を推進した。</p> <p>●有害鳥獣の駆除件数 総数 977頭</p> <table border="0" data-bbox="1003 1066 1792 1161"> <tr> <td>イノシシ（成獣）</td> <td>300頭</td> <td>（幼獣）</td> <td>50頭</td> <td>合計</td> <td>350頭</td> </tr> <tr> <td>シカ（成獣）</td> <td>537頭</td> <td>（幼獣）</td> <td>3頭</td> <td>合計</td> <td>540頭</td> </tr> <tr> <td>サル</td> <td>87頭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	イノシシ（成獣）	300頭	（幼獣）	50頭	合計	350頭	シカ（成獣）	537頭	（幼獣）	3頭	合計	540頭	サル	87頭					海陽町
イノシシ（成獣）	300頭	（幼獣）	50頭	合計	350頭															
シカ（成獣）	537頭	（幼獣）	3頭	合計	540頭															
サル	87頭																			

【プラン20】自然エネルギー・水素エネルギー活用の推進
徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 自然エネルギー「地産地消」プロジェクトの推進	イ 「自立分散型電源」の導入促進
ウ 水素ステーションの整備	エ 災害時電源確保モデルの展開

プラン評価（事務局案）	要注視	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」を、「2030年・電力自給率50%」という野心的な目標を掲げた戦略に改定し、自然エネルギー導入促進を図るとともに、「水素グリッド構想」に基づく水素エネルギーの社会実装に取り組んだ。</p> <p>「川口ダム自然エネルギーミュージアム（川口エネ・ミュージー）」を核とした科学技術による人材育成や、川口ダム湖畔を中心としたスマート回廊周辺地域のにぎわい創出に取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症対策として、一時休館を行ったほか、魅力発信力のあるデジタルアート設備の一時休止や工作・実験教室等のイベント中止などにより、体験者数の目標値未達に大きく影響した。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17 (H29) 実績	'19 (R1)	'20 (R2)	'21 (R3)	'22 (R4)	'19 (R1) 達成度
川口エネ・ミュージー年間延べ体験者数 〈'17〉 17,370人 → 〈'22〉 18,500人	17,370人	17,500人 15,421人	17,800人	18,100人	18,500人	○
燃料電池バスの運行 〈'17〉 - → 〈'22〉 運行	-	推進 推進	推進	推進	運行	-
エコカーを活用した電力供給に関する普及啓発の実施数 （累計） 〈'17〉 5件 → 〈'22〉 10件	5件	7件 7件	8件	9件	10件	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、温室効果ガス排出削減や分散型エネルギーによる災害対策、地域の活性化等を目的として、「自然エネルギー」の導入を促進する。（ア）</p>	<p>■ 令和元年度取組 令和元年7月に「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」を改定し、その具現化に向け、産学官金による「自然エネルギー立県とくしま推進プロジェクトチーム」を設置し、11月に初会合を実施した。 今後、本プロジェクトチームの下、更なる自給率の向上に努める。</p> <p>■ 成果 R元年11月、プロジェクトチームの初会合を開催、電力自給率の向上等に向けて協議、方向性を確認した。</p>	A	自然エネルギー推進室

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 自然エネルギー活用の大切さを啓発するため、水力及び太陽光等の発電や環境学習の拠点となる施設を整備し、「とくしま自然エネルギー探検隊事業」などで活用する。</p> <p style="text-align: right;">(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 自然エネルギーの普及促進と次代を担う子どもたちの科学に対する関心を高めるため、環境やエネルギーに関する学習の場として平成28年度に整備した「川口エネ・ミュージアム」を活用し、太陽光・水力・風力・木質バイオマス発電設備の見学、水素の活用、最新のデジタル技術を用いた映像等の体験学習などに積極的に取り組んだ。</p> <p>■成果 自然エネルギー探検隊において75名の参加があったことや、「川口エネ・ミュージアム」とあすたむらんどとの2カ所を繋いだICT授業を実施したことにより、自然エネルギー活用の理解促進が図られた。</p>	A	企業局
<p>【施策③】 川口ダム自然エネルギーミュージアム「川口エネ・ミュージアム」とその周辺施設が連携し、自然エネルギー活用、先端のデジタル・ロボットテクノロジーや科学展等の体験による賑わいづくりに取り組めます。（再掲）</p> <p style="text-align: right;">(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 「川口エネ・ミュージアム」を核とした科学技術による人材育成や、川口ダム湖畔を中心としたスマート回廊周辺地域のにぎわい創出に取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症対策として、一時休館を行ったほか、魅力発信力のあるデジタルアート設備の一時休止や工作・実験教室等のイベント中止などにより、体験者数の目標値未達に大きく影響した。</p> <p>■成果 川口エネ・ミュージアム年間延べ体験者数 <目標>17,500人 → <実績>15,421人</p>	B	企業局
<p>【施策④】 地域防災力の向上を目指し、災害時の切り札となる自然エネルギーを活用した「自立分散型電源」の導入を促進する。（イ）</p>	<p>■令和元年度取組 四国電力や金融機関と連携したワンストップ相談窓口を設け、補助金や貸付金制度など、個人や事業者の「自立分散型電源」の導入を支援した。</p> <p>■成果 ワンストップの相談により、「自立・分散型電源」の導入を考えている個人や事業者を支援することができた。</p>	A	自然エネルギー推進室
<p>【施策⑤】 地球温暖化対策の切り札となる究極のクリーンエネルギー「水素」の利活用拡大のため、「水素ステーション」の整備を促進するとともに、「燃料電池バス」をはじめ水素モビリティの積極導入を促進する。（ウ）</p>	<p>■令和元年度取組 「徳島県水素グリッド構想」に基づき、地産エネルギー「副生水素」を活用した県内の「水素供給拠点」構築に向けた取組みを進めるとともに、「燃料電池バス」の実証運行（徳島空港線・鳴門公園線）を行うなど、本県における水素モビリティ導入拡大に向けた取組みを推進した。</p> <p>■成果 県内における水素エネルギーの積極運用が図られ、地方から水素社会実現に向けた取組みが進展した。</p>	A	自然エネルギー推進室

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑥】 電気自動車など次世代エコカー（EV、FCV、PHV等）の優れた蓄電・発電機能を災害時の非常用電源として有効活用するため、県及び市町村の公用車を次世代エコカーに更新するとともに、それをを用いて防災拠点や避難所等へ電力を供給する取組（V2Hの設置等）を推進する。（エ）</p>	<p>■令和元年度取組 「走る発電所」として災害時の非常用電源に期待されるFCVを活用し、「県総合防災訓練（阿南市）」をはじめとする県内イベント等で外部給電のデモンストレーションを実施するなど、普及啓発に努めた。</p> <p>■成果 普及啓発により、環境性能だけではなく、災害時の非常用電源としても有効な次世代エコカーへの理解が深まった。</p>	A	自然エネルギー推進室

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●地域の活性化とコミュニティの再生を図るため「地域自立型クリーンエネルギー発電事業」の可能性を調査する。</p> <p>●三重大学船岡教授が発明した相分離変換システムのパイロットプラントを整備しリグノフェノール及びセルロース・ナノファイバーの製造実験を行う。 製造されたリグノフェノール及びセルロース・ナノファイバーは石油製品に替わる応用製品などに使用するため試験製造を行う。</p>	<p>●平成27年度秋期から那賀町に建設されていたパイロットプラントは、那賀町が加盟する技術組合（LIPS）の組合員である関西化学機械製作（株）に移設された。その後、リグノフェノールの製造はほとんど行っておらず、代わってリグノフェノールナノセルロース複合体(LNCC)の製造方法検討と用途開発が進められている。令和元年度は、LNCCの精製方法の検討が行われ、残留クレゾール及び硫酸の大幅な低減がなされた。製造したLNCCはPPなどのポリオレフィンに混練し強度など物性の向上が見られないか検討している。また、那賀町においては、LIPSの資料室を旧水の花荘に設けた。</p>	那賀町
<p>●町内の未利用地（工場跡地・土砂採石場跡地）等への企業による大規模太陽光発電施設の誘致や、住民への住宅用太陽光発電システム設置費用の助成制度などにより、「地域自立型クリーンエネルギー」の導入を促進する。</p>	<p>●平成31年度海陽町住宅用太陽光発電システム設置費補助事業を、予算額1,600,000円（160,000円×10件分）で実施。 実績として申請件数2件で実績額320,000円（160,000円×2件分）となった。</p>	海陽町

5 にぎわいと笑顔あふれる地域づくり

(1) 訪れたい、住み続けたい魅力的な地域の創造

【プラン21】「四国の右下ファン」の創出・拡大

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 大学生等と地域の協働による地域課題の解決
ウ サテライトオフィス誘致の加速

イ 多様化する移住・定住希望者のニーズに対応した切れ目ないサポート

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>平成27年度に設置した「『四国の右下』若者創生協議会」において、県民局と圏域内市町が一体となり移住・定住・交流促進、サテライトオフィス誘致に取り組んだ。</p> <p>圏域を網羅する「移住アドバイザー」を配置し、市町移住相談員のスキルアップと連携強化を推進。移住施策の現状を共有した上で、圏域として足並みをそろえた施策を展開することができた。</p> <p>サテライトオフィス誘致では、開設に関心のある企業に対し、ワンストップで対応するコンシェルジュが相談、視察受入れ等に一元的に対応し、新たに3企業のSO認定企業登録につながったほか、SO企業を中心に多様な主体が連携した研究会活動により新たなビジネス創出や地域課題解決に取り組み、SO定着を後押しできた。</p> <p>また、南部圏域でのフィールドワークを実施し、人材育成と交流人口拡大を図るとともに、地域おこし協力隊や新規事業に取り組みたい方を対象にしたローカルベンチャースクールを実施し、地域資源を活用し自らしごとを創出する人材育成、人材定着に努めた。</p> <p>これらの取組により、業績指標はいずれも目標を達成している。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
県外からの移住者数 〈'17〉 380人 → 〈'22〉 500人	380人	350人 469人	400人	450人	500人	◎
県外からの移住者数（45歳未満） 〈'17〉 282人 → 〈'22〉 350人	282人	250人 349人	280人	320人	350人	◎
サテライトオフィスの誘致（累計） 〈'17〉 24社 → 〈'22〉 34社	24社	28社 29社	30社	32社	34社	◎
南部圏域でのフィールドワーク参加学生数（延べ参加人数） 〈'17〉 535人 → 〈'22〉 500人	535人	500人 1,146人	500人	500人	500人	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 大学生と地域の交流による「四国の右下ファン」の創出や大学生目線による地域課題の解決を目的に、南部圏域において県内外の大学生によるフィールドワークを実施する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 県内3大学・県外5大学の学生が県南でフィールドワークを実施することで、地域資源の発掘や若者の発想や視点を活かした地域活性化に向けた取組みを推進した。 ■成果 参加学生は地域との交流を深めることで、地域への愛着を持つことができ、今後も地域と関わりをもつ「四国の右下」ファンを創出した。「空き家の利活用」や「商店街の活性化」などの地域課題について、産官学が一体となり、解決への取組みが進められた。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 各市町
<p>【施策②】 「ひと」と「しごと」が好循環する持続可能な「まち」の実現に向け、県と市町で「『四国の右下』若者創生協議会」を設置し、「大学生と地域の“密な”連携・協働による関係人口の拡大・深化」、「地域ニーズに基づく人材誘致・育成による移住・定住」及び「集積を活かしたサテライトオフィスの誘致」を促進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 ・大学生と地域交流によって課題を解決する「県南地域づくりキャンパス事業」を実施した。 ・「四国の右下」移住ナビHP等での効果的な情報発信を行った。 ・移住アドバイザーの活用による移住相談体制の充実を図った。 ・サテライトオフィス総合相談窓口として、コンシェルジュを専任配置した。 ・サテライトオフィスの連携等の促進を目的とした「四国の右下」右上がり研究会を実施した。 ■成果 ・「空き家の利活用」など産官学が一体となり地域の課題解決に取り組むことができた。 ・HPにおいて、空き家や仕事など情報発信を行い、移住に向けた関心の醸成を図り、移住を促進した。 ・移住アドバイザーによる研修会を実施することで、移住施策の現状を共有し、南部圏域として足並みをそろえた施策を展開することができた。 ・コンシェルジュがサテライトオフィス企業や検討企業に対して相談、受け入れ支援を行い、サテライトオフィス誘致を促進した。 ・研究会を実施することで、サテライトオフィス同士の連携や新たなビジネスの創出を推進した。 以上のことから南部圏域における交流人口の拡大、人材環流及び地域活性化を図ることができた。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 各市町

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策③】 移住希望者を対象として、圏域内での担い手確保や新規創業を促し、働く場や地域おこし協力隊等の働き方を発信するとともに、地域の企業や働き方が現地で体感できる機会を創出し、人材還流と地域活性化を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「四国の右下」なりわいつなぐコーディネーターを配置し、地域の企業掘り起こしによる移住希望者受け入れ態勢を整備した。 ・都市部移住フェアやセミナー等で移住希望者と地域の事業所等のマッチングを推進するとともにフェアやセミナー等で相談のあった移住希望者に対し、移住体験ツアーを実施した。 ・地域おこし協力隊等を対象に、新しい価値のあるビジネスを創出する企業（ローカルベンチャー）の立ち上げについて学ぶローカルベンチャースクールを実施した。 <p>■成果 <ul style="list-style-type: none"> ・なりわいつなぐコーディネーターが、地元の事業所に対し事業継承の希望等の聞き取りを行うことで、仕事の掘り起こしを行い、移住フェア等で地域ならではのやりがいのある仕事を紹介することができた。 ・参加者の希望に添ったセミオーダー式の移住ツアーを2回実施し、1名の移住につなげることができた。 ・ローカルベンチャースクールの実施により、地域おこし協力隊等の今後の活動の展開や任期終了後の事業プランの作成が円滑に行われた。 </p> </p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策④】 SNSや移住者フェア等を活用し、市町の移住相談で多い相談内容である空き家や仕事に関する情報などを全国へ発信し、県南部への移住に向けた関心の醸成を行う。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 「四国の右下」移住ナビにおいて市町の空き家、仕事など移住に関する情報提供を行った。 HPで63件、フェイスブックで280件の記事を掲載した。 また、都市部での移住フェア等に出展した際には、移住希望者が必要としている空き家や就農をはじめとした地域に関する情報提供を行った。</p> <p>■成果 移住に向けた関心の醸成を図り移住を促進した。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部
<p>【施策⑤】 市町や移住者受入れに積極的な住民団体を対象とした移住の受入れに関する研修会を開催し、移住促進のためのスキルアップや圏域内のネットワーク化を推進する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 市町担当者や移住支援員に対し、「移住アドバイザー」による移住研修会を5回実施し、情報発信の方法や移住フェアでの対応方法など、移住相談にあたる上で、必要なスキルの向上を図った。</p> <p>■成果 参加している各市町や住民団体における移住施策の現状を共有し、普段から相談しやすい関係を構築するとともに南部圏域として足並みをそろえた施策を展開することができた。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 各市町

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策⑥】 全国屈指の光ブロードバンド環境や地域資源を活かし、さらなる企業の誘致や新たな雇用の創出を図るため、「『四国の右下』若者創生協議会」に、ワンストップで視察相談・案内に対応する総合相談窓口（コンシェルジュ）を設置するとともに、オフィス開設に関心のある企業に対する認定制度の活用や、圏域アクティビティを組み合わせた視察ツアーの実施を行う。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 総合相談窓口としてコンシェルジュを配置し、サテライトオフィス企業や検討企業に対して相談対応、受け入れ支援を行った。 南部圏域独自のサテライトオフィス認定制度を活用し、費用面・情報面の支援を行った。また、誘致イベントにおいてサテライトオフィス開設に関心を示した企業に対して、圏域の魅力を実感してもらうため、希望に沿ったきめ細やかな視察（ツアー）を実施した。 ※視察受け入れ：83団体、485人 新規認定企業数：3社 視察実施（ツアー）：6社</p> <p>■成果 圏域内で新たに3つの企業をサテライトオフィス認定企業として登録した。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部 地方創生推進課 各市町
<p>【施策⑦】 美波町を舞台にサテライトオフィス誘致の創成期を描く映画「波乗りオフィスへようこそ」のショートムービー等を活用し、首都圏で県南の豊かな自然と新しい働き方をPRすることを通じ、主要都市に本社を置く企業における南部圏域へのサテライトオフィス進出の機運を醸成する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 地方にサテライトオフィスの進出を考えている県外企業と自治体間のマッチングイベントにおいて、ショートムービー等を活用した。 ※マッチングイベントの実施：東京（5回）、大阪（2回）</p> <p>■成果 県南の豊かな自然や新しい働き方をPRし、サテライトオフィス進出の機運を醸成した。</p>	B	南部総合県民局 地域創生部 地方創生推進課 各市町
<p>【施策⑧】 ワーク・ライフ・バランスの向上や勤務形態の多様化に適切に対応するため、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用し、企業の従業員や個人テレワーカーが利用できる「テレワークセンター徳島」を拠点とした企業のテレワーク導入に向けた施策を積極的に展開するとともに、テレワーカー及びテレワークコーディネーターの養成を行うことで、テレワークの普及を図る。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 「テレワークセンター徳島」では、テレワーク業務ができる「ワーキングスペース」等を備え、個人・企業の方々が利用できる環境を整備し、専用サイトによる情報発信や多様な働き方を広く紹介し、普及啓発を行うイベントを実施するとともに、雇用型テレワークの普及を図るため、テレワーク導入企業等からの相談対応、助言を行う「テレワークコーディネーター」の養成及び企業への派遣など、認知度を上げる取組みを推進し、普及啓発に取り組んだ。</p> <p>■成果 テレワークの普及に取り組んだ。</p>	A	労働雇用戦略課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●移住交流支援センターの設置による、U・I・Jターン者等の受入れの整備。</p> <p>●利活用可能な空き家物件情報の把握に努める。また、定住自立圏共生ビジョンの取組内容に基づき、圏域町と連携して空き家情報の連携体制を検討した上で情報の共有に努める。</p> <p>●かもだ岬温泉保養施設内「かもだカフェ」の支援、富岡商店街での「阿南まちゼミ」への支援など、地域住民の活躍と交流により、地域の魅力を発信する。</p>	<p>●平成27年度に移住交流支援センターを設置以降、移住に関するワンストップ窓口として、相談業務、移住フェアやセミナーへの出展、移住関連サイトやSNSを活用した情報発信等を実施している。また、平成29年度からは、移住促進コーディネーターを配置し、移住前から移住後までトータルでサポートしている。</p> <p>●四国の右下若者創生協議会委託の移住促進コーディネーターや市内の移住支援団体、地域おこし協力隊等と連携し、各市町の空き家情報を収集し、情報共有を図っている。平成29年度からは、移住相談者の希望物件情報を事前に登録し、宅地建物取引業協会と連携して、マッチングを行う情報提供サービスを運用している。</p> <p>●かもだ岬温泉保養施設「かもだカフェ」の支援、富岡商店街等での「阿南まちゼミ」、「あなんまちマルシェ」への支援など、地域住民の活躍と交流により、地域の魅力が発信できるような環境整備等に努めた。</p>	阿南市
<p>●那賀町における移住交流人口増加を図るため、移住交流推進地としてブランド化させる、プロモーション活動を実施する。また、那賀町地域おこし協力隊による新規移住交流推進事業を計画・実施する。</p> <p>●移住者の増加を図るため、那賀町での田舎暮らしの魅力を情報発信するとともに、U・I・Jターンの移住希望者に対し、移住に係る障害の低減と増加する空き家屋の有効活用を進めるべく、売買及び貸借費用の低減補助を行う。また各地域組織団体等での空き家屋の紹介、移住者生活支援等の支援方法を検討する。</p> <p>●那賀町への移住希望者に対し、那賀町での田舎暮らしを体験することの出来る、「お試しハウス」を整備する。既存の田舎家屋を借り上げ、体験生活が出来るよう改修する。ここで生活体験をしてもらうことにより、具体的な魅力を実感しU・I・Jターン希望者の増加を促進する。</p>	<p>●JOIN主催の移住・地域おこしフェアにブースを出展し、来場者と移住相談を行うとともに、地域おこし協力隊の募集を実施した。また、那賀町地域おこし協力隊による県内外での那賀町PR活動を実施した。</p> <p>●那賀町の魅力発信と移住情報の提供のため、那賀町移住交流支援センターのホームページ（イイナカくらし）を制作。空き家情報や移住相談会情報、イベント情報などを提供した。空き屋居住のために障害となる家財道具の処分費補助など支援を行い貸借時の負担軽減をはかった。</p> <p>●民家を借り上げ、那賀町での田舎暮らしを体験することができる「おためしハウス」の運用を実施した。新規移住希望者が気軽に体験移住して本格的移住への足がかりをつくるための施設として活用した。</p>	那賀町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●空き家バンクの内容（件数、種類）の充実と、HP、パンフレットなどで情報発信を行う。あわせて、空き家及びその地域でのモデルとなるライフスタイルの提案と受入地域のコーディネーターを育てる。</p> <p>●住宅改修に係る助成制度を創設し、移住促進を図る。</p>	<p>●牟岐町HPと移住交流HP「MUGIZIN」で空き家バンクの情報発信を行い空き家バンク新規登録数6件、契約5件、改修4件行った。</p>	牟岐町
<p>●移住交流センターによる移住希望者のニーズにあった空き家情報の提供やお試し滞在施設の活用など移住交流コーディネーター及び地域づくり団体と連携し、移住の推進を図る。</p> <p>●コミュニティビジネスの創出のためのノウハウや育成のための助成を継続し、支援を行う。</p>	<p>●移住交流支援センターと移住アドバイザー等との連携により、移住相談会へ積極的に参加し移住の推進に努めた。また、お越し滞在施設を利用いただくことで移住への不安を少しでも取り除き移住へと繋げることができた。</p> <p>●門前町再生や廻船問屋「たんにゃ」保存活用事業などに助言等の支援を行った。</p>	美波町
<p>●空き家を地域資源として捉え、空き家バンクの機能が最大限に発揮できるよう、積極的な情報収集及び情報発信に努めるとともに、各種助成制度により必要な支援を行いながら、移住の促進及びサテライトオフィスの誘致を図る。</p> <p>●移住体験施設を有効に活用し、まちの暮らしの体験を通して、移住を促進する。</p>	<p>●町ホームページや窓口等で空き家バンク登録物件の情報を発信し、令和元年度は新たに17件を登録した。合計13件（賃貸10件、売買3件）の契約が成立し、移住・定住につながった。また、空き家改修支援補助金制度を利用した空き家の改修を14件実施し、空き家の有効活用につながった。</p> <p>●神野移住体験施設の暮らし体験をHPで紹介。なお、令和2年度からは穴喰移住体験施設の紹介も追記している。</p>	海陽町

【プラン22】「地域の宝」を育む結婚・妊娠・出産・子育て支援

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 「道の駅」における子育て応援 ウ 安全・安心な妊娠・出産への支援	イ 出逢い・交流の場づくり, 結婚支援 エ 子育て世代の経済的・心理的負担軽減のための支援の充実
---------------------------------------	---

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		「道の駅わじき」において、妊婦向け屋根付き優先駐車場スペースを整備し、子育て世代を応援する施設が充実した。 阿南市における「認定こども園」及び「放課後児童クラブ」の開設を支援するとともに、1市2町における「病児・病後保育事業」を補助することにより、安心して子育てができる環境整備に資することができた。 学校保健と連携し、小中高生を対象に高校文化祭や出前講座等の機会を利用して安全安心につながる心と体の健康づくりに関する普及啓発・情報提供を行い、若い世代からのライフプラン教育が推進できた。	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
「道の駅」における子育て応援箇所数（累計） <'17> - → <'22> 2箇所	-	1箇所 1箇所	1箇所	2箇所	2箇所	◎
小中高校生を対象としたライフプラン教育の実施回数 （累計） <'17> 79回 → <'22> 173回	79回	113回 119回	133回	153回	173回	◎
認定こども園設置数（累計） <'17> 13箇所 → <'22> 16箇所	13箇所	15箇所 15箇所	16箇所	16箇所	16箇所	◎
放課後児童クラブの設置数（累計） <'17> 18クラブ → <'22> 30クラブ	18クラブ	30クラブ 28クラブ	30クラブ	30クラブ	30クラブ	◎

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
【施策①】 少子高齢化対策の一環として、既存の「道の駅」に子育て世代を応援する施設の整備を推進する。 (ア)	<ul style="list-style-type: none"> ■令和元年度取組 「道の駅わじき」において、妊婦向け屋根付き優先駐車場スペースを整備した。 ■成果 子育て世代を応援する施設の充実化につながった。 	A	南部総合県民局 県土整備部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策②】 「とくしまマリッジサポートセンター（略称：マリッサとくしま）」を拠点とし、地域の特色を活かした魅力ある婚活イベントを開催するなど、市町等と連携し独身者に出会いの機会を提供し、結婚を支援する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 結婚したい独身者の希望を叶えるため、「マリッサとくしま」を拠点とし、ICTや縁結びボランティアを活用した、きめ細やかな支援を実施した。 また、南部圏域では、阿南市において出張登録会を開催し、会員の増加に努めた。 ■成果 市町等と連携した結婚支援の取組につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策③】 不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、医療保険が適用されず、高額な医療費がかかる配偶者間の不妊治療に要する費用の一部を助成する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 医療保険が適用されない体外受精・顕微授精に要する不妊治療費の一部助成を実施。 ※R1度助成件数 103件 ■成果 申請者の経済的負担軽減が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策④】 小中高校生を対象に安全安心な妊娠・出産につながる心と体の健康づくりに関する基本的な正しい知識の普及啓発、情報提供等を行い、若い世代からのライフプラン教育を推進する。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 高校生を対象に妊娠・出産・性感染症について講演会等を開催し、高校文化祭において妊婦体験、子育て疑似体験コーナーやエイズ・性感染症コーナーを設置し正しい知識の普及啓発に努めた。 また、たばこやアルコールの出前講座により、心と体の健康づくりについて健康教育を行うなど、若い世代からのライフプラン教育の推進に努めた。 ■成果 R元年度 26回 次代を担う若い世代が、妊娠や子育て等に関する正しい知識を習得するとともに、心と体の健康に関心を持たせることができた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑤】 乳幼児等の疾病の早期発見と早期治療を促進するとともに、安心して子どもを産み育てられるよう、市町が実施する子どもはぐくみ医療費助成事業に対して助成する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 管内1市4町に助成を行い、子どもの健全な発育の促進と、安心して子どもを産み育てられる環境の整備に努めた。 ■成果 子育てにおいて安心して医療にかかることができ、子どもの健全な発育の促進が図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑥】 人生経験の豊富な高齢者が子育て支援に参加することで、子どもやその親と世代間の交流が促進され、地域の子育て力の強化が図られることから、圏域内の子育て活動を実施しているシニア団体を支援するとともに、高齢者向けの研修会を実施する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 子育て支援活動を行うシニア団体・個人を表彰。 ■成果 子育て支援活動への協力意欲を高め、地域の子育て力の強化につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策⑦】 すべての子どもに適切な保育を保障し、質の高い幼児教育を提供できる認定こども園の設置を促進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 阿南市の宝田こどもセンターの開設（R2年4月）に係る支援を行った。 ■成果 質の高い幼児教育を提供できる環境整備につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策⑧】 昼間に保護者が家庭にいない児童に適切な遊びと生活の場を確保する放課後児童クラブの拡充を図るとともに、放課後児童クラブ利用料無料化制度を推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 放課後児童クラブの実施主体である市町村に対し、開設及び運営等の補助を行った。 ■成果 安心して子育てができる環境整備につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策⑨】 短期のパートタイム就労など、子育て家庭の様々なニーズに合わせ、より一層利用しやすくなるよう、一時預かりサービスの拡充を図る。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 保護者の勤務形態の多様化に伴うニーズに応じた一時預かりサービスを提供する市町村に対し、補助を行った。 ■成果 安心して子育てができる環境整備につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策⑩】 経済的負担軽減するため、保育所・幼稚園等保育料無料化制度を推進する。 (エ) (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 保育所等における第3子以降の保育料無料化の支援が、1市4町全域で実施された。（令和元年9月末までは3歳から5歳までの第2子以降の保育料無料化支援） ■成果 多子世代における経済的負担の軽減につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策⑪】 子育て環境の多様なニーズに対応するため、病児・病後児預かりの受け入れ体制の強化を促進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 病児・病後児保育事業を行う1市2町に対し補助を行った。 残りの2町についてもファミリー・サポート・センターにおいて病児預かりの体制が図られた。 ■成果 安心して子育てができる環境整備につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策⑫】 保育所を利用せず、在宅で育児をしている家庭の負担を軽減するため、様々な子育て支援サービスを利用できるクーポンを交付する事業に取り組む市町村に対して助成する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 在宅で0歳から2歳までの乳幼児を育児する家庭の負担を軽減するため、子育て支援サービスの利用料の支払いに使用できるクーポンを交付する市町村に対し、補助を行った。 ■成果 在宅で育児をしている家庭の負担軽減につながった。</p>	A	次世代育成・青少年課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●那賀町における子育て支援施策について、ガイドブックを作成し、那賀町の子育てにおける魅力を発信する。</p>	<p>●ガイドブック作成には至らなかったが、那賀町暮らしの便利帳へ子育て支援にかかる助成などの情報の掲示や那賀町子育てネットのQRコードを掲載し、子育て施策を発信した。</p>	那賀町
<p>●特別支援連携協議会を中心に関係機関と連携し、幼少時から就労に至るまでの支援体制の強化を図る。</p> <p>●子育て支援事業としてファミリーサポートセンター事業を推進するとともに、事業の中で子どもたちと地域住民との交流の場を設ける。</p>	<p>●特別支援連携協議会を中心に、個々のケースについても専門機関より意見を聞き支援につないでいる。中学校までしかない本町であるが、高校卒業後の見守り支援体制づくりも図っている。</p> <p>●ファミリー・サポート・センターの活動件数は134件。令和元年度は常時利用する方がおり活動件数が増加した。事業周知のため保育園等での広報活動を実施。</p>	牟岐町
<p>●子育て世代包括支援センターの設置に向けた検討を進める。</p> <p>●多様な出産・子育て支援制度の充実と情報発信を行う。</p>	<p>●妊娠届時に保健師・栄養士による面談を行い、状況把握や支援ニーズを踏まえて情報提供に努めた。また、母子保健事業と、医療・福祉・こども園・学校・地域等各関係機関と協働・連携し、切れ目のない支援に努めた。</p> <p>●子どもはぐくみ医療費助成を実施し、子育て支援制度の情報発信を行った。</p>	美波町
<p>●海陽町婚活実行委員会（コンカローレ海陽）主催による、地域資源を活かした婚活イベントを開催するとともに、とくしまマリッジサポートセンターと連携して、独身男女に出会いの場を提供し、婚姻率の向上を図ることにより、移住・定住を促進する。</p> <p>●子育て世帯が交流や相談できる機会を充実させ、子育て世帯が相互間また、子育て支援機関とのつながりを深めることにより、子育てしやすいまちづくりに取り組む。</p>	<p>●令和元年度については、南阿波定住自立圏連携事業として1市4町合同で婚活イベントを那賀町にて1回開催。42名の方がイベントに参加し、3組のカップル成立。</p> <p>●令和元年10月より海部庁舎3階に子育て支援センター「あのね」を開所。毎月様々なイベント等を開催し、子育て世代が交流や情報交換、相談ができる地域の子育て拠点として多くの方が利用している。令和元年度10月からの実績は、延べ899人の利用。</p>	海陽町

(2) だれもがいいきと暮らし、かがやく地域の創造

【プラン23】「地域の絆」によるまちづくりの推進

徳島県南部圏域振興計画第5章

ア 地域コミュニティの活性化	イ 精神障がい者ピアサポーターの養成・活動支援
ウ 障がい者の自立支援の推進	エ 生活困窮者の自立支援
オ 地域の共同活動促進による農地や農業用水等の保全	カ 企業・大学・NPOとの協働による農山漁村集落の活性化
キ 住民団体や企業等と連携した公共施設の新たな維持管理の推進	

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見		<p>県健康福祉祭の南部サテライト大会を実施することで、地域の高齢者がより参加しやすい環境を整備し、生きがいと健康づくりを推進した。</p> <p>実技を交えた勉強会の実施により、精神障がい者や関係者がピアサポートに活用できる技法を学ぶとともに、参加者同士での交流を深めることができた。</p> <p>生活保護受給者の稼働年齢層（15歳から64歳）のうち、就労可能な者に対して各関係機関と連携して重点的に就労支援を行い、保護脱却につなげた。</p> <p>農地等においては、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための共同活動（農地・農業用施設等の保全）に対し、交付金による支援を行うことで、3,022haの地域資源の保全が図られた。</p> <p>県管理河川・道路においては、官民協働で約17haの草刈りを実施し、「新たな維持管理システム」づくりにつながった。</p>	

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
精神障がい者ピアサポーターによる交流会等の実施回数 （累計） '17 - → '22 9回	-	1回	3回	6回	9回	◎
農地や農業用水などを保全するため共同活動に取り組む 地区面積 '17 3,075ha → '22 3,000ha	3,075ha	3,000ha	3,000ha	3,000ha	3,000ha	◎
		3,022ha				

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 NPO法人等の充実した活動の展開及び地域住民の社会貢献活動への参加・参画の促進を図り、NPO法人等市民活動団体の活性化と官民協働・連携の推進を図る。</p> <p style="text-align: right;">(ア)</p>	<p>■令和元年度取組 県民環境政策課、とくしま県民活動プラザと連携し、県民局管内のNPO法人等の活動の支援や活性化への支援を図った。</p> <p>■成果 NPO法人3団体の設立認証をした。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 人生経験の豊富な高齢者が子育て支援に参加することで、子どもやその親と世代間の交流が促進され、地域の子育て力の強化が図られることから、圏域内の子育て活動を実施しているシニア団体を支援するとともに、高齢者向けの研修会を実施する。 〈再掲〉 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 子育て支援活動を行うシニア団体・個人を表彰。 ■成果 子育て支援活動への協力意欲を高め、地域の子育て力の強化につながった。 〈再掲〉</p>	A	次世代育成・青少年課
<p>【施策③】 県健康福祉祭において地域における高齢者が参加しやすい環境を整備するとともに、高齢者の生きがいと健康づくりをさらに推進し、より多くの「元気高齢者づくり」を目指すため、「県南部、県西部サテライト大会」を開催する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 高齢者の生きがいと健康づくりのスポーツの祭典として、県内に広く定着している県健康福祉祭を、県南部地域や県西部地域の高齢者がより身近で参加しやすい大会とするため、南部・西部サテライト大会を実施。 ○南部サテライト大会 ・日時：令和元年10月5日ほか ・会場：那賀川河川敷明見グラウンドほか ・参加者数：884人（種目：グラウンド・ゴルフほか） ■成果 生涯スポーツへの機運醸成が図られたとともに、高齢者の健康と生きがいづくりの広域的な交流の機会を創出することができた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部 ダイバーシティ推進課
<p>【施策④】 地域の医療・福祉機関等と連携し、精神障がい者ピアサポーターの養成・支援体制を整備する。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 WRAP（元気行動回復プラン）体験コースを実施し、ピアサポートに活用できる技法を学ぶとともに、参加者同士での交流を深めた。 ■成果 WRAP体験コース参加者28名 ピアサポーター養成の基盤づくりが図られた。</p>	A	南部総合県民局 保健福祉環境部
<p>【施策⑤】 障がい者が高齢者等に対し、日用品等の移動販売や見守り活動を行うことにより、働く意欲と特性に応じ活躍できる場を創出し、地域に貢献する活動の推進を図る。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 「障がい者が繋ぐ地域の暮らし“ほっとかない”事業」として、中山間地の高齢者等への買い物支援や見守り活動に係る移動販売車導入を支援した。 ■成果 その結果、海部郡（牟岐町、美波町、海陽町）において、障がい者等が移動販売による地域の見守り活動等を実施した。</p>	A	障がい福祉課
<p>【施策⑥】 生活保護受給者をはじめ生活困窮者の自立を促進するため、ハローワーク等関係機関と連携して就労支援を推進する。 (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 生活保護受給者の稼働年齢層（15歳から64歳）の中から就労可能な25人を選定し、重点的に就労支援。 ■成果 6人が就労を開始し、うち3人が保護脱却に至った。</p>	B	南部総合県民局 保健福祉環境部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑦】 土地改良施設や農地等の保全及び農山漁村地域の活性化の推進に対し、理解と熱意を有する地域のリーダーとなる「ふるさと水と土指導員」の育成とその活動を支援する。〈再掲〉 (オ)</p>	<p>■令和元年度取組 農山漁村地域の活性化を図るため、那賀町、牟岐町及び美波町の4名の「ふるさと水と土指導員」が実施する地域活動（耕作放棄地への植栽による景観保全、都市住民との交流活動、レンゲ米等の栽培による地域活性化活動）を支援した。 ■成果 「ふるさと水と土指導員」が実施する地域活動の支援により、農山漁村地域の活性化が図られた。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農山漁村振興課
<p>【施策⑧】 過疎化や高齢化に悩む農山漁村集落と、社会貢献・地域貢献の一環として農山漁村地域を応援したい企業・大学・NPOとの協働による農山漁村の活性化に係る活動を「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」により支援する。 (カ)</p>	<p>■令和元年度取組 「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業」により応援を求める農山漁村集落と協働パートナーとの協働による農山漁村地域の維持保全活動（9回140人参加）を支援。 ■成果 農山漁村地域の活性化と都市住民等との交流が図られた。</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農山漁村振興課
<p>【施策⑨】 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮にあたり、農地・農業用水等の保全のため、地域の共同活動により行われる取組みや、中山間地域等における農業生産活動を推進する取組み等を支援する。〈再掲〉 (キ)</p>	<p>■令和元年度取組 多面的機能支払交付金を活用し、3,022haの農地に対する農業の多面的機能の維持・発揮のための地域協働活動を支援するとともに、中山間地域等直接支払交付金を活用し、758haの農地に対する営農活動を支援した。 これらの活動支援により「まちを支える地域づくり」を推進した。 ■成果 農地・農業用水等の保全のための地域の共同活動、中山間地域等における農業生産活動が促進した。〈再掲〉</p>	A	南部総合県民局 農林水産部 農山漁村振興課
<p>【施策⑩】 地域住民の河川・道路敷地の草刈り活動を支援し、その取組みを一層促進するため、公共施設の新たな維持管理を推進する。 (キ)</p>	<p>■令和元年度取組 県管理河川・道路において、官民協働による草刈りを実施した。 （阿南管内：河川21団体・92,765㎡、道路5団体・8,400㎡） （那賀管内：道路6団体・42,594㎡） （美波管内：河川1団体・1,500㎡、道路9団体・25,800㎡） ■成果 公共施設の「新たな維持管理システム」づくりにつながった。</p>	A	南部総合県民局 県土整備部
<p>【施策⑪】 ワーク・ライフ・バランスの向上や勤務形態の多様化に適切に対応するため、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用し、企業の従業員や個人テレワーカーが利用できる「テレワークセンター徳島」を拠点とした企業のテレワーク導入に向けた施策を積極的に展開するとともに、テレワーカー及びテレワークコーディネーターの養成を行うことで、テレワークの普及を図る。〈再掲〉(キ)</p>	<p>■令和元年度取組 「テレワークセンター徳島」では、テレワーク業務ができる「コワーキングスペース」等を備え、個人・企業の方々が利用できる環境を整備し、専用サイトによる情報発信や多様な働き方を広く紹介し、普及啓発を行うイベントを実施するとともに、雇用型テレワークの普及を図るため、テレワーク導入企業等からの相談対応、助言を行う「テレワークコーディネーター」の養成及び企業への派遣など、認知度を上げる取組みを推進し、普及啓発に取り組んだ。〈再掲〉 ■成果 テレワークの普及に取り組んだ。</p>	A	労働雇用戦略課

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●NPO法人との連携を図りながら、ボランティア活動の活性化を図るための情報提供や、活動支援を行う。</p> <p>●利活用可能な空き家物件情報の把握に努める。また、定住自立圏共生ビジョンの取組内容に基づき、圏域町と連携して空き家情報の連携体制を検討した上で情報の共有に努める。〈再掲〉</p> <p>●阿南市内各地域の伝統芸能、伝統文化を掘り起こし、共有の財産として後世に引き継ぐための施策を展開するとともに、広報あなんや市のホームページにより各地域の祭りを広く市民にPRする。</p>	<p>●ボランティア活動や地域づくり活動の活性化を図るために、情報提供や活動支援を行った。また、「ふるさとづくり基金」を活用し、4団体に対して市補助金を交付した。</p> <p>●四国の右下若者創生協議会委託の移住促進コーディネーターや市内の移住支援団体、地域おこし協力隊等と連携し、各市町の空き家情報を収集し、情報共有を図っている。平成29年度からは、移住相談者の希望物件情報を事前に登録し、宅地建物取引業協会と連携して、マッチングを行う情報提供サービスを運用している。〈再掲〉</p> <p>●阿南市に200年以上前から伝わる阿波人形浄瑠璃の人形座「中村園太夫座」による公演を実施。 文化的伝統芸能の調査を行い、文化財指定に向けての取組を実施し、国・県または市が文化財として指定する民俗芸能を、阿南市のホームページに一覧にして掲載。</p>	阿南市
<p>●コミュニティの維持・活性化のほか、産業の振興や後継者育成など地域にあった活動を実施するまちづくり協議会に対して必要な支援を行い、地域の特性を活かしながら、住みよいまちづくりを目指すことを推進する。</p> <p>●文化事業として、町内に多く存続する農村舞台で、「丹生谷清流座」などが人形浄瑠璃を公演する。昨年、襖からくりの修繕を行った辺川神社農村舞台も加え現在、公演が行える舞台（八面、拝宮、川俣、北川、辺川、鎌瀬、坂州）の7カ所の農村舞台を活用し、人形浄瑠璃を上演する。また、人形浄瑠璃以外の利用について模索する。</p>	<p>●コミュニティ助成事業を活用し、木頭まちづくり協議会に対し健康器具を購入、譲渡した。また、町内まちづくり協議会12団体に対しての補助を行った。</p> <p>●那賀町内5箇所〈八面・拝宮・北川・鎌瀬・坂州〉（※辺川は台風のため中止）の農村舞台において、人形浄瑠璃をメインとした農村舞台公演を行った。県内外より延べ1300人余りの観客が訪れ、各農村舞台の特性や地域性を活かした公演内容で農村舞台ファンを楽しませた。また、既存の農村舞台を活用した音楽公演（八面神社）を丹生谷清流座主催で継続して開催している。伝統文化を継承しつつ、文化資源の更なる可能性を探っている。</p>	那賀町
<p>●出羽島集落において、重伝建事業による町並み保存と空き家の多角的有効活用を並行して先行実施し、行政・地域・地域住民の受け入れ体制整備を推進する。</p> <p>●空き家を活用した交流施設の活用を実施する。</p>	<p>●出羽島交流施設「波止の家」貸館5回、来館者297人。</p>	牟岐町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●定住促進対策条例、小規模事業起業支援制度等の有機的連携を通じ、空き家や空き店舗等の再生による小さな経済の創出と集積による地域活性化を模索する。</p> <p>●少子高齢化が進行する地域において、介護予防をはじめ地域の見守り等に取り組む地域づくり団体を支援する。また、既存公共施設（美波町高齢者福祉センター）を改修し、高齢者をはじめ子ども等が気軽に集い、地域で支え合う拠点整備に取り組む。</p> <p>●地域コミュニティの維持、活性化のための地域おこし協力隊事業や地域づくり団体への各種支援を実施すると共に長期にわたる活動の実証や検証を行う。</p> <p>●にぎやかな過疎→「にぎやかそ」のブランド化と魅力あるまちづくりに向け、町と住民が一体となり取り組む。</p>	<p>●令和元年度には2件小規模事業起業支援制度を利用している。定住促進対策条例も併用し、桜屋を改修、宿泊施設をオープンした。もう1件は、新分野を起業するという、自然体験事業を山河内でオープンした。</p> <p>●遊休施設であった美波町由岐老人福祉センターの1階部分を活用した「まったりカフェ・みなみ」をオープンして3年が経過した。飲み物や軽食を振る舞って地域の独居高齢者らの憩いの場として定着させ、令和元年度は、地域おこし協力隊も招致し地域の活性化、高齢者の介護予防に努めた。</p> <p>●地域おこし協力隊を町内各種団体等に3名配置し、地域活性化に取り組んだ。また、地域づくり団体1件の事業に対し助成を行い地域活動の後支援を行った。</p> <p>●町長や町議会議員をはじめ、町職員の名刺に「にぎやかそロゴ」を採用したほか、バッジを付けてもらうなど職員での意識統一を図った。</p>	美波町
<p>●海陽町元気になる「和」条例の基本理念の1つである「活力ある地域づくり」実現するため、「海陽町集落右上がり事業」による、農水産物の出荷支援等の農水業振興と同時に買い物弱者対策及び高齢者の見守りサービスを行い、農山漁村の活性化を図る。</p> <p>●地域おこし協力隊事業を活用し、地域コミュニティの維持・活性化を図る。</p> <p>●耕作放棄地解消に向け、企業、NPOなどを含めた観光農業、グリーンツーリズムなどの多面的な取組みを推進する。また、農用地としての利用が困難な場合は、太陽光発電施設用地等としての利用など、耕作放棄地の有効活用を図る。</p>	<p>●集落右上がり事業「元気隊」により7,899千円の農産物を産直市等に集配し、高齢者等の活力づくりと産業振興に務めるとともに、高齢者の見守り活動を行った</p> <p>●令和元年度は、地域おこし協力隊として4名が従事し、1名が年度末に任期満了による退任をして、町内に移住し、起業する予定である。</p> <p>●徳島県農地中間管理機構と通じて、農地の集積して耕作者を募った。（貸主登録 25件 マッチング件数 2件）</p>	海陽町

【プラン24】だれもがかがやく未来に向けた学びの場の確保

徳島県南部圏域振興計画第4章 今後の取組み

ア 県立総合大学校南部校主催講座の充実・利便性向上
ウ 「牟岐少年自然の家」体験活動拠点化の推進

イ 人口減少に対応した小中一貫教育の推進
エ 高等教育機関との連携強化

プラン評価（事務局案）	順調	プラン評価（評価部会委員）	順調・要注視・要改善
事務局所見	<p>6大学が圏域内の大学サテライトオフィスを拠点としてフィールドワークや公開講座を行い、地域の課題解決や活性化に貢献したほか、県立総合大学校南部校において、大規模災害に備えるため、地域防災力の向上を図る「防災講座」や県民が地域に愛着と誇りを持ち、地域の魅力を再発見するとともに魅力を次の世代へ伝えていくことを目指した「南部の魅力再発見講座」など、圏域の特性を生かした講座を実施し、将来を担う地域の人材を育成することができた。</p> <p>牟岐少年自然の家等で海外大学生と県内外高校生が交流した「徳島グローバルキャンプ」、那賀高校森林クリエイト科における、国・県・町が連携した林業教育、地元企業と連携した商品開発など、地域資源を活かした人材育成にも取り組んでいる。林業教育では、林業職公務員、地域の林業関連産業への就職へつながった。</p>		

主要業績指標

（上段：目標、下段：実績）

主要業績指標項目	'17(H29)実績	'19(R1)	'20(R2)	'21(R3)	'22(R4)	'19(R1)達成度
県立総合大学校南部校主催講座数 〈'17〉 12講座 → 〈'22〉 20講座	12講座	20講座	20講座	20講座	20講座	◎
		25講座				
牟岐少年自然の家を拠点とした自然体験・交流体験等への参加者数（再掲） 〈'17〉 800人 → 〈'19~'22〉 年間900人	800人	900人	900人	900人	900人	◎
		857人				

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担当
<p>【施策①】 県立総合大学校南部校において、圏域の特性を活かした講座を充実させ、将来を担う人材の育成を図る。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 県立総合大学校南部校において、大規模災害に備えるため、地域防災力の向上を図る「防災講座」や、県民が地域に愛着と誇りを持ち、地域の魅力を再発見するとともに魅力を次の世代へ伝えていくことを目指した「南部の魅力再発見講座」を実施した。</p> <p>■成果 南部圏域における地域のビジネスや文化に関する講座を実施し、地域に根付き、次世代の担い手となる人材を育成した。</p>	A	南部総合県民局 地域創生部

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策②】 県立総合大学校の主催講座等をオンデマンド配信するなど、県民の生涯学習に関する利便性の向上や学習機会の充実を図る。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 県立総合大学校のホームページにおいて、ワンストップサービスによる総合大学校の講座情報の提供や、主催講座のインターネット配信などを行った。 また、自宅などに居ながら総合大学校の単位を取得できる「放送・ネット活用講座」を実施した。 ■成果 県民の生涯学習に関する利便性の向上や学習機会の充実が図られた。</p>	A	県立総合大学校本部
<p>【施策③】 大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、「大学等サテライトオフィス開設支援制度」を活用し、大学のサテライトオフィスを誘致し、地域に密着した教育・研究活動や地域貢献活動を支援する。 (ア)</p>	<p>■令和元年度取組 高等教育機関との連携を強め、6大学（徳島大学、四国大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、明治大学、神戸学院大学）が、4市町（阿南市、那賀町、美波町、海陽町）の7箇所のサテライトオフィスを活動拠点として「フィールドワーク講座」や「地域住民を対象とした公開講座」など、地域貢献活動を行った。 ■成果 県内外の大学のサテライトオフィスの誘致が進み、大学の有する知的・人的資源や社会貢献機能を活用して、地域の人材育成や課題解決が推進された。</p>	A	県立総合大学校本部
<p>【施策④】 急激に人口減少が進む中、小規模化する学校をコストをかけずに存続させ、かつ教育の質を保障するという「小中一貫教育（徳島モデル）」を県内に普及するため、県南部においてICTを活用した合同授業等に取り組む。 (イ)</p>	<p>■令和元年度取組 令和元年度における小中一貫教育実践地域の目標値であるパッケージスクール3地域、チェーンスクール7地域については、達成した。また、県南部の阿南市立椿町中学校区においては、3校をつないだテレビ会議システム（通称「ツバッキーTV」）を活用し、合同学習や出前授業の他、朝の学習活動、職員間の連絡などでも連携を図っている。 ■成果 このシステムの継続的な活用により、移動時間削減や、コミュニケーション力の向上などの成果がみられた。</p>	A	教育委員会
<p>【施策⑤】 牟岐少年自然の家を活用し、地域住民の参画を得て、地域の自然や文化活動を活かした自然体験、交流体験、食育等を推進する。〈再掲〉 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 牟岐少年自然の家を拠点とし、地域の特性を生かした活動を充実させるため、第三者運営委員会、運営協議会等を開催し、牟岐町渡船組合や牟岐町商工会、漁協、婦人会、高校生等、地域住民の協力を得て、様々な主催事業を実施。 ■成果 例年を上回るような参加者希望があった。後半は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2つの主催事業を中止とした。〈再掲〉</p>	A	教育委員会

主要施策・主要事業	令和元（'19）年度実施状況及び成果	評価	担 当
<p>【施策⑥】 外国人との交流や体験活動の機会を提供する際に、県南施設や観光資源などを有効活用し、小・中・高校生を対象にした英語によるキャンプ等を実施し、グローバル人材育成の取組みを行う。 (ウ)</p>	<p>■令和元年度取組 令和元年8月18日～24日の1週間、県立牟岐少年自然の家等で、県内外の高校生38名対象に、海外大学生を招へいし、英語を通して多様な価値観を持った国内外の同世代の若者と交流する「徳島グローバルキャンプ」を実施。交流プログラムでは語学学習だけでなく、行灯作り・藍染め・坐禅・海辺の町の散策など県南の伝統文化や自然体験を通して日本人としてのアイデンティティを育み、異文化交流を深めることで、グローバル人材育成の取組を行った。 ■成果 県南の伝統文化や自然体験を通して日本人としてのアイデンティティを育み、異文化交流を深めることで、グローバル人材育成を図った。</p>	A	教育委員会
<p>【施策⑦】 豊かな森林資源の未来を創造し、次代の循環型成長産業を担う人材を育成するため、県立那賀高校「森林クリエイト科」において、林業教育を基盤とした新たなキャリアパスシステムを構築し、推進する。（再掲） (エ)</p>	<p>■令和元年度取組 徳島森林管理署、南部総合県民局及び那賀町との連携・協力のもと、「労働安全衛生特別教育（チェーンソー、伐木）」の資格講習の受講、企業見学研修や中国四国農政局の出前授業を実施するなど、林業教育の充実を図った。また、地元木材加工会社と連携して、レーザー加工機等の設備を有効活用し、スマホスタンドなど商品開発に取り組んだ。 ■成果 国公立大学への進学や林業職の公務員、地域の林業関連産業への就職など、林業に関する様々な知識や技術を身に付けた人材を育成した。 <再掲></p>	A	教育委員会

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●大学との共同研究により、建築に携わる学生の人材育成を兼ねて空き家の利活用を進める。 ●大学生、高校生、中学生が主体となり、多様な学びの場づくりに取り組み、地域住民や外部支援者等との交流を通じて町を担う人材を創出する。</p>	<p>●空き家になった船戸荘を、徳島大学建築サークルAUTと地元事業者、連携事業者が限られた予算で利活用を実施するための改修工事について現地研修を行いながら施工した。 ●平成27年度の小中学校へのキャリア形成支援事業（シラタマ活動）を、平成28年度に高校生まで拡大（牟岐ローカルハイスクール）、平成29年度は事業の質を維持し職員異動があっても安定的に継続実施するため、中間支援組織（牟岐キャリアサポート）を設立し、NPO法人格を取得。事業の企画、運営及び地域住民、行政、学校、外部支援者（NPOひとつむぎ他）との中間的に支援し、体制を整備強化しながら継続して町内小中高生への人材育成を実施。</p>	牟岐町
<p>●門前町の再生、道の駅の魅力向上や新商品開発、南海トラフ地震・津波対策や事前復興まちづくり計画、点在集落の持続と活性化など、多様な分野において、それぞれ専門性を有する大学や研究者、学生等との連携を深める。</p>	<p>●県内大学のほか、神奈川大学、芝浦工業大学等連携し、それぞれの分野において地域住民とのワークショップや活動など連携を深めたほか、新たに昭和女子大学と町内の中高校生によりSDGsの調査研究を実施した。</p>	美波町

市・町関連施策	令和元（'19）年度実施状況及び成果	市町名
<p>●豊かな自然と地域資源（ストック）を活かして、教育機関と連携し、「山村留学」による小中学生の受け入れを実施する。</p> <p>●地域、大学及び行政の連携の下、地域をキャンパスに大学が授業を実施し、若者の発想や視点を活かした新たな地域活性化のための取組みを図る。</p>	<p>●地域資源を活用した「山村留学」による小中学生による受け入れ事業ができないかと農山村担当と協議したが実施には至らなかった。</p> <p>●県南キャンパス事業として、明治大学及び徳島大学と連携し、それぞれ町の課題解決につながる取組みを行った。明治大学との連携事業では、町内の農家や農業関連施設を訪問して聞き取りを行い、新規就農者の増加につながる手段を検討するとともに、地元高校生と交流事業を行い、町の魅力発掘に取り組んだ。徳島大学との連携事業では、浅川地区の建物悉皆調査を行い、その結果をもとに大地震発生時の避難ルート検討を地域住民と行う講習会を開催した。</p>	<p>海陽町</p>